

# 資 料

## 資料 1.

令和 5（2023）年度 中核的人材養成研修 募集要項

## 資料 2.

令和 5（2023）年度 中核的人材養成研修 事前オンデマンド講義に関するアンケート結果

## 資料 3.

令和 5（2023）年度 中核的人材養成研修 研修各回の講義スライドに関するアンケート結果

## 資料 4.

令和 5（2023）年度 中核的人材養成研修 ワークシート・実践報告フォーマット

# 中核的人材養成研修

国立のぞみの園では、令和4年度より「強度行動障害者支援のための指導的人材養成プログラムの開発および地域支援体制の構築のための研究」を実施しています。この研究は、強度行動障害支援における中核的人材や指導的（広域的支援）人材育成を中心とした地域支援体制構築の視点を整理し、実際に人材育成の取り組み（研修）を複数地域において試行・検証行うことで、全国での地域実装に向けたプロセスを明らかにすることを目的としています。

研究の一環とし、指導的（広域的支援）人材の養成を見据えた中核的人材養成研修を開催します。中核的人材養成研修は、“強度行動障害支援者養成研修”の内容を踏まえて、支援現場において適切な支援を実施し、組織の中で適切な指導・助言ができる人材の育成を目的としています。

## 開催日程とプログラム内容

- 各回、講義とグループ討議が中心です。
- グループ討議では、参加者の事業所の対象事例への支援の実践報告や支援にあたっての課題や工夫、支援内容の検討等を行っていきます。
- グループ構成は、参加者4名とサブトレーナー・トレーナー各1名を予定しています。
- 各回の間には、グループチャットを活用して質疑、情報共有ができます。
- 対象事例に関する事前・事後課題、各回の間に行う実践課題等の提出がございます。

開催方法	日程	内容
オンライン研修	第1回 11月7日（火） 9:30～12:00	【講義：60分】 チーム支援の事例・管理者の役割 【演習：90分】 自己分析（事業所の支援状況・環境・チーム状況 等）
	第2回 12月4日（月） 9:30～12:00	【講義：60分】 「環境調整」について 【討議：90分】 事例の「環境調整」アセスメント・支援方針説明+改善案を討議
	第3回 12月25日（月） 9:30～12:00	【討議：90分】 第2回を踏まえた事例への「環境調整」の実践報告 【講義：60分】 「環境調整（構造化）」支援を改善する視点
	第4回 1月11日（木） 9:30～12:00	【講義：60分】 「コミュニケーション」について（機能的アセスメント） 【討議：90分】 事例の「コミュニケーション」アセスメント・支援方針説明+改善案を討議
	第5回 2月6日（火） 9:30～12:00	【講義：60分】 「コミュニケーション」支援を改善する視点 【討議：90分】 第4回を踏まえた事例への「コミュニケーション」支援の実践報告
集合研修	第6回 3月15日（金） 12:30～15:30	【演習：60分】 自己分析（事業所の支援状況・環境・チーム状況 等） 【実践報告会：120分】

## ■ 研修の到達目標

強度行動障害支援者養成研修で示されている標準的支援（アセスメントと環境調整）について、自己分析、各支援現場のチームで実践をし、支援内容・困りごと等を指導的人材に相談できるようになること。

## ■ お申込みについて

今年度の研修は、試行的な研修となります。受講対象につきましては、令和4年度の調査研究において、協力意向のあった各自治体を対象にしておりますことを、申し添えさせていただきます。

## 概要・申込み方法

開催方法	オンラインおよび集合
募集人数	40名（各自治体4名を選出） ※定員を上回る応募があった場合は、地域のバランス等を考慮し、選考させていただきます。
参加費	無料（予定） ※第6回目の実践報告会の旅費は受講者負担となります。
募集要件 ※①～⑤全てを満たす者	① 強度行動障害支援者養成研修（実践研修）を修了し、内容を十分に理解している者 ② 強度行動障害の状態にある利用者の直接的な支援を行っており、事業所において支援の中核的な役割を担っている（その予定を含む）者 ③ 事業所所属長の承諾を得て、全回参加し、事例報告ができる者 ④ 事業所所属長又はそれに代わる者が、第1回目の研修・実践報告会に参加可能であり、研修参加後の職場体制整備に前向きであること ⑤ グループワークをいたしますので、6回欠席せず必ず参加
申込方法	必要事項をご記入の上、自治体ごとにとりまとめの上、お申込みをお願いいたします。
申込期日	9月28日
参加決定	文書にて「参加決定通知」を郵送いたします。
個人情報の取り扱い	本研修に関する個人情報は、国立のぞみの園が適切に管理します。
その他	本研修では、課題の提出、質疑等グループチャットを用いて情報共有等を行います。機器など事業所でご準備ください（対応が難しい場合にはご相談ください）

### ★ 参加する皆様へお願い★

行動障害がある実際の事例を用いて、支援の実施、記録、検討等を行っていきます。参加にあたっては、事例対象者への説明と同意書の提出が必要となります。  
※参加が決定した方には同意書をお送りしますので、事例対象者へ説明のうえ、同意書の提出をお願いします。

事前オンデマンド講義①「研修の概要」  
受講者アンケート結果

スライド	回答数 (n=39)		割合
<p><b>1. 中核的人材養成研修が、なぜ必要か</b></p> <p>強行研修修了者<sup>※</sup> 基礎修了者 104,484人 (2013~2021年) 実践修了者 55,697人 (2014~2021年) 研修修了者は一定数確保できた</p> <p>しかし、実践を持続している事業所は一部(80%) 実践を持続できるようにするための研修が必要!</p> <p>2023年度へ 中核的人材養成研修 開催</p> <p>※強行研修→強行行動障害支援者養成研修</p>	<p>■このままでよい</p> <p>■改善点あり</p> <p>■不要</p>	<p>33</p> <p>6</p> <p>0</p>	
<p><b>2. 中核的人材の役割</b></p> <p>其の1 強行研修の内容を事業所内の支援チームに説明できる 其の2 強行研修の内容をチームで実践できる 其の3 コンサルテーションを活用しながら実践が持続ができる 其の4 法人内の他事業所のサポートができる</p> <p>参考 広域的支援人材の役割 其の1 都道府県内の事業所のサポートができる 其の2 他県のサポートができる(当面)</p> <p>※広域的支援人材=広域的人材</p>	<p>■このままでよい</p> <p>■改善点あり</p> <p>■不要</p>	<p>37</p> <p>2</p> <p>0</p>	
<p><b>3. この研修で、何を学ぶのか</b></p> <p>体験型研修</p> <p>其の1 強行研修で学んだ内容(標準的な支援)を、チームで実施し続けるための方法 其の2 コンサルテーションの活用方法</p> <p>図2 体験型研修のイメージ</p> <p>※強行研修→強行行動障害支援者養成研修</p>	<p>■このままでよい</p> <p>■改善点あり</p> <p>■不要</p>	<p>37</p> <p>1</p> <p>1</p>	
<p><b>4. 中核的人材養成研修の登場人物と役割</b></p> <p>ディレクター ※広域的支援人材 トレンナー ※広域的支援人材 事務局</p> <p>同じ自治体 サブトレーナー ※広域的支援人材候補 受講者 ※中核的人材候補 自治体職員</p>	<p>■このままでよい</p> <p>■改善点あり</p> <p>■不要</p>	<p>38</p> <p>1</p> <p>0</p>	
<p><b>5. 研修当日までの流れ</b></p> <p>●受講自治体の決定 ●研修プログラムの作成 ●事前課題</p>	<p>■このままでよい</p> <p>■改善点あり</p> <p>■不要</p>	<p>37</p> <p>1</p> <p>1</p>	
<p><b>6. グループ討議時の トレーナー・サブトレーナーの役割</b></p> <p>①トレーナーの動きを学ぶ ②討議の進行を任せずとも大丈夫とトレーナーが判断したら討議を進行</p> <p>①利用者のQOLを考えているか ②チームで動いているか ③上司やコンサルに、①②を説明できるか</p> <p>討議のサポート等 地域で強行行動障害者を支援できる事業所の養成やネットワークの構築</p>	<p>■このままでよい</p> <p>■改善点あり</p> <p>■不要</p>	<p>39</p> <p>0</p> <p>0</p>	

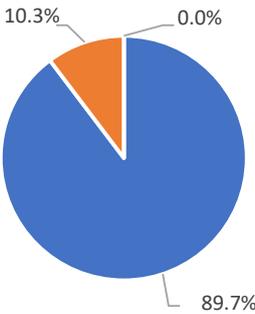
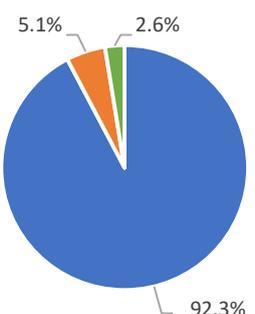
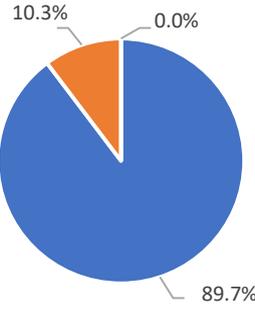
7. 各回の概要			
<b>第1回目 (2.5H)</b> 		■このままでよい 38 ■改善点あり 1 ■不要 0	
<b>第2回目 (2.5H)</b> 		■このままでよい 36 ■改善点あり 3 ■不要 0	
<b>第3回目 (2.5H)</b> 		■このままでよい 37 ■改善点あり 2 ■不要 0	
<b>第4回目 (2.5H)</b> 		■このままでよい 36 ■改善点あり 3 ■不要 0	
<b>第5回目 (2.5H)</b> 		■このままでよい 37 ■改善点あり 2 ■不要 0	
<b>第6回目 実践報告会 (3.0H)</b> 		■このままでよい 37 ■改善点あり 2 ■不要 0	
<b>8. 研修修了後のフォローアップ体制</b> 		■このままでよい 36 ■改善点あり 3 ■不要 0	

# 事前オンデマンド講義②「強度行動障害に支援における標準的な支援」アンケート結果

スライド	回答数	割合														
<p><b>(参考) 強度行動障害を有する者への標準的な支援</b></p> <p>(強度行動障害を有する者の地域支援体制に関する検討会報告書(令和5年3月30日)より)</p> <p>○(年報) 強度行動障害を有する者の支援にあたっては、知的障害や自閉スペクトラム症の特性など個人個人と、どのような環境のもとで強度行動障害を引き起こしているのかを明らかにして分析していくことが重要となる。この分析結果の踏まえアセスメントし、強度行動障害を引き起こしている環境要因を調整していくことが強度行動障害を有する者の支援において標準的な支援である。</p> <p><b>標準的な支援</b> 障害特性を踏まえた*機能的アセスメントを行い、強度行動障害を引き起こしている環境を調整する *機能的アセスメント 課題となっている行動がどのような意味(機能)をもっているかをみる</p> <p><b>機能的アセスメント</b> 課題となっている行動がどのような意味(機能)をもっているかをみる 不安や緊張から 逃れたい 不安や緊張を 伝えたい 不安や緊張に 気づいてほしい でも方法がわからない 気持ちを <b>行動</b> で表す</p> <p><b>標準的な支援のためのアセスメント</b></p> <p><b>障害特性のアセスメント</b> 【個々に備った自閉症の特性】 ここでは、自閉症の特性を次のように整理しています。 ●社会的特性 ●コミュニケーションの特性 ●知覚の特性 ●情緒の特性 【認知・記憶】【注意・注意】【運動】も確認することもあります</p> <p><b>機能的アセスメント</b> 【課題となっている行動がどのような意味(機能)をもっているかをみる】 不安や緊張から 逃れたい 不安や緊張を 伝えたい 不安や緊張に 気づいてほしい でも方法がわからない 気持ちを <b>行動</b> で表す</p> <p><b>家庭環境のアセスメント</b> 家庭支援を進めることも必要であり、家庭環境のアセスメントも行い、家族も含めて、固り感やニーズの把握</p>	<p>このままでよい 37</p> <p>改善点あり 2</p> <p>不要 0</p>	<p>5.1%</p> <p>0.0%</p> <p>94.9%</p>														
<p><b>強度行動障害を有する者への支援の考え方</b></p> <p>ICF (国際生活機能分類) は International Classification of Functioning, Disability and Health (ICF) (WHO/WHO)</p> <p>WHOによって採択されたICF (国際機能分類)では、「障害」の背景因子について、個人因子と環境因子という観点で説明</p> <p>○強度行動障害を有する者への支援にあたっては、知的障害や自閉症の特性などの個人因子とどのような環境で強度行動障害が引き起こされているのかの環境因子を合わせて分析していく</p> <p>○個々の障害特性をアセスメントし、強度行動障害を引き起こしている環境要因を調整していくことが、強度行動障害を有する者への支援において標準的な支援である</p>	<p>このままでよい 39</p> <p>改善点あり 0</p> <p>不要 0</p>	<p>0.0%</p> <p>0.0%</p> <p>100.0%</p>														
<p><b>標準的な支援のためのアセスメント</b></p> <p><b>障害特性のアセスメント</b> 【個々に備った自閉症の特性】 ここでは、自閉症の特性を次のように整理しています。 ●社会的特性 ●コミュニケーションの特性 ●知覚の特性 ●情緒の特性 【認知・記憶】【注意・注意】【運動】も確認することもあります</p> <p><b>機能的アセスメント</b> 【課題となっている行動がどのような意味(機能)をもっているかをみる】 不安や緊張から 逃れたい 不安や緊張を 伝えたい 不安や緊張に 気づいてほしい でも方法がわからない 気持ちを <b>行動</b> で表す</p> <p><b>家庭環境のアセスメント</b> 家庭支援を進めることも必要であり、家庭環境のアセスメントも行い、家族も含めて、固り感やニーズの把握</p>	<p>このままでよい 38</p> <p>改善点あり 1</p> <p>不要 0</p>	<p>2.6%</p> <p>0.0%</p> <p>97.4%</p>														
<p><b>標準的な支援のための環境調整</b></p> <p>自閉症は脳の機能的障害</p> <p><b>支援のアイデア</b> 目で見てわかる支援が基本</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>6つの情報</th> <th>5つの工夫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>いつ</td> <td>時間の工夫</td> </tr> <tr> <td>どこで</td> <td>場所の工夫</td> </tr> <tr> <td>なにを</td> <td>方法の工夫</td> </tr> <tr> <td>どのくらい</td> <td>やりとりの工夫</td> </tr> <tr> <td>つぎは</td> <td></td> </tr> <tr> <td>どうやって</td> <td>見え方の工夫</td> </tr> </tbody> </table>	6つの情報	5つの工夫	いつ	時間の工夫	どこで	場所の工夫	なにを	方法の工夫	どのくらい	やりとりの工夫	つぎは		どうやって	見え方の工夫	<p>このままでよい 38</p> <p>改善点あり 1</p> <p>不要 0</p>	<p>2.6%</p> <p>0.0%</p> <p>97.4%</p>
6つの情報	5つの工夫															
いつ	時間の工夫															
どこで	場所の工夫															
なにを	方法の工夫															
どのくらい	やりとりの工夫															
つぎは																
どうやって	見え方の工夫															
<p><b>標準的な支援の効果</b></p> <p>強度行動障害支援技術のコンセンサス①</p> <p>成果は 高い</p> <p>「3つのグループごとの標準的な支援の成果の判断」</p> <p>標準的な支援で機能改善があると判断されているのは「時間の工夫」「場所の工夫」「方法の工夫」「やりとりの工夫」(4項目)であり、「見え方の工夫」(1項目)は「発達支援」(1項目)と「標準的な支援」(1項目)の両方で機能改善が認められている。標準的な支援の効果は高いと判断されている。</p>	<p>このままでよい 36</p> <p>改善点あり 2</p> <p>不要 1</p>	<p>5.1%</p> <p>2.6%</p> <p>92.3%</p>														
<p><b>標準的な支援をチームでより機能させるポイント</b></p> <p><b>支援手順書</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事業所内でのわかりやすさを統一して、標準的な支援を一貫して提供することが重要</li> <li>客観的な記録から支援の効果を確認し、PDCAサイクルを機能させる</li> </ul> <p><b>外部専門家の指導・助言の活用</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>困難なケースは自分たちのチームだけで抱えず、事業所の課題、地域の課題として考えていく</li> <li>外部専門家を活用することで自分たちの支援の検証や新たな支援のアイデアを取り入れる</li> </ul> <p><b>予防的な支援</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>強度行動障害にならないよう予防的な支援が必要</li> <li>自閉症の方たちが十分に発揮できるように日頃から、標準的な支援を実施する</li> </ul> <p><b>連携との連携</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>強度行動障害の状況を把握により完全に治すことは難しく、日頃から医療と福祉の相互の連携を強化していくことが重要であり、連携した支援をすすめる</li> </ul>	<p>このままでよい 38</p> <p>改善点あり 1</p> <p>不要 0</p>	<p>2.6%</p> <p>0.0%</p> <p>97.4%</p>														

# 事前オンデマンド講義③「養成研修の基本視点と全体像」 アンケート結果

スライド	回答数		割合
<p><b>本研修の基本視点と全体像</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本人ではなく環境に働きかける支援（環境を変える＝環境調整支援）</li> <li>・自閉スペクトラム症の「世界の捉え方」に基づく予防的環境調整支援</li> <li>・課題となる行動の軽減だけでなく「本人のQOL向上」を目指す</li> <li>・生活全体の見直し＝快適でQOLの高い暮らしを提供する</li> <li>・課題となる行動に直結する環境要因を見つけて「行動」の意味を知る</li> <li>・快適な生活があって理解者が身近にいる安心感＝本人視点の支援</li> </ul>	<p>■このままでよい</p> <p>38</p>		
<p>■改善点あり</p> <p>1</p>			
<p>■不要</p> <p>0</p>			
<p><b>標準的支援とは環境調整支援である</b> (参考) 強度行動障害を有する者への標準的な支援</p> <p><small>(強度行動障害を有する者の地域支援体制に関する検討会報告書(令和5年3月30日)より)</small> ○(中略) 強度行動障害を有する者への支援にあたっては、知的障害や自閉スペクトラム症の特性など個人因子と、どのような環境のもとで強度行動障害を引き起こされているのか(環境因子をある程度分析していくことが重要となる。こうした様々な障害特性をアセスメントし、強度行動障害を引き起こしている環境要因を調整していくことが強度行動障害を有する者への支援において標準的な支援である。</p> <p><b>強固となつている行動の例</b> ・先の指通しが続かず両手予定を繰り返す ・顔に触手で触れたい傾向に「人払い」 ・「扉」が閉められず意欲を喚起してしまう など</p> <p><b>本人の特性</b> 自閉スペクトラム症や知的障害など個人の障害特性</p> <p><b>環境・状況</b> 状況が変化しやすくなる原因となっている環境や状況</p> <p><b>標準的な支援</b> 障害特性を踏まえた*機能的アセスメントを行い、強度行動障害を引き起こしている環境を調整する *機能的アセスメント 課題となっている行動がどのような意味(機能)をもっているかを調べる</p> <p><b>予防的支援の重要性</b> (強度行動障害を有する者の地域支援体制に関する検討会報告書より) ○<b>予防的観点</b>を込めて標準的な支援を行うことが必要 ○強度行動障害を引き起こさなくても良い支援を<b>日常的</b>におこなうことが重要 ○支援者、家族、教員等の関係者が、標準的な支援の知識を共有し、地域の中に拡げていくことが重要</p>	<p>■このままでよい</p> <p>38</p>		
<p>■改善点あり</p> <p>1</p>			
<p>■不要</p> <p>0</p>			
<p><b>「予防的支援」が重要である理由</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・強度行動障害を引き起こさなくてもよい支援を日常的に行うことが重要</li> </ul> <p>↓ <i>日々の支援の大切さを改めて強調するのは</i></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知的障害や自閉スペクトラム症(ASD)の人たちは <u>日々の当たり前な生活(と周囲の私達が感じる生活)</u> の中でも、<u>混乱や不安に陥りやすい</u>から。</li> </ul> <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「<u>混乱や不安</u>」に陥りやすいのはどうして? その理由を次のスライドでお伝えします…。</li> </ul>	<p>■このままでよい</p> <p>39</p>		
<p>■改善点あり</p> <p>0</p>			
<p>■不要</p> <p>0</p>			
<p><b>混乱や不安に陥りやすい理由とは?</b></p> <p>自閉スペクトラム症の人たちは <u>周りの状況を整理して捉えられない</u>から</p> <p>お昼休みの教室を想像してみてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①クラスのみんなが思い思いにいろんなことをしています。</li> <li>②でもASDの人の目には、それは「<u>混乱や錯綜</u>」と映ります。</li> <li>③それぞれの過ごし方を整理して捉えられないからです。</li> <li>④その結果「<u>情報が多すぎる</u>」という体験になってしまい、</li> <li>⑤いっばいいっぱいになって気持ちが混乱してしまいます。</li> <li>⑥耐えきれず「<u>ワーッ</u>」と叫んで耳をふさぐかもしれません。</li> </ol> <p>ここに書いたことは、知的障害がない場合でも、自閉スペクトラム症の子どもたちや人たちが体験しがちな状況です。知的能力をフル回転させても、混乱の中に投げ込まれそうになります。ましてや、知的障害を伴っている人たちの場合は、「<u>混乱や錯綜</u>」がその人を容易に打ちのめしてしまうのです。</p>	<p>■このままでよい</p> <p>36</p>		
<p>■改善点あり</p> <p>3</p>			
<p>■不要</p> <p>0</p>			

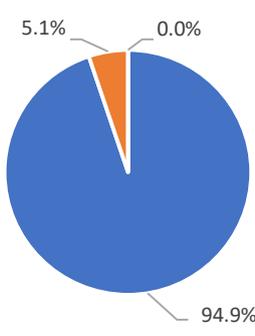
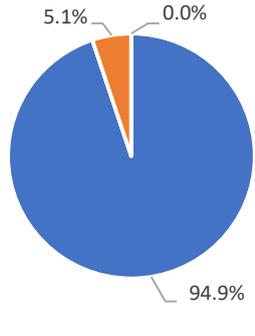
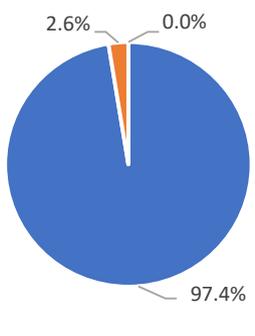
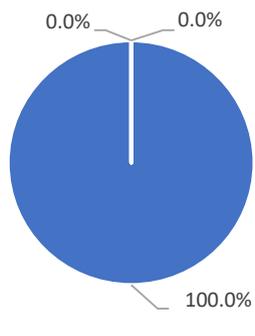
<p>ここで一旦、研修動画を一時停止して、英国自閉症協会が作成したビデオを視聴してください。ASDの人たちの日々のつらさが実感できるはずですよ。</p> <p>英国自閉症協会が先のスライドで述べたようなASDの人たちの体験を擬似的に追体験できる動画を公開しています。ショッピングモールを母親と訪れたASDの子どもの疑似体験動画です。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>別添のワードファイルに動画のリンクを記載しています。 「あなたなら最後まで耐えられますか？」 (Can you make it to the end?) というタイトルの1分半程度の短い動画です。 PC画面に少し近づいて見てもらうと、より実感できます。</p> </div>	<p>■このままでよい</p> <p>37</p>	<p>■改善点あり</p> <p>2</p>	<p>■不要</p> <p>0</p>	
<p>ビデオを視聴してどう感じましたか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ASDの人たちの日々の体験がとても混乱していて、落ち着かないものであることを実感していただけたと思います。</li> <li>このビデオのようなASDの人たちの体験は             <ol style="list-style-type: none"> <li>「周りの状況を整理して捉えられない」ことに加えて、</li> <li>「過敏さと鈍さが入り混じるバランスの悪い感覚体験」に由来することもわかっていただけたと思います。</li> </ol> </li> <li>だからASDの人たちの予防的支援としては、             <ol style="list-style-type: none"> <li>「わかりやすい環境」 =必要な情報が得やすい整理された環境</li> <li>「穏やかに落ち着ける環境」 =不要で雑多な刺激をできるだけ排した環境が大きな二本柱になります。</li> </ol> </li> <li>次のスライドでは、これも英国自閉症協会 (NAS) が出している「Too Much Information」(情報が多すぎる)のイラストをお見せします。日々の辛さが伝わってきますね。</li> </ul>	<p>■このままでよい</p> <p>35</p>	<p>■改善点あり</p> <p>4</p>	<p>■不要</p> <p>0</p>	
<p>英国自閉症協会のTMIキャンペーンのイラスト</p> <p><a href="#">The National Autistic Society launches 'Too Much Information' campaign - Autism Europe</a></p> 	<p>■このままでよい</p> <p>36</p>	<p>■改善点あり</p> <p>2</p>	<p>■不要</p> <p>1</p>	
<p>TMIで混乱しやすい人と関わるコツ(1)</p> <p>※整理されていない込み入った環境は分かりづらい → <b>すっきりわかる整理された環境の提供</b> =環境をわかりやすく調整する支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>出来事の意味がわかりづらいので「察すること」が苦手 → 自然な体験の積み重ねでは「察する力」が育たない (暗黙学習の困難) =暗黙の理解が難しい。 → 「実際に見ればわかりやすい」ので<b>見せて伝える</b>。</li> <li>次々と聴こえてくる話し言葉を整理して捉えるのが難しい → コミュニケーションでの<b>聴覚情報処理が難しい</b>。 → 「実際に見ればわかりやすい」ので<b>見せて伝える</b>。</li> <li>TMIの混乱を回避するため処理する情報を限定してしまう → だから一般大多数とは<b>注意の動きが違う(一点集中)</b> → そして、必要な情報を的確に絞り込むことはできない。 → <b>情報を強調して自立させる、情報量を少なくする、情報が伝わりやすいように環境を整理整頓する。</b></li> </ul>	<p>■このままでよい</p> <p>35</p>	<p>■改善点あり</p> <p>4</p>	<p>■不要</p> <p>0</p>	

<p><b>TMIで混乱しやすい人と関わるコツ(2)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• TMIで情報過多なので臨機応変や試行錯誤は困難(状況に応じて<b>適切な行動を計画・実行する機能の弱さ</b>) <ul style="list-style-type: none"> <li>→ いつも決まったやり方を同じように繰り返すのは得意</li> <li>→ <b>ルーティン作業をしやすい場面を設定する。</b></li> <li>→ <b>作業ルーティンの変更は場面全体の調整で行う。</b></li> </ul> </li> <li>• TMIで人の気持ちを捉える手がかりを適切に絞り込めない <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 他者の意図に気づいたり察知したりすることの難しさ</li> <li>→ その場その場で共有されているルール理解の難しさ(<b>社会的認知の困難</b>)</li> <li>→ <b>その場のルールやその時々気持ちを「見える化」する</b></li> </ul> </li> <li>• <b>そして感覚の過敏さや鈍さによる感覚体験のバランス不全</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 穏やかな安定した感覚体験が維持できない。</li> <li>→ 心理的に落ち着けず不安な状態になりやすい。</li> <li>→ <b>本人が穏やかに落ち着ける感覚を得る環境の提供</b></li> </ul> </li> </ul>	<p>■このままでよい</p> <p>■改善点あり</p> <p>■不要</p>	<p>36</p> <p>3</p> <p>0</p>	
<p>「TMIで混乱しやすい人と関わるコツ」としてお伝えした内容は、研修講義の「アセスメントから環境調整へ」の中で、「学習スタイル」というタイトルでより詳しい説明がなされます。このタイトルには、</p> <p>「ASDの人たちの学習スタイルに合った環境調整を行えば、彼らも周囲の状況を理解して、周囲の状況について学んでいきやすい。」</p> <p>という意味が込められています。</p> <p>※この事前オンデマンド研修(1)の内容は概略版です。</p>	<p>■このままでよい</p> <p>■改善点あり</p> <p>■不要</p>	<p>38</p> <p>1</p> <p>0</p>	
<p><b>「日常の快適さ」と「課題となる行動」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 強度行動障害=課題となる行動が激しく頻りに起こる状態</li> <li>• 周囲にとっては「課題となる行動」ですが、本人にとっては「その行動することに意味がある行動」です。</li> <li>• 例えば、何か特定の物がほしい、何かをしてもらいたい、嫌なものを遠ざけたい、特定の感覚がほしい、などなど。</li> <li>• 多くの場合、これらの「希望」が叶わない状況の中で「課題となる行動」が発生してきます。</li> <li>• つまり、課題となる行動をする人は「快適ではない状況」を脱して「快適な状況」に向かおうとしている、と考えられます。</li> </ul> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>「日常が快適なら課題となる行動は決して起こらない」とは言えません。しかし「快適さを欠く日常の中では、課題となる行動が起こりやすくなる」とは考えられます。</p>	<p>■このままでよい</p> <p>■改善点あり</p> <p>■不要</p>	<p>36</p> <p>3</p> <p>0</p>	
<p><b>私達の日常感覚で考えてみる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 毎日毎日、不快な思いをすることばかりだったら、ちょっとしたことで腹が立ったり、シューンって落ち込んだり、そんな感じになるのは、人に共通の出来事ですよね。</li> <li>• でも、快適な生活を日々送ってれば、ちょっとしたことで気持ちが大きく崩れず、まあまあ、やり過ごしている。</li> </ul>	<p>■このままでよい</p> <p>■改善点あり</p> <p>■不要</p>	<p>38</p> <p>1</p> <p>0</p>	

## 強度行動障害の人たちへの支援

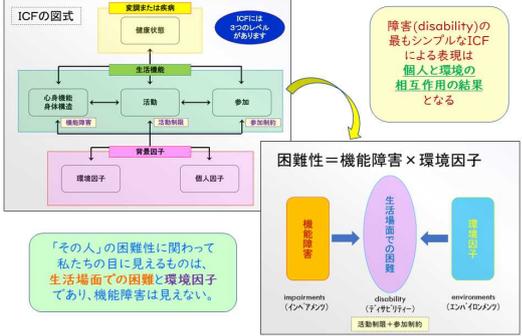
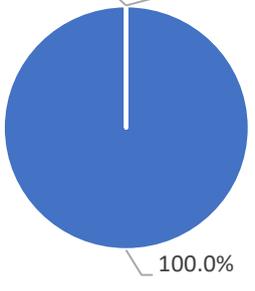
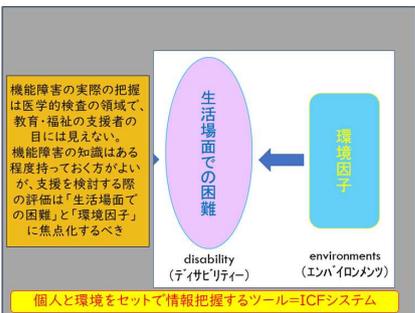
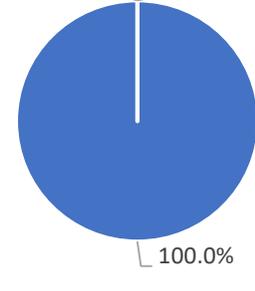
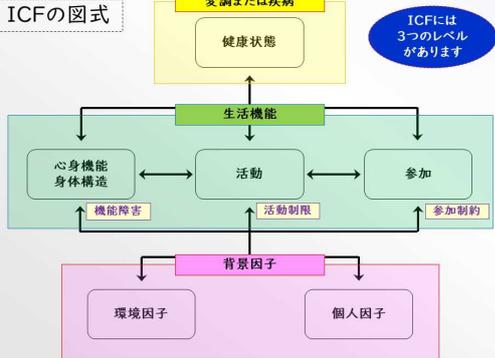
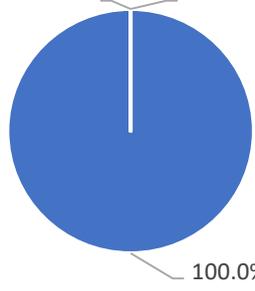
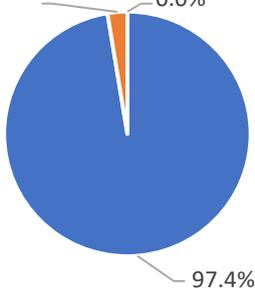
- 課題となる行動の軽減にとどまらず…  
日々の生活のQOL向上に向けた支援が必要不可欠
- QOL向上を実現する「3つの環境調整支援」
  - ①課題となる行動の軽減に向けた機能的アセスメントによる環境調整支援
  - ②ASDの世界の捉え方(学習スタイル)に基づいた環境調整支援
  - ③ICFの観点を援用した「生活全体の評価」を通じた快適な生活を実現する環境調整支援
- 3つの環境調整支援は相互に補完しあうもの
  - (a) 特定の場面で起こっている「課題となる行動」が軽減された状態が維持されるには、より広く生活全体の快適さが必要。
  - (b) ASDの観点だけでなく、その人の生活全体を評価するというICFの観点からの検討を加えることで、その人に固有の生活に根ざした環境調整支援が実現できる。

■このままでよい	34	
■改善点あり	5	
■不要	0	
<b>①機能的アセスメントによる環境調整支援(1)</b>		
■このままでよい	37	
■改善点あり	2	
■不要	0	
<b>①機能的アセスメントによる環境調整支援(2)</b>		
■このままでよい	37	
■改善点あり	2	
■不要	0	
<b>②ASDの世界の捉え方に基づく環境調整支援</b>		
■このままでよい	38	
■改善点あり	1	
■不要	0	

<p>③ICFの観点による環境調整支援(1)</p> <p>➤QOLの向上を目指した生活全体の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ASDの観点だけでなく、その人の生活全体を評価 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ ASDではなく一個人としてのその人の生活を豊かにする。</li> </ul> </li> <li>✓支援者視点ではなく「その人の視点」に立って生活を見直す。</li> <li>✓「活動と参加」「環境因子」を網羅的に把握するICFの特長を活かして、生活全体のQOL状況を把握し、<b>快適な生活を提供</b>。</li> </ul> <p>➤<b>快適な生活の手がかりを日々の活動や参加から探る</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓日々の活動でその人が困難を感じていることはあるか？</li> <li>✓その困難さが軽減される支援(支援的環境や支援の働きかけ)はあるか？</li> <li>✓その「支援」で、その人の困難さはどの程度軽減されるか？</li> </ul> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>✓その人の困難さが軽減される「支援」は生活に満ちているか？</p>	<p>■このままでよい</p> <p>■改善点あり</p> <p>■不要</p>	<p>37</p> <p>2</p> <p>0</p>	
<p>③ICFの観点による環境調整支援(2)</p> <p>➤<b>快適な生活の手がかりを生活の環境要因から探る</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓生活の快適さが損なわれる「環境因子」があるか？ <ul style="list-style-type: none"> <li>→ (快適な生活の)阻害的環境因子の把握 例えば、使いづらい生活用品とか気になる生活雑音とか</li> </ul> </li> <li>✓生活の快適さを支えてくれる「環境因子」があるか？ <ul style="list-style-type: none"> <li>→ (快適な生活の)促進的環境因子の把握 例えば、使いやすい生活用品とか穏やかになれる音楽とか</li> </ul> </li> </ul> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>✓阻害的環境因子が少なく(できれば皆無)で、促進的環境因子に満ちた生活となっているか？</p> <p>➤「活動と参加」そして「環境因子」の両面から生活を支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓日々の生活は高いQOLの<b>快適な生活</b>になっていて、その人はwell-being(幸せで満たされた感覚)を感じているか？</li> </ul>	<p>■このままでよい</p> <p>■改善点あり</p> <p>■不要</p>	<p>37</p> <p>2</p> <p>0</p>	
<p>こんな支援環境・生活環境では 課題となる行動が激しく頻発する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>課題となっている行動は 容易に発生し激しさも増していく</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>本人の特性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ASD症状</li> <li>3つ組み特性</li> <li>ASDの学習スタイル</li> </ul> <p>状況を整理して捉えられず 多くの情報が入ってきてしまう (Too Much Information)</p> </div> <div style="width: 45%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ASDの困難さを増悪する環境・状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・整理されないごちゃごちゃの環境</li> <li>・見せて伝えず、状況の察知を求める</li> <li>・見せて伝えず、話し言葉を多用</li> <li>・多くの情報量を一度に/次々と示す</li> <li>・必要な情報ははっきりと見えない</li> <li>・状況が変転し臨機応変を求める</li> <li>・ルールや気持ちを見て伝えず、察することを求める</li> <li>・うるさく雑然とした落ち着かない環境</li> </ul> </div> </div> <p style="font-size: small; text-align: center;">生活全般の活動・参加と環境因子の見直しがなく、快適さに欠ける環境・状況</p>	<p>■このままでよい</p> <p>■改善点あり</p> <p>■不要</p>	<p>38</p> <p>1</p> <p>0</p>	
<p>こんな支援環境・生活環境なら 課題となる行動は発生しづらい</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>課題となっている行動は発生しづらい</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>本人の特性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ASD症状</li> <li>3つ組み特性</li> <li>ASDの学習スタイル</li> </ul> <p>状況を整理して捉えられず 多くの情報が入ってきてしまう (Too Much Information)</p> </div> <div style="width: 45%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ASDの困難さを軽減する環境・状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境を整理してわかりやすく</li> <li>・見せて伝えてわかりやすく</li> <li>・見せて伝えず、状況の察知を求めない (話し言葉よりも絵や写真カード)</li> <li>・情報を調整してわかりやすく (目立たせる、情報量を少なくする)</li> <li>・同じやり方の繰り返しでわかりやすく</li> <li>・ルールや気持ちを覚えてわかるように伝えてわかりやすく</li> <li>・穏やかに落ち着ける環境の提供</li> </ul> </div> </div> <p style="font-size: small; text-align: center;">生活全般の活動・参加と環境因子の見直しで快適さに溢れた環境・状況</p>	<p>■このままでよい</p> <p>■改善点あり</p> <p>■不要</p>	<p>39</p> <p>0</p> <p>0</p>	



# 事前オンデマンド講義④ 「ICFシステムの基本視点と使い方」 アンケート結果

スライド	回答数	割合
<p>ICFの生活機能観から障害を捉える</p>  <p>ICFの図式</p> <p>健康状態</p> <p>生活機能</p> <p>心身機能 身体構造</p> <p>活動</p> <p>参加</p> <p>機能障害</p> <p>活動制限</p> <p>参加制約</p> <p>背景因子</p> <p>環境因子</p> <p>個人因子</p> <p>困難性=機能障害×環境因子</p> <p>「その人」の困難性に関わって私たちが目に見えるものは、生活場面で困難と環境因子であり、機能障害は見えない。</p> <p>障害(disability)の最もシンプルなICFによる表現は個人と環境の相互作用の結果となる</p> <p>impairments (イヘアマンツ)</p> <p>disability (ダイサビティ)</p> <p>environments (エンバイロマンツ)</p> <p>活動制限+参加制約</p>	<p>■このままでよい</p> <p>■改善点あり</p> <p>■不要</p>	<p>0.0%</p> <p>0.0%</p> <p>100.0%</p> 
<p>福祉や教育の支援者が主に焦点化すべき範囲</p>  <p>機能障害の実際の把握は医学的検査の領域で、教育・福祉の支援者の目には見えない。機能障害の知識はある程度持っておく方がよいが、支援を検討する際の評価は「生活場での困難」と「環境因子」に焦点化するべき</p> <p>生活場での困難</p> <p>支援因子</p> <p>disability (ダイサビティ)</p> <p>environments (エンバイロマンツ)</p> <p>個人と環境をセットで情報把握するツール=ICFシステム</p>	<p>■このままでよい</p> <p>■改善点あり</p> <p>■不要</p>	<p>0.0%</p> <p>0.0%</p> <p>100.0%</p> 
<p>ICFの図式</p>  <p>変調または疾病</p> <p>健康状態</p> <p>ICFには3つのレベルがあります</p> <p>生活機能</p> <p>心身機能 身体構造</p> <p>活動</p> <p>参加</p> <p>機能障害</p> <p>活動制限</p> <p>参加制約</p> <p>背景因子</p> <p>環境因子</p> <p>個人因子</p>	<p>■このままでよい</p> <p>■改善点あり</p> <p>■不要</p>	<p>0.0%</p> <p>0.0%</p> <p>100.0%</p> 
<p>ICF情報把握・共有システム(5つのシート)</p>  <p>医学的診断</p> <p>主診断、併存診断、医学的所見、治療方針</p> <p>健康関連情報</p> <p>①健康一般に関する受診歴 ②薬評価レポートの記録 ③専門評価の結果と所見</p> <p>活動と参加</p> <p>3つの質問による「活動と参加」の評価 ①支援なしで 困難あり/なし ②いま支援は? 支援あり/なし ③支援の効果は? 大きい/小さい</p> <p>環境因子</p> <p>①周囲の人たちの評価 (物理的支援・心理的支援・特性理解・障害観) ②製品と用具、自然環境、サービスの評価 (障害因子が促進因子か否方か)</p> <p>支援対象者情報</p> <p>支援に関連する個人因子の把握 ①居住歴、職業、習歴、特技や趣味 ②医療受診歴、学校教育の経歴、福祉サービス利用歴</p>	<p>■このままでよい</p> <p>■改善点あり</p> <p>■不要</p>	<p>2.6%</p> <p>0.0%</p> <p>97.4%</p> 

### 活動と参加シート: 強行QOL支援版項目一覧

項目名	項目	項目説明	評価項目	評価項目	評価項目
第1章 学習と知識の応用	4101	活動に参加して、楽しみながら学ぶこと	1	1	1
	4102	自分の学習目標を設定し、達成するために努力すること	1	1	1
	4103	学習の進捗を確認し、必要に応じて調整すること	1	1	1
	4104	学習の成果を振り返り、今後の学習に活かすこと	1	1	1
	4105	学習の楽しさを伝え、他の人にも興味を持ってもらうこと	1	1	1
	4106	学習の楽しさを伝え、他の人にも興味を持ってもらうこと	1	1	1
	4107	学習の楽しさを伝え、他の人にも興味を持ってもらうこと	1	1	1
	4108	学習の楽しさを伝え、他の人にも興味を持ってもらうこと	1	1	1
	4109	学習の楽しさを伝え、他の人にも興味を持ってもらうこと	1	1	1
	4110	学習の楽しさを伝え、他の人にも興味を持ってもらうこと	1	1	1
	4111	学習の楽しさを伝え、他の人にも興味を持ってもらうこと	1	1	1
	4112	学習の楽しさを伝え、他の人にも興味を持ってもらうこと	1	1	1
	4113	学習の楽しさを伝え、他の人にも興味を持ってもらうこと	1	1	1
	4114	学習の楽しさを伝え、他の人にも興味を持ってもらうこと	1	1	1
	4115	学習の楽しさを伝え、他の人にも興味を持ってもらうこと	1	1	1

上の表は評価の際の第1選択項目のみを示しています。別添の全体表には第2選択項目も示されているので、見てみてください。

このままでよい

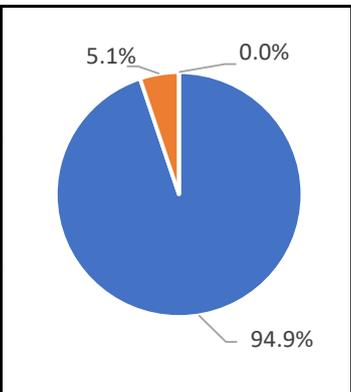
37

改善点あり

2

不要

0



### 活動と参加 (支援に活かすための3質問)

第1章 学習と知識の応用

#### 1. 目的を持って五感 (視・聴・嗅・味・触) を使うこと

五感を使って知識や情報を得たり、学んだりすること。周囲の物を見たり、音を聞いたりしてその場の状況を知ること。物の大小や色・形などを(d110)見て確認したり、音の大小や音のするところを(d115)聞いて確認したり、匂いや味や触り心地の好き嫌いなどを(d120)嗅いだり・味わったり・触ったりして判断すること。

[注] 感覚遊びその感覚を感じて楽しむことが目的となっているが日立つ場合には困難ありとする。

d110) 注目する、注意して見る、見分ける、見て確認するなど目的をもって見ること 0-5歳 6-16歳 17歳以上 (物の色や形を確認する、動く物を目で追う、人の様子や行動を見る、スポーツ行事や子どもが遊ぶ様子を見る。)

- ① 支援なしの場面では  困難あり  困難なし  詳細不明・非該当
- ② いま支援があるかどうか  支援あり  支援なし  スキップ
- ③ 支援の効果は  大きい  小さい  スキップ

補足情報 (① 困難の状況、② 支援の内容、③ 支援の効果、④ その他)

- ① 困難の状況:
- ② 支援の内容:
- ③ 支援の効果:
- ④ その他:

このままでよい

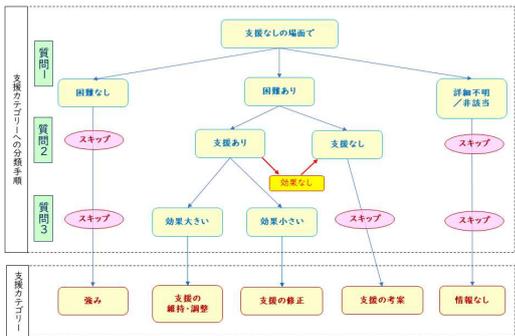
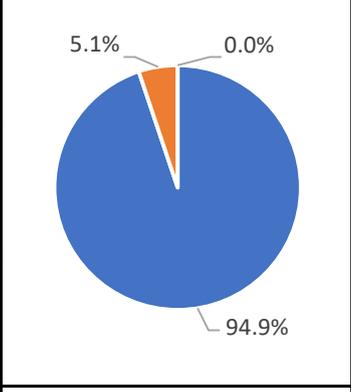
37

改善点あり

2

不要

0



活動と参加の情報把握を支援カテゴリーに分類する

このままでよい

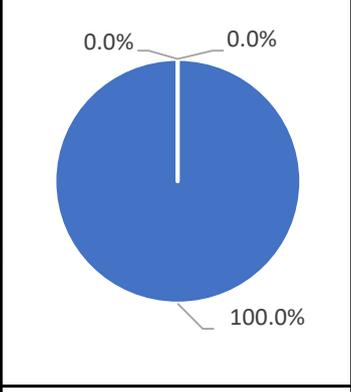
39

改善点あり

0

不要

0



### 「活動と参加シート」情報把握の留意点

#### 1. 3つの質問に回答する際の留意点

① 支援なしの場面では  困難あり  困難なし  詳細不明・非該当  
質問1では、支援なしの場面で少しでも困難があれば「困難あり」を選択して下さい。「困難なし」は、項目が示す内容を、支援なしでも自力で達成できる場合に選択して下さい。

② いま支援があるかどうか  支援あり  支援なし  スキップ  
質問2は、質問1で「困難あり」を選択した場合に回答します。それ以外では「スキップ」を選択してください。支援のあり・なしについては、なにか少しでも支援をして少しでも効果があれば「支援あり」を選択、何も支援をしていないか支援をしていても効果がゼロであれば「支援なし」を選択して下さい。なお、ここでの「支援」とは意図的な支援に加え、困難が軽減する場面や環境 (例: 静かな場所) も含まれます。

③ 支援の効果は  大きい  小さい  スキップ  
質問3は、質問2で「支援あり」を選択した場合に回答します。それ以外では「スキップ」を選択してください。支援の効果については、「大きい」は困難さの顕著な軽減が多く、支援者相互で根拠を以て判断できるために支援の継続あるいは微調整でよい場合に選択してください。「小さい」は困難さの軽減はあるが支援者相互の判断が「顕著ではない」で一致または軽減の程度についての判断が支援者間で分かれるために、今後の支援効果の見極めや支援の修正が必要である場合に選択してください。

このままでよい

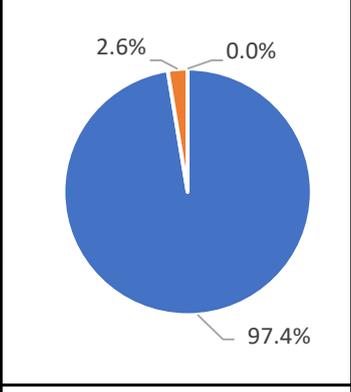
38

改善点あり

1

不要

0



### 支援の検討には「補足情報の記入」が不可欠

#### 2. 補足情報に記入する内容の解説

① 困難の状況 (質問1が困難なし/困難ありのいずれの場合でも記載)  
> 困難なし: 「強み」を支援に活用するため、突出した能力である場合も含め具体的に状況を記載します。  
> 困難あり: 困難の実際の状況に支援を合わせていくために、その困難状況を具体的に記載します。

② 支援の内容 (質問2が支援ありの場合に記載。「支援」とは意図的支援、場面や環境の両方を含みます。)  
> 意図的支援: その支援の内容と実施方法を具体的に記載。  
> 場面や環境: その場面や環境について具体的に記載。 } 他の困難にも活用するために具体性が重要

③ 支援の効果 (質問2が支援ありで、①の状況からの支援効果がある場合に、その状況を具体的に記載)  
> 大きい: 「顕著な困難さ軽減」の具体的な状況を記載。当該項目がどの程度やりやすくなったかを記載。  
> 小さい: 「顕著でない困難さ軽減」の具体的な状況を記載。軽減の程度が変動する場合はそれも記載。

④ その他 (支援カテゴリーにより支援の充実度や重要度・必要度を記載。その他の特記すべき内容を記載)  
> 「強み」: 当該項目の強みが対象児者の生活の中で活かされている程度や範囲を記載。  
> 「維持・調整」: 当該項目の支援が対象児者の生活においてどの程度実施されているかを記載。  
> 「修正・考案」: 当該項目の支援が対象児者の生活において重要・必要である程度を記載。  
> 「情報なし」: その項目の情報把握が対象児者の支援において重要・必要である程度を記載。  
※加えて、当該項目に関わる支援の検討に資する特記すべき内容やエピソードを記載。

このままでよい

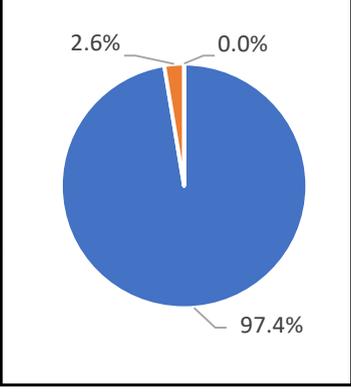
38

改善点あり

1

不要

0



### 活動と参加シートの記入

このままでよい	36
改善点あり	3
不要	0

Category	Percentage
このままでよい	92.3%
改善点あり	7.7%
不要	0.0%

### 活動と参加シートの記入

このままでよい	39
改善点あり	0
不要	0

Category	Percentage
このままでよい	100.0%
改善点あり	0.0%
不要	0.0%

### 回答分析アプリの使い方

このままでよい	37
改善点あり	2
不要	0

Category	Percentage
このままでよい	94.9%
改善点あり	5.1%
不要	0.0%

### 活動と参加シートの回答分析

このままでよい	36
改善点あり	3
不要	0

Category	Percentage
このままでよい	92.3%
改善点あり	7.7%
不要	0.0%

### 活動と参加データ整理表 (ActRes...)

補足情報は、その活動・参加の実際状況が関係者間で共有できるようにできるだけ具体的に記載する。

項目番号	項目タイトル	支援なしで	いま支援は	支援効果は	実行	補足情報
d210a	一つの作業や活動を一人で行うこと	困難なし	スキップ	スキップ	済み	①3ステップで完了する作業で、見るだけで済ませるかかわるが、(例)は、アプリからダウンロードして、アプリボタンをそれぞれの穴に入れるなど)は協力である。(例)、それ以上情報になると手順に混乱してしまてできない) ② ③ ④
d410	姿勢を変える(姿勢の転換)	困難なし	スキップ	スキップ	済み	①立位・座位・臥位の何れから何れにも姿勢転換ができる。両手両脚(両腕・両足)の両方とも支え(支えなし)を持つ状況でも立位・座位の姿勢転換は可能。 ② ③ ④

このままでよい	38
改善点あり	0
不要	1

Category	Percentage
このままでよい	97.4%
改善点あり	0.0%
不要	2.6%

## 活動と参加データ整理表 (ActRes...)

[続]

ID	活動内容	実施状況	実施頻度	実施場所	実施方法
e3154	認知やシボルの理解、絵や写真の理解	実施あり	大きい	支援員	①認知やシボルの認知や活動との関係づけはできない。 ②絵や写真を見て内容を理解する。 ③目的に即しているものや持っている活動であればわかる。 ④作業や日常の活動(衣服の着脱や洗面)についても手順を指示して実施している。
e3120	まねをして学ぶこと	実施あり	小さい	支援員	①モデルを見せなくても自然に、物に物を使わない体の動きが自然にまねてくるようにならない。 ②周囲に非難のない場所で、モデルと正対して、物を使うモデルをゆくり示す。 ③モデルが注目するが、思い通りに動かせないと思えられない。 ④一対一で教える(生活の中心の自立がとがていくために)
e3170	健康に注意すること	実施あり	スキップ	支援員	①認知や作業などで使われているように思われる場合でも、体むくことを知らせない。 ②体むくことを知らせない。 ③まったくおぼろげなことをおぼろげと歩き回り、そのことでおぼろげなことがある。(疲れが感じ、活動が止まらないうちで出る) ④支援ニーズは高いが、適切な方法が考えまではない。
e3151	認知やマーク、絵や写真によるメッセージの伝達	詳細不明・非該当	スキップ	スキップ	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

このままでよい

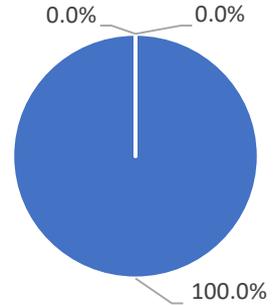
39

改善点あり

0

不要

0



## 環境因子シート: 強行QOL支援版項目一覧

項目ID	項目名	評価	平均得点	強行QOL支援版項目一覧	評価	平均得点
1	1.26	e410	2.50	家族や近い親族の物理的支援と心理的支援	2.50	2.50
2	1.38	e410	2.50	家族や近い親族の物理的支援と心理的支援	2.50	2.50
3	1.36	e410	2.50	家族や近い親族の物理的支援と心理的支援	2.50	2.50
4	1.40	e410	2.50	家族や近い親族の物理的支援と心理的支援	2.50	2.50
5	1.50	e410	2.50	家族や近い親族の物理的支援と心理的支援	2.50	2.50
6	1.50	e410	2.50	家族や近い親族の物理的支援と心理的支援	2.50	2.50
7	1.50	e410	2.50	家族や近い親族の物理的支援と心理的支援	2.50	2.50
8	1.50	e410	2.50	家族や近い親族の物理的支援と心理的支援	2.50	2.50
9	1.50	e410	2.50	家族や近い親族の物理的支援と心理的支援	2.50	2.50
10	1.57	e410	2.50	家族や近い親族の物理的支援と心理的支援	2.50	2.50
11	1.71	e410	2.50	家族や近い親族の物理的支援と心理的支援	2.50	2.50
12	1.77	e410	2.50	家族や近い親族の物理的支援と心理的支援	2.50	2.50
13	1.79	e410	2.50	家族や近い親族の物理的支援と心理的支援	2.50	2.50
14	1.93	e410	2.50	家族や近い親族の物理的支援と心理的支援	2.50	2.50
15	1.43	e410	2.50	家族や近い親族の物理的支援と心理的支援	2.50	2.50
16	1.64	e410	2.50	家族や近い親族の物理的支援と心理的支援	2.50	2.50
17	1.64	e410	2.50	家族や近い親族の物理的支援と心理的支援	2.50	2.50
18	1.64	e410	2.50	家族や近い親族の物理的支援と心理的支援	2.50	2.50
19	1.64	e410	2.50	家族や近い親族の物理的支援と心理的支援	2.50	2.50
20	1.71	e410	2.50	家族や近い親族の物理的支援と心理的支援	2.50	2.50
21	1.71	e410	2.50	家族や近い親族の物理的支援と心理的支援	2.50	2.50
22	1.79	e410	2.50	家族や近い親族の物理的支援と心理的支援	2.50	2.50
23	1.79	e410	2.50	家族や近い親族の物理的支援と心理的支援	2.50	2.50
24	1.68	e410	2.50	家族や近い親族の物理的支援と心理的支援	2.50	2.50
25	1.79	e410	2.50	家族や近い親族の物理的支援と心理的支援	2.50	2.50
26	1.79	e410	2.50	家族や近い親族の物理的支援と心理的支援	2.50	2.50
27	1.79	e410	2.50	家族や近い親族の物理的支援と心理的支援	2.50	2.50
28	1.79	e410	2.50	家族や近い親族の物理的支援と心理的支援	2.50	2.50
29	1.79	e410	2.50	家族や近い親族の物理的支援と心理的支援	2.50	2.50
30	1.79	e410	2.50	家族や近い親族の物理的支援と心理的支援	2.50	2.50
31	1.79	e410	2.50	家族や近い親族の物理的支援と心理的支援	2.50	2.50
32	1.79	e410	2.50	家族や近い親族の物理的支援と心理的支援	2.50	2.50
33	1.79	e410	2.50	家族や近い親族の物理的支援と心理的支援	2.50	2.50
34	1.79	e410	2.50	家族や近い親族の物理的支援と心理的支援	2.50	2.50
35	1.79	e410	2.50	家族や近い親族の物理的支援と心理的支援	2.50	2.50
36	1.79	e410	2.50	家族や近い親族の物理的支援と心理的支援	2.50	2.50
37	1.79	e410	2.50	家族や近い親族の物理的支援と心理的支援	2.50	2.50
38	1.79	e410	2.50	家族や近い親族の物理的支援と心理的支援	2.50	2.50
39	1.79	e410	2.50	家族や近い親族の物理的支援と心理的支援	2.50	2.50
40	1.79	e410	2.50	家族や近い親族の物理的支援と心理的支援	2.50	2.50
41	1.79	e410	2.50	家族や近い親族の物理的支援と心理的支援	2.50	2.50
42	1.79	e410	2.50	家族や近い親族の物理的支援と心理的支援	2.50	2.50
43	1.79	e410	2.50	家族や近い親族の物理的支援と心理的支援	2.50	2.50
44	1.79	e410	2.50	家族や近い親族の物理的支援と心理的支援	2.50	2.50
45	1.79	e410	2.50	家族や近い親族の物理的支援と心理的支援	2.50	2.50
46	1.79	e410	2.50	家族や近い親族の物理的支援と心理的支援	2.50	2.50
47	1.79	e410	2.50	家族や近い親族の物理的支援と心理的支援	2.50	2.50
48	1.79	e410	2.50	家族や近い親族の物理的支援と心理的支援	2.50	2.50
49	1.79	e410	2.50	家族や近い親族の物理的支援と心理的支援	2.50	2.50
50	1.79	e410	2.50	家族や近い親族の物理的支援と心理的支援	2.50	2.50

上の表は評価の際の第1選択項目のみを示しています。別添の全体表には第2選択項目も示されているので、見てみてください。

このままでよい

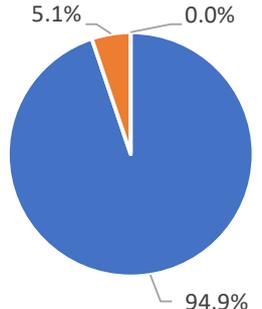
37

改善点あり

2

不要

0



## 環境因子(周囲の人たち②)

**1. 物理的支援と心理的支援、特性理解と障害観: 家族や親族**

(e310)家族(配偶者・両親・祖父・祖母・義父母)や(e315)親族(伯父・伯母・姪・甥などの対象児者に対する物理的支援と心理的支援。また対象児者の特性に対する(e410)家族や(e415)親族の理解、障害に対する考え方・信念。

**e310 家族や近い親族の物理的支援と心理的支援**  
(配偶者・両親・兄弟姉妹・子・里親・養父母・祖父母など家族や近い親族の物理的支援と心理的支援。)

①対象児者への物理的支援: 家族等に  助言が必要  助言は不要  詳細不明・非該当  
②対象児者への心理的支援: 家族等に  助言が必要  助言は不要  詳細不明・非該当

補足情報 (①物理的支援の状況や助言の内容、②心理的支援の状況や助言の内容、③その他)

①物理的支援:  
②心理的支援:  
③その他:

**e410 家族や近い親族の特性理解と障害観**  
(配偶者・両親・兄弟姉妹・子・里親・養父母・祖父母など家族や近い親族の特性理解と障害観。)

①対象児者の特性理解: 家族等に  助言が必要  助言は不要  詳細不明・非該当  
②障害観(考え方・信念): 家族等に  拒絶感あり  拒絶感なし  詳細不明・非該当

補足情報 (①特性理解の程度や助言の内容、②障害観、③その他)

①特性理解:  
②障害観:  
③その他:

このままでよい

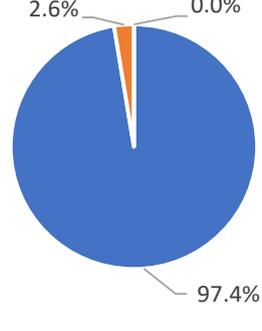
38

改善点あり

1

不要

0



## 環境因子(周囲の人たち; 3・4章)

**1. 第3章・第4章の情報把握に際しての留意点**

注1) 物理的支援とは「具体的支援」のこと。「具体的支援」は例えば、絵や文字で情報伝達する、スケジュールを事前提供するなど、タイマーを扱う、漢字にフリガナを振る、文字を読みかえたり大きくするなど、「身体的な支援」は例えば、衣服の調整、衣服の調整、衣服の調整などを行うことなどを行う、わかりやすい話し方をする。(危機的状況下)の手をつないで歩く、など。

注2) 心理的支援とは「心理的な安定につながる支援」のこと。例えば、ほめる、なぐさめる、安心させる、元気づける、気持ちを落ちつかせる、受容的に関わる、自信や自己肯定感を支える、など。

注3) 特性理解とは「対象児者の生活上の困難さや見守るべき特性の観点から理解すること」で、例えば、課題に長時間取り組むことへの理解や注意機能の問題として理解することなど。障害観とは「障害に対する考え方・信念」で、拒絶的(拒絶感あり)または受容的(拒絶感なし)に障害を捉えること。

注4) 助言が必要とは「物理的支援、心理的支援、特性理解が不十分なために、周囲の人たちが支援の観点、適切な支援の観点と適切な場合にチェックします。助言が不十分とは「物理的支援、心理的支援、特性理解が十分であり、周囲の人たちが適切な支援の観点と適切な場合にチェックします。拒絶感ありとは「障害の存在に拒絶的な態度、拒絶感なしとは「受容的な場合にチェックします。」

**2. 第3章・第4章の補足情報に記入する内容の解説**

①物理的支援: 周囲の人たちが実施している物理的支援の具体的な内容や実施状況、それが支援の観点となっている程度を記載。未実施の場合は、物理的支援が特に必要な場面と具体的な支援内容を記載。  
②心理的支援: 周囲の人たちが実施している心理的支援の具体的な内容や実施状況、それが支援の観点となっている程度を記載。未実施の場合は、心理的支援が特に必要な場面と具体的な支援内容を記載。  
③その他: 物理的支援や心理的支援を充実させていく上で障害となっている状況があれば記載。  
④特性理解: 周囲の人たちの特性理解の具体的な内容や程度、それが支援の観点となっている程度を記載。特性理解が不十分な場合は、特に理解が必要な特性とその特性理解に必要な具体的な場面を記載。  
⑤障害観: 拒絶感ありでは、それが支援の観点の実現を阻む具体的な状況や状況を記載。拒絶感なしでは、周囲の人たちの障害に対する具体的な態度、それが支援の観点となっている具体的な状況を記載。  
⑥その他: 特性理解の観点、障害観の転換を働きかけていく上で障害となっている状況があれば記載。

このままでよい

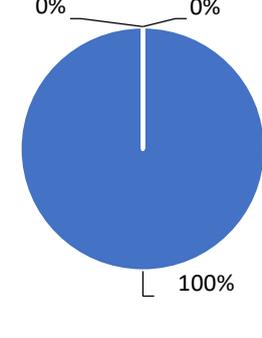
39

改善点あり

0

不要

0



## 人以外の環境因子(自然環境)

**2.2. 光、音、匂いなど**

(e240)光や(e250)音、(e260)匂いや空気の質といった環境刺激

**e240 光**  
(自然光、蛍光灯、白熱灯など光の種類、光の強度、コントラストや陰影、輪廓などの光の質)

①(阻害) 生活に悪影響をもたらす光の種類、強さや質:  あり  なし  詳細不明・非該当  
②(促進) 生活に好影響をもたらす光の種類、強さや質:  あり  なし  詳細不明・非該当

補足情報 (①悪影響の内容、②好影響の内容、③その他)

①悪影響:  
②好影響:  
③その他:

このままでよい

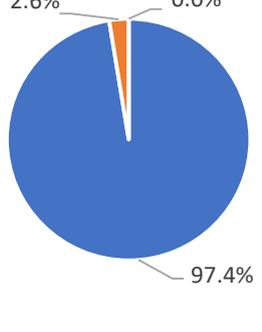
38

改善点あり

1

不要

0



### 環境因子 (人以外の環境因子; 1・2・5章)

※第4章の一部 (障害欄) および第1, 2, 5章の補足情報に記入する内容の解説  
 (項目によって表現は変わるが、①生活への悪影響、②生活への好影響、③その他の構成となっている)  
 ①生活への悪影響: 当該環境因子の具体的な内容と生活への悪影響の具体状況に記載。さらに当該の悪影響を生活全体から除去している程度や範囲 (悪影響の除去による生活の快適度) を記載。  
 ②生活への好影響: 当該環境因子の具体的な内容と生活への好影響の具体状況に記載。さらに当該の好影響を生活全体で充実させている程度や範囲 (好影響の充実による生活の快適度) を記載。  
 ③その他: 悪影響の除去や好影響の充実を図る上で障壁となっている状況があれば具体的に記載。

■このままでよい

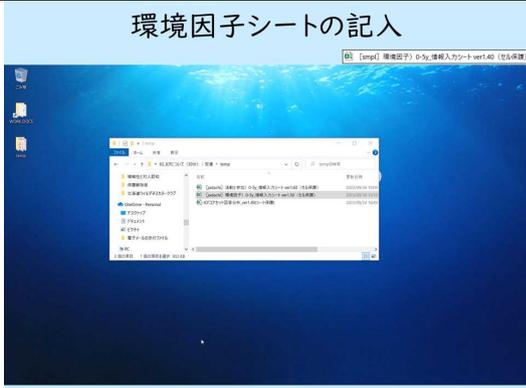
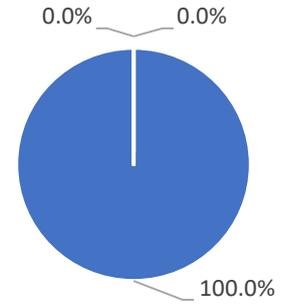
39

■改善点あり

0

■不要

0



■このままでよい

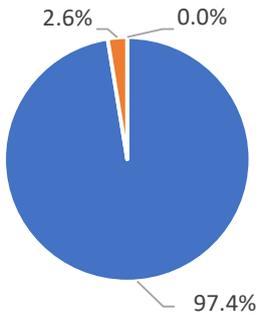
38

■改善点あり

1

■不要

0



### 環境因子シートの記入 (3章・4章)

項目番号	項目タイトル	項目	状況	対応状況	1117補足情報
4101	作業中近い構造物の物理的実装と心理的実装	物理的実装 心理的実装	実装済	実装済	①物理的実装: 実装済 ②心理的実装: 実装済
4102	作業中近い構造物の物理的実装と心理的実装	物理的実装 心理的実装	実装済	実装済	①物理的実装: 実装済 ②心理的実装: 実装済

■このままでよい

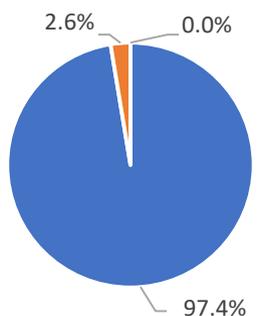
38

■改善点あり

1

■不要

0



### 環境因子の記入 (1章・2章・5章)

項目番号	項目タイトル	項目	状況	対応状況	1117補足情報
4110a	作業中近い構造物の物理的実装と心理的実装	物理的実装 心理的実装	実装済	実装済	①物理的実装: 実装済 ②心理的実装: 実装済

■このままでよい

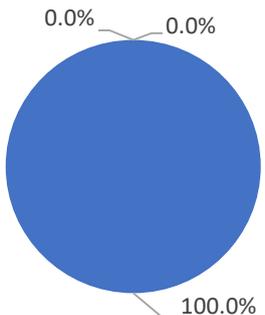
39

■改善点あり

0

■不要

0



### 環境因子データ整理表 (EnvRes...)

補足情報は、その環境因子の実際状況が関係者間で共有できるようにできるだけ具体的に記載する。

項目番号	項目タイトル	項目	状況	対応状況	1117補足情報
4101-4102	作業中近い構造物	物理的実装 心理的実装	実装済	実装済	①物理的実装: 実装済 ②心理的実装: 実装済
4103-4104	作業中近い構造物	物理的実装 心理的実装	実装済	実装済	①物理的実装: 実装済 ②心理的実装: 実装済
e240	光	あり	あり	あり	①不換光と不換種の照射: 蛍光灯やLEDライトは光量の多少に関わらず照射が弱くなりません。また、照射の距離はできるだけ短くして生活しており、本人が使う距離は自動で調整されています。 ②換光と換種の照射: 自動の光量では本人の様子には対応できない。照明は自動で調整されています。

■このままでよい

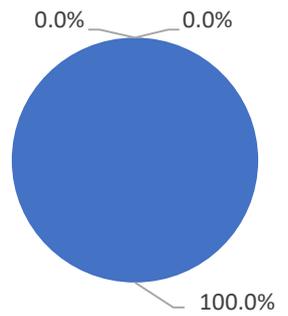
39

■改善点あり

0

■不要

0

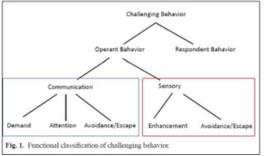
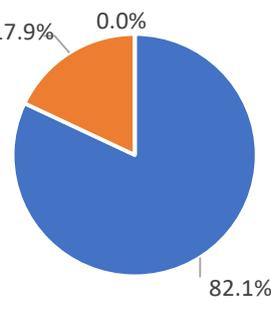
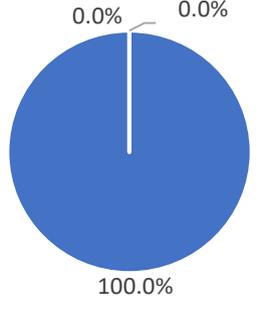
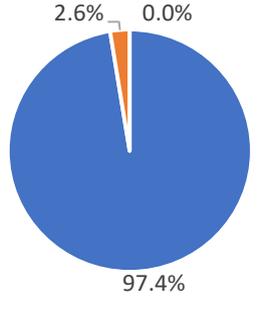
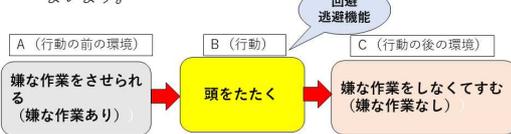
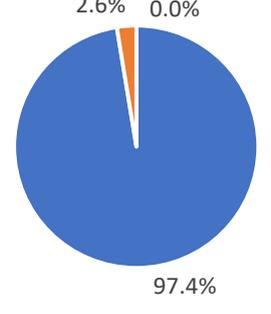
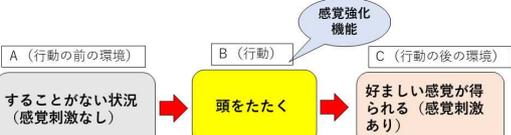
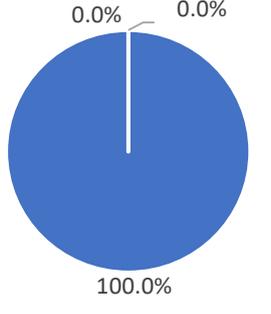


<h3>環境因子データ整理表 (EnvRes...) [続]</h3> <table border="1"> <tr> <td>e1150</td> <td>日本生活で使う一般的な製品と用具 (改造や特別な設計なし)</td> <td>あり</td> <td>なし</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>①不快・使いにくい日用品と生活しづらさ：柄が悪いフォークやスプーンは持ちづらく落としてしまうことが多く、その度に食事が中断してしまう。その他、細かいものを扱うのは家事で自立訓練のベグなども上手くできない。</li> <li>②快適・使いやすい日用品と生活しやすさ：</li> <li>③その他：フォークやスプーンは少し厚みがあるためプラスチックがけいて折れなくなったものを使っている。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>e1250</td> <td>情報の整理や整理、コミュニケーションのための製品や用具 (改造や特別な設計なし)</td> <td>詳細不明・非該当</td> <td>あり</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>①具体的な機能と低下の状態：特になし。(使っていない)</li> <li>②具体的な機能と向上の状態：ラジカセで音楽 (認知モード歌謡) を存んで聞いている。落ち着かないまでも反応の格やかなどはなっていない。</li> <li>③その他：居室での一人時間には、スタッフが音楽をかけている。自分でラジカセを操作するスキルを伝えたが、いまの機種では難しい。別のもっと操作が簡単な機種を検討したい。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>e2251</td> <td>温度</td> <td>なし</td> <td>なし</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>①不快な温度と不快時の状態：</li> <li>②快適な温度と快適時の状態：</li> <li>③その他：</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>e550</td> <td>マスコミュニケーションの権限メテアに関連するサービス</td> <td>詳細不明・非該当</td> <td>詳細不明・非該当</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>①生活への悪影響と情報整理の内容：</li> <li>②生活への好影響と情報整理の内容：</li> <li>③関連する制度や政策：</li> </ul> </td> </tr> </table>	e1150	日本生活で使う一般的な製品と用具 (改造や特別な設計なし)	あり	なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>①不快・使いにくい日用品と生活しづらさ：柄が悪いフォークやスプーンは持ちづらく落としてしまうことが多く、その度に食事が中断してしまう。その他、細かいものを扱うのは家事で自立訓練のベグなども上手くできない。</li> <li>②快適・使いやすい日用品と生活しやすさ：</li> <li>③その他：フォークやスプーンは少し厚みがあるためプラスチックがけいて折れなくなったものを使っている。</li> </ul>	e1250	情報の整理や整理、コミュニケーションのための製品や用具 (改造や特別な設計なし)	詳細不明・非該当	あり	<ul style="list-style-type: none"> <li>①具体的な機能と低下の状態：特になし。(使っていない)</li> <li>②具体的な機能と向上の状態：ラジカセで音楽 (認知モード歌謡) を存んで聞いている。落ち着かないまでも反応の格やかなどはなっていない。</li> <li>③その他：居室での一人時間には、スタッフが音楽をかけている。自分でラジカセを操作するスキルを伝えたが、いまの機種では難しい。別のもっと操作が簡単な機種を検討したい。</li> </ul>	e2251	温度	なし	なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>①不快な温度と不快時の状態：</li> <li>②快適な温度と快適時の状態：</li> <li>③その他：</li> </ul>	e550	マスコミュニケーションの権限メテアに関連するサービス	詳細不明・非該当	詳細不明・非該当	<ul style="list-style-type: none"> <li>①生活への悪影響と情報整理の内容：</li> <li>②生活への好影響と情報整理の内容：</li> <li>③関連する制度や政策：</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■このままでよい 39</li> <li>■改善点あり 0</li> <li>■不要 0</li> </ul>	<p>0.0% 0.0% 100.0%</p>
e1150	日本生活で使う一般的な製品と用具 (改造や特別な設計なし)	あり	なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>①不快・使いにくい日用品と生活しづらさ：柄が悪いフォークやスプーンは持ちづらく落としてしまうことが多く、その度に食事が中断してしまう。その他、細かいものを扱うのは家事で自立訓練のベグなども上手くできない。</li> <li>②快適・使いやすい日用品と生活しやすさ：</li> <li>③その他：フォークやスプーンは少し厚みがあるためプラスチックがけいて折れなくなったものを使っている。</li> </ul>																		
e1250	情報の整理や整理、コミュニケーションのための製品や用具 (改造や特別な設計なし)	詳細不明・非該当	あり	<ul style="list-style-type: none"> <li>①具体的な機能と低下の状態：特になし。(使っていない)</li> <li>②具体的な機能と向上の状態：ラジカセで音楽 (認知モード歌謡) を存んで聞いている。落ち着かないまでも反応の格やかなどはなっていない。</li> <li>③その他：居室での一人時間には、スタッフが音楽をかけている。自分でラジカセを操作するスキルを伝えたが、いまの機種では難しい。別のもっと操作が簡単な機種を検討したい。</li> </ul>																		
e2251	温度	なし	なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>①不快な温度と不快時の状態：</li> <li>②快適な温度と快適時の状態：</li> <li>③その他：</li> </ul>																		
e550	マスコミュニケーションの権限メテアに関連するサービス	詳細不明・非該当	詳細不明・非該当	<ul style="list-style-type: none"> <li>①生活への悪影響と情報整理の内容：</li> <li>②生活への好影響と情報整理の内容：</li> <li>③関連する制度や政策：</li> </ul>																		
<h3>エクセル版の記入シート (情報把握シート)</h3> <ul style="list-style-type: none"> <li>[ID] 活動と参加) 0-5y_情報入力シート ver1.60 (セル保護)</li> <li>[ID] 活動と参加) 6-16y_情報入力シート ver1.60 (セル保護)</li> <li>[ID] 活動と参加) 17y&amp;over_情報入力シート ver1.60 (セル保護)</li> <li>[ID] 環境因子) 0-5y_情報入力シート ver1.50 (セル保護)</li> <li>[ID] 環境因子) 6-16y_情報入力シート ver1.50 (セル保護版)</li> <li>[ID] 環境因子) 17y&amp;over_情報入力シート ver1.50 (セル保護版)</li> </ul> <p>対象者の発達年齢に応じたシートに記入</p> <p><b>重要な注意点</b></p> <p>ファイル名で変更できる箇所は[ID]の部分のみです。    例えば、対象者のIDを 210323ek&amp; に設定した場合には、    [ 210323ek&amp; ]のように[ ]内に記載して下さい。  <b>ファイル名のそれ以外のところは絶対に変更しないで下さい！！</b>  <b>データ整理アプリがファイルを読み取ってしまいます。</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■このままでよい 38</li> <li>■改善点あり 1</li> <li>■不要 0</li> </ul>	<p>2.6% 0.0% 97.4%</p>																				
<h3>「活動と参加」 整理された情報の活用の視点</h3> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆「強み」 他の場面での支援に活用を検討</li> <li>◆「支援の維持・調整」 支援を維持・調整すべき項目を選び、調整内容を他の項目を参考にしながら検討する</li> <li>◆「支援の修正」 支援を修正すべき項目を選び、修正内容を他の項目を参考にしながら検討する</li> <li>◆「支援の考案」 支援を考案すべき項目を選び、他の項目を参考にしながら支援内容を検討する</li> <li>◆「情報なし」 今後、情報把握すべき項目 (視点) を選び、情報把握を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■このままでよい 39</li> <li>■改善点あり 0</li> <li>■不要 0</li> </ul>	<p>0.0% 0.0% 100.0%</p>																				
<h3>「環境因子」 整理された情報の活用の視点</h3> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆「周囲の人たち」 家族支援・支援を検討すべき周囲の人を選び、支援を検討</li> <li>◆「生活を阻害・促進」 阻害・促進両影響の各内容を確認し、対応を検討</li> <li>◆「生活を阻害」 対応すべき環境因子を選定、除去・低減の方法を検討</li> <li>◆「生活を促進」 該当環境因子の維持・提供および支援における活用を検討</li> <li>◆「影響なし」 該当環境因子の維持</li> <li>◆「詳細不明・非該当」 今後、情報把握すべき項目 (視点) を選び、情報把握を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■このままでよい 39</li> <li>■改善点あり 0</li> <li>■不要 0</li> </ul>	<p>0.0% 0.0% 100.0%</p>																				
<h3>ICFシステムを活用する際の留意事項</h3> <ul style="list-style-type: none"> <li>対象者の情報を把握するためには、補足情報の記載が重要。推測ではなく、実際の状況を把握するためのシートという観点で記入する。</li> <li>一人だけではなく、分担して記入することも可能なため、事業所内でやりやすい方法で記入してよい。</li> <li>すべての項目を埋めようとするのではなく、わからない項目については、「詳細不明・非該当」でよい。「詳細不明・非該当」の場合は「今後情報を集めていく」という視点をもつことが重要。</li> <li>整理された項目の記入内容をもとに支援会議を行い、対象者の状況や支援について検討していくことが大切。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■このままでよい 39</li> <li>■改善点あり 0</li> <li>■不要 0</li> </ul>	<p>0.0% 0.0% 100.0%</p>																				

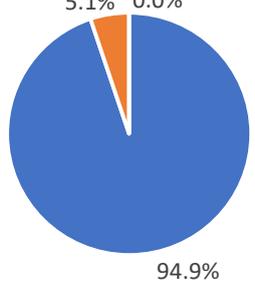
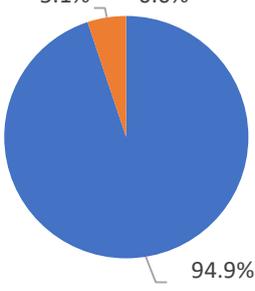
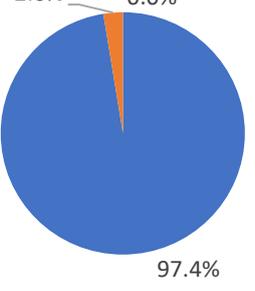
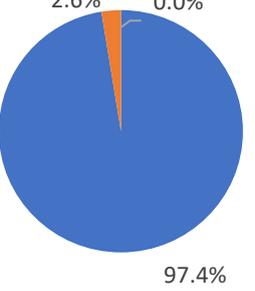
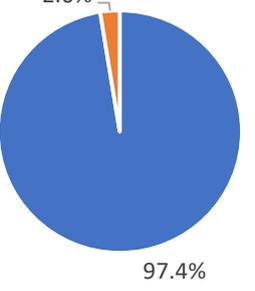
<h3 style="text-align: center;">発達年齢が0-5歳の場合</h3>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ このままでよい 38</li> <li>■ 改善点あり 1</li> <li>■ 不要 0</li> </ul>	
<h3 style="text-align: center;">発達年齢が6-16歳の場合</h3>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ このままでよい 38</li> <li>■ 改善点あり 1</li> <li>■ 不要 0</li> </ul>	

## 事前オンデマンド講義⑤ 「機能的アセスメント」 アンケート結果

スライド	回答数		割合
<p style="text-align: center;">「課題となる行動」は環境との相互作用の中で生じている</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「課題となる行動」はその人が生まれながらに持っているものではない。また自閉症だから、知的障害だから生じているわけではない。</li> <li>「課題となる行動」は環境との相互作用の中で、個人が学習した本人なりの行動様式である。</li> <li>「課題となる行動」はその環境の中で身につけた本人なりの適応の結果であり、その行動には彼らの支援ニーズが潜んでいる。</li> <li>私たちはまずその「声」に耳を傾けるべきである。</li> </ul>	<p>■このままでよい</p> <p>■改善点あり</p> <p>■不要</p>	<p>38</p> <p>0</p> <p>1</p>	<p>0.0% 2.6%</p> <p>97.4%</p>
<p style="text-align: center;">機能的アセスメントとは？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「課題となる行動」と環境との相互作用と捉え、その「機能」を知ること。</li> </ul> <div style="text-align: center;"> <p>A (行動前の環境)      B (行動)      C (行動後の環境)</p> <p> <span style="border: 1px solid black; padding: 5px;">?</span> <span style="color: red; font-size: 2em;">→</span> <span style="background-color: yellow; padding: 5px;">頭をたたく</span> <span style="color: red; font-size: 2em;">→</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 5px;">?</span> </p> </div>	<p>■このままでよい</p> <p>■改善点あり</p> <p>■不要</p>	<p>38</p> <p>1</p> <p>0</p>	<p>2.6% 0.0%</p> <p>97.4%</p>
<p style="text-align: center;">なぜ必要なのか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>倫理的側面から</li> <li>「課題となる行動」についてアプローチしようとするとき、まずその行動をなぜしてしまうのか知ったうえで行うこと、その意味について耳を傾けることは重要である。</li> <li>臨床的側面から</li> <li>「課題となる行動」について、機能的アセスメントにもとづく実践は、そうでない実践よりも効果的である</li> </ul>	<p>■このままでよい</p> <p>■改善点あり</p> <p>■不要</p>	<p>37</p> <p>2</p> <p>0</p>	<p>5.1%</p> <p>94.9%</p>
<p style="text-align: center;">なぜそんな行動をするのかを理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>障害特性レベルで考える <ul style="list-style-type: none"> <li>自閉症だから？でもすべての自閉症の人がしてるわけじゃない</li> </ul> </li> <li>個人レベルで考える <ul style="list-style-type: none"> <li>Aさんは壁に穴をあける？でもAさんはいつもしているわけじゃない</li> </ul> </li> <li>環境と行動レベルで考える <ul style="list-style-type: none"> <li>Aさんは居室に何もないと壁に穴をあけて眠つぶしをしている</li> </ul> </li> </ul> <div style="text-align: center;"> <p>A事前の環境      B行動      C事後の環境</p> <p> <span style="border: 1px solid black; padding: 5px;">居室ですることが ない 余暇無し</span> <span style="color: blue; font-size: 2em;">→</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 5px;">壁に穴をあける</span> <span style="color: blue; font-size: 2em;">→</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 5px;">その行動自体が 楽しみ(感覚) 余暇あり</span> </p> </div>	<p>■このままでよい</p> <p>■改善点あり</p> <p>■不要</p>	<p>39</p> <p>0</p> <p>0</p>	<p>0.0% 0.0%</p> <p>100.0%</p>

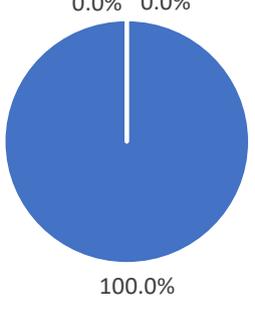
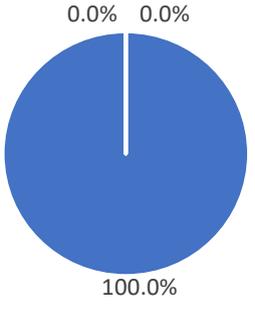
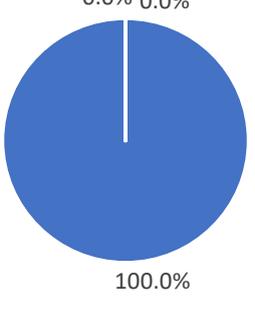
<h3>課題となる行動の主な機能</h3> <ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニケーションの機能 <ul style="list-style-type: none"> <li>物や活動の要求機能</li> <li>注目要求の機能</li> <li>回避・逃避の機能</li> </ul> </li> <li>感覚の機能 <ul style="list-style-type: none"> <li>感覚強化 その活動自体が楽しんでいる場合</li> <li>感覚消去 その活動自体で嫌悪的な事態を回避する場合</li> </ul> </li> </ul>  <p>Fig. 1. Functional classification of challenging behavior.</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>このままでよい 32</li> <li>改善点あり 7</li> <li>不要 0</li> </ul>	
<h3>注目要求の機能</h3> <p>・ジロウさんは、お母さんが食事の準備を始めると、大きな音がするほど自分の頭を叩く自傷行動をします。お母さんは大きな音と奇声でびっくりして駆け寄り、ジロウさんに声をかけます。ジロウさんは声をかけられ、かかわってもらえると自傷行動をやめることができますが、お母さんがいなくなるとまた始めてしまいます。</p>  <p>A (行動前の環境) 母が食事の準備をしている (母の注目なし) → B (行動) 頭をたたく → C (行動後の環境) 母が来てかかわる (母の注目あり)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>このままでよい 39</li> <li>改善点あり 0</li> <li>不要 0</li> </ul>	
<h3>物や活動の要求機能</h3> <p>・ゴロウさんは、ドライブが大好きです。ある日職員がドライブに連れて行き、「ゴロウさん、おしまいですが、降りてください」と言ったとたん、大きな音がするほど自分の頭を叩く自傷行動をしてみました。職員さんが再び車を走らせるとゴロウさんの自傷行動は止まりましたが、満足するまでの時間はとんとん延びてしまいます。</p>  <p>A (行動前の環境) 車から降るように促される (ドライブなし) → B (行動) 頭をたたく → C (行動後の環境) ドライブに行ける (ドライブあり)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>このままでよい 38</li> <li>改善点あり 1</li> <li>不要 0</li> </ul>	
<h3>回避・逃避の機能</h3> <p>・サブロウさんは、嫌な作業をするように言われると、大きな音がするほど自分の頭を叩く自傷行動をします。職員さんはこの行動をされるとさすがにひるんでしまい作業はしなくてよくなることが多いようです。作業をしなくてよくなるとサブロウさんの自傷行動は止まりますが、再びさせようとするときと生じてしまいます。</p>  <p>A (行動前の環境) 嫌な作業をさせられる (嫌な作業あり) → B (行動) 頭をたたく → C (行動後の環境) 嫌な作業をしなくてすむ (嫌な作業なし)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>このままでよい 38</li> <li>改善点あり 1</li> <li>不要 0</li> </ul>	
<h3>感覚強化の機能</h3> <p>・ヨシオさんは、することがないときや長時間一人でいるときに自分の頭を叩く自傷行動をし続けてしまいます。職員さんが手を押さえている時は止まりますが、手を押さえていても頭を物や壁にぶつける行動を繰り返してしまうことがあります。しかしヨシオさんは、自分の好きなビデオを見ているときやおやつを食べているとき一人でも自傷行動をしてしまうことはありません。</p>  <p>A (行動前の環境) することがない状況 (感覚刺激なし) → B (行動) 頭をたたく → C (行動後の環境) 好ましい感覚が得られる (感覚刺激あり)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>このままでよい 39</li> <li>改善点あり 0</li> <li>不要 0</li> </ul>	

<h3>感覚消去の機能</h3> <ul style="list-style-type: none"> <li>感覚過敏のあるハナコさんは、ある時「スーパーマーケットのたぐさんの人混みや雑踏」によって、頭をたたき叫び声を上げてしまいました。ハナコさんはそれ以来、大きな建物には入れなくなってしまう。そればかりか車に乗っていても駐車場に止まっただけで頭をたたき叫び声を上げて泣き出してしまっていました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>このままでよい: 38</li> <li>改善点あり: 1</li> <li>不要: 0</li> </ul>	
<h3>環境調整 + 適応的な行動に置き換える</h3>	<ul style="list-style-type: none"> <li>このままでよい: 39</li> <li>改善点あり: 0</li> <li>不要: 0</li> </ul>	
<h3>機能的アセスメントの方法</h3> <ul style="list-style-type: none"> <li>間接的方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>質問紙 MAS、FASTなど</li> <li>インタビュー</li> </ul> </li> <li>直接的方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>ABC行動観察</li> <li>環境操作 (Factional Analysis)</li> </ul> </li> </ul> <p>・間接的方法によって「あたりをつけ」、直接的方法によって「確認する」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>このままでよい: 35</li> <li>改善点あり: 3</li> <li>不要: 1</li> </ul>	
<h3>行動観察シート 2週間程度記録する</h3>	<ul style="list-style-type: none"> <li>このままでよい: 37</li> <li>改善点あり: 2</li> <li>不要: 0</li> </ul>	
<h3>Observations Sheet (WEBアプリ)</h3>	<ul style="list-style-type: none"> <li>このままでよい: 38</li> <li>改善点あり: 0</li> <li>不要: 1</li> </ul>	

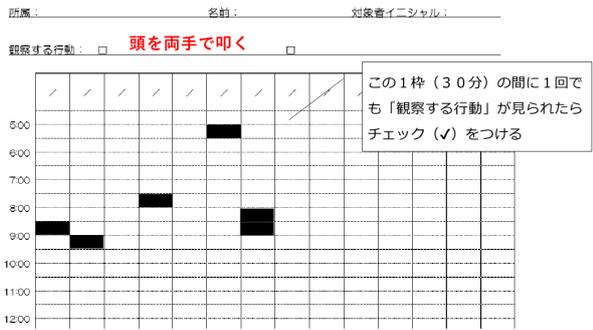
<h3>Observations Sheet (WEBアプリ)</h3>  <p>①名前を入力する +をタップして対象となる利用者の名前を入力する。 ※名前は匿名で記入する。</p> <p>②行動を記録する 「記録表一覧」画面で、対象となる利用者を選択する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■このままでよい 37</li> <li>■改善点あり 2</li> <li>■不要 0</li> </ul>	
<h3>Observations Sheet (Webアプリ)</h3>  <ul style="list-style-type: none"> <li>• 行動を記録する日を選択する。</li> <li>• +をタップ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■このままでよい 37</li> <li>■改善点あり 2</li> <li>■不要 0</li> </ul>	
<h3>Observations Sheet (Webアプリ)</h3>  <p>③行動を記録する 項目に沿って記録する。 項目は、「行動」「時間帯」「場所」「状況(人)」「状況(行動)」「対応」「推定される機能」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■このままでよい 38</li> <li>■改善点あり 1</li> <li>■不要 0</li> </ul>	
<h3>Observations Sheet (Webアプリ)</h3>  <p>④2週間分の行動を記録する ⑤印刷する ダウンロード + 操作確認</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■このままでよい 38</li> <li>■改善点あり 1</li> <li>■不要 0</li> </ul>	
<h3>ICF支援との相違点</h3> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ICFは全体の環境調整、機能的アセスメントは個々の行動に関する環境調整</li> <li>• ICFでは生活全般をみる、機能的アセスメントは個々の課題となる行動と環境のかかわりに焦点化している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■このままでよい 38</li> <li>■改善点あり 1</li> <li>■不要 0</li> </ul>	

## 事前オンデマンド講義⑥「記録の役割とつけ方」 アンケート結果

スライド	回答数		割合										
<b>行動を具体的にとらえる メリット</b>													
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 具体的に誰が何に困っているかが明確になる</li> <li>• 記録しやすい                             <ul style="list-style-type: none"> <li>• 増減がわかりやすい</li> <li>• 対応の効果が明確になる</li> </ul> </li> <li>• 支援者間での情報共有のズレが少なくなる</li> <li>• 一貫した対応がしやすくなる</li> </ul>	<span style="color: blue;">■</span> このままでよい	39											
	<span style="color: orange;">■</span> 改善点あり	0											
	<span style="color: green;">■</span> 不要	0											
<b>行動を具体的にとらえる メリット</b>													
支援者間での情報共有のズレが少なくなる 	<span style="color: blue;">■</span> このままでよい	38											
<span style="color: orange;">■</span> 改善点あり	1												
<span style="color: green;">■</span> 不要	0												
<b>行動を具体的にとらえる コツ</b>													
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 観察可能な（見える、聞こえる、回数をかぞえたり時間をはかることができる）行動だけを取り扱う</li> <li>2. 動詞で書く</li> <li>3. 誰が読んでも同じ行動が思い浮かべられるくらい具体的に書く</li> <li>4. 「～しない」は「～しないで、～している」と書く</li> </ol>	<span style="color: blue;">■</span> このままでよい	39											
	<span style="color: orange;">■</span> 改善点あり	0											
	<span style="color: green;">■</span> 不要	0											
<b>1. 観察可能な行動だけを取り扱う</b>													
1. 観察可能な行動だけを取り扱う <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="background-color: #f8d7da;">誤</th> <th style="background-color: #d1ecf1;">正</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>考える</td> <td>叩く</td> </tr> <tr> <td>思う</td> <td>蹴る</td> </tr> <tr> <td>イライラする</td> <td>かみつく</td> </tr> <tr> <td>落ち着かない</td> <td>大声で何回も～と言う</td> </tr> </tbody> </table>	誤	正	考える	叩く	思う	蹴る	イライラする	かみつく	落ち着かない	大声で何回も～と言う	<span style="color: blue;">■</span> このままでよい	38	
誤	正												
考える	叩く												
思う	蹴る												
イライラする	かみつく												
落ち着かない	大声で何回も～と言う												
<span style="color: orange;">■</span> 改善点あり	1												
<span style="color: green;">■</span> 不要	0												

<p>2. 動詞で書く</p> <p>3. 誰が読んで同じ行動が思い浮かべられるくらい具体的に</p> <table border="1" data-bbox="124 235 778 459"> <thead> <tr> <th>誤</th> <th>正</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>パニック</td> <td>大声で叫んだあと、自分のこめかみを両手で叩く</td> </tr> <tr> <td>粗暴な行為</td> <td>作業の材料のプラスチックを手で割って投げる</td> </tr> </tbody> </table>	誤	正	パニック	大声で叫んだあと、自分のこめかみを両手で叩く	粗暴な行為	作業の材料のプラスチックを手で割って投げる	<p>■このままでよい 39</p> <p>■改善点あり 0</p> <p>■不要 0</p>																				
誤	正																										
パニック	大声で叫んだあと、自分のこめかみを両手で叩く																										
粗暴な行為	作業の材料のプラスチックを手で割って投げる																										
<p>4. 「～しない」は「～しないで、～している」と書く</p> <table border="1" data-bbox="124 600 778 824"> <thead> <tr> <th>誤</th> <th>正</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>作業をしない</td> <td>作業をせずに、床に寝そべっている</td> </tr> </tbody> </table>	誤	正	作業をしない	作業をせずに、床に寝そべっている	<p>■このままでよい 39</p> <p>■改善点あり 0</p> <p>■不要 0</p>																						
誤	正																										
作業をしない	作業をせずに、床に寝そべっている																										
<p>記録の役割</p> <p>1. <b>アセスメントになる</b> 記録はその人の行動がなぜ起きているか分析をする（機能の仮説を立てる）ための情報として活用できる</p> <p>2. <b>支援の効果を検証できる</b> 支援の前後に記録を取ることで支援が効果的であったかどうか（機能の仮説が正しかったかどうか）を検証することができる</p>	<p>■このままでよい 39</p> <p>■改善点あり 0</p> <p>■不要 0</p>																										
<p>PDCAサイクルと記録</p> <table border="1" data-bbox="140 1344 762 1646"> <thead> <tr> <th colspan="2">P：アセスメントと計画</th> <th>D</th> <th>A</th> <th>A</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アセスメント</td> <td>支援計画</td> <td>実施</td> <td>実施の見直し</td> <td>支援の見直し</td> </tr> <tr> <td>           基本情報  <input type="checkbox"/> 一日の生活  <input type="checkbox"/> 好みや得意と苦手  <input type="checkbox"/> 表出と理解のコミュニケーション  <input type="checkbox"/> ICF            学習スタイル (第2回、第3回)            機能的アセスメント (第4回、第5回)         </td> <td> <input type="checkbox"/> 支援手順書作成         </td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">           アセスメント情報として活用            スキャタープロット、ABC記録、課題分析、グラフ化         </td> <td colspan="3">           支援効果の検証として活用         </td> </tr> <tr> <td colspan="5">C：記録</td> </tr> </tbody> </table>	P：アセスメントと計画		D	A	A	アセスメント	支援計画	実施	実施の見直し	支援の見直し	基本情報 <input type="checkbox"/> 一日の生活 <input type="checkbox"/> 好みや得意と苦手 <input type="checkbox"/> 表出と理解のコミュニケーション <input type="checkbox"/> ICF 学習スタイル (第2回、第3回) 機能的アセスメント (第4回、第5回)	<input type="checkbox"/> 支援手順書作成				アセスメント情報として活用 スキャタープロット、ABC記録、課題分析、グラフ化		支援効果の検証として活用			C：記録					<p>■このままでよい 39</p> <p>■改善点あり 0</p> <p>■不要 0</p>	
P：アセスメントと計画		D	A	A																							
アセスメント	支援計画	実施	実施の見直し	支援の見直し																							
基本情報 <input type="checkbox"/> 一日の生活 <input type="checkbox"/> 好みや得意と苦手 <input type="checkbox"/> 表出と理解のコミュニケーション <input type="checkbox"/> ICF 学習スタイル (第2回、第3回) 機能的アセスメント (第4回、第5回)	<input type="checkbox"/> 支援手順書作成																										
アセスメント情報として活用 スキャタープロット、ABC記録、課題分析、グラフ化		支援効果の検証として活用																									
C：記録																											
<table border="1" data-bbox="111 1675 790 2049"> <thead> <tr> <th>9-10月活動</th> <th>11月活動</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>           5:00 起床            6:00 起床            7:00 起床            8:00 起床            9:00 起床            10:00 作業            11:00            12:00 食事            13:00 作業            14:00            15:00 活動            16:00 入浴            17:00            18:00            19:00 夕食            20:00 食事            21:00 消灯            22:00            23:00         </td> <td>           5:00 起床            6:00 起床            7:00 起床            8:00 起床            9:00 起床            10:00 作業            11:00            12:00 食事            13:00 作業            14:00            15:00 活動            16:00 入浴            17:00            18:00            19:00 夕食            20:00            21:00 消灯            22:00            23:00         </td> </tr> </tbody> </table> <p>外にある（掃水、掃除用具等）を片づけようとして、止められて、破綻したり大声をあげる</p> <p>入浴 待ち時間</p> <p>チョコレート休憩（支援者とのやりとり） 待ち時間 15分早い食事</p> <p>施設行事で来所者多数</p>	9-10月活動	11月活動	5:00 起床 6:00 起床 7:00 起床 8:00 起床 9:00 起床 10:00 作業 11:00 12:00 食事 13:00 作業 14:00 15:00 活動 16:00 入浴 17:00 18:00 19:00 夕食 20:00 食事 21:00 消灯 22:00 23:00	5:00 起床 6:00 起床 7:00 起床 8:00 起床 9:00 起床 10:00 作業 11:00 12:00 食事 13:00 作業 14:00 15:00 活動 16:00 入浴 17:00 18:00 19:00 夕食 20:00 21:00 消灯 22:00 23:00	<p>■このままでよい 39</p> <p>■改善点あり 0</p> <p>■不要 0</p>																						
9-10月活動	11月活動																										
5:00 起床 6:00 起床 7:00 起床 8:00 起床 9:00 起床 10:00 作業 11:00 12:00 食事 13:00 作業 14:00 15:00 活動 16:00 入浴 17:00 18:00 19:00 夕食 20:00 食事 21:00 消灯 22:00 23:00	5:00 起床 6:00 起床 7:00 起床 8:00 起床 9:00 起床 10:00 作業 11:00 12:00 食事 13:00 作業 14:00 15:00 活動 16:00 入浴 17:00 18:00 19:00 夕食 20:00 21:00 消灯 22:00 23:00																										

### 1. スキャタープロット



■このままでよい

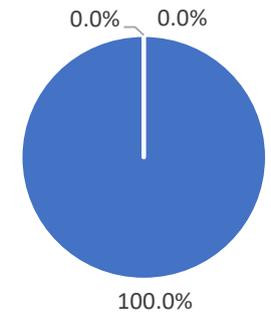
39

■改善点あり

0

■不要

0



### 1. スキャタープロット



■このままでよい

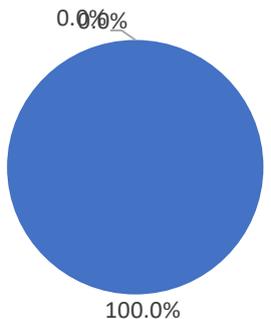
39

■改善点あり

0

■不要

0



### 2. ABC記録

所属: \_\_\_\_\_ 名前: \_\_\_\_\_ 対象者イニシャル: \_\_\_\_\_

記録日: \_\_\_\_\_年 \_\_\_\_\_月 \_\_\_\_\_日 ~ \_\_\_\_\_年 \_\_\_\_\_月 \_\_\_\_\_日

ヒント	直接のきっかけ、周囲の状況、行動直前の対象者の状態など。	対象者の行動を具体的に記述する。「(イニシャル)「無視」などは具体的な行動ではないのでNG。	行動に対して周囲はどのように反応したか。またその周囲の反応に対して対象者の行動はどう変化したか。	
日	時間	事前の状況	対象者の行動	事後の状況
4/1	12:40	昼食時に食室にて、他利用者に声をかけられた時	近くの支援者にかみつく	持ち替かせるために支援者こいっしよも食室をでる。2~3分経る 職員食室に戻った。

■このままでよい

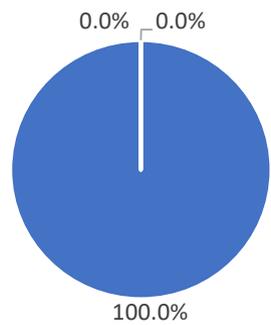
39

■改善点あり

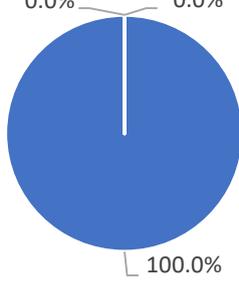
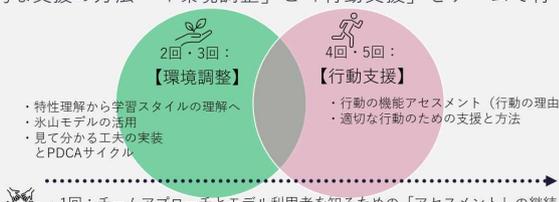
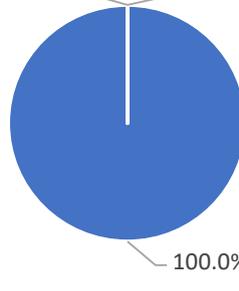
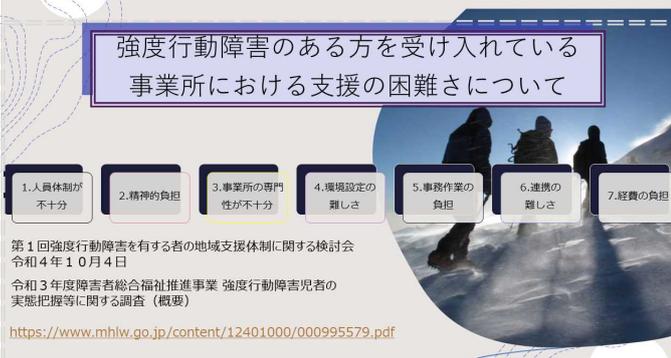
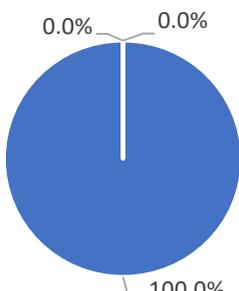
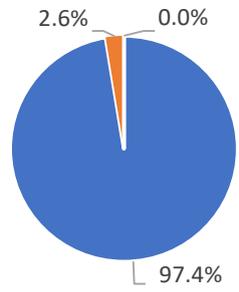
0

■不要

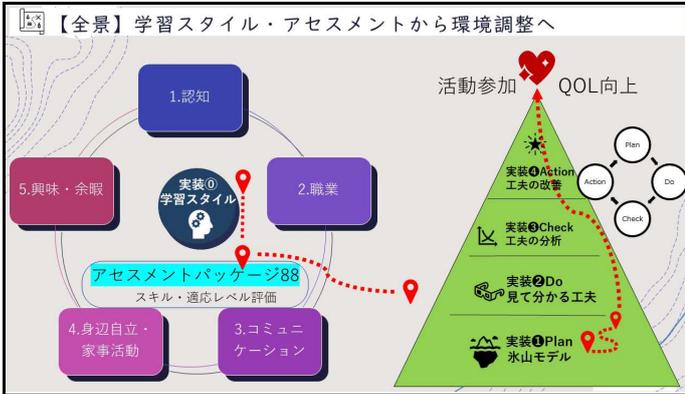
0



## 中核的人材養成研修 第2回目(12/4) 講義スライドに関するアンケート結果

スライド	回答数(n=39)		割合
<b>このコマのポイント</b>  +●ねらい1 (知識レベル) : 強度行動障害に対する標準的な支援の定義と方法は「環境調整」と「行動支援」であることを再確認します  +●ねらい2 (技術レベル) : 自閉症の特性 (学習スタイル) 理解からはじまる「環境調整のPDCAサイクル」を実装するための技法を学んでいきます	■このままでよい 39  ■改善点あり 0  ■不要 0	0.0% 0.0%  100.0%	
<b>定義の確認と用語の整理</b>  +行動障害の機構 (メカニズム) : 行動 (障害) = f(特性×環境) +標準的な支援の対象: 重度知的発達症を伴う自閉スペクトラム症で強度行動障害の状態像を呈する人 +標準的な支援の方法: 「環境調整」と「行動支援」をチームで行うこと  	■このままでよい 39  ■改善点あり 0  ■不要 0	0.0% 0.0%  100.0%	
<b>強度行動障害のある方を受け入れている事業所における支援の困難さについて</b>  	■このままでよい 39  ■改善点あり 0  ■不要 0	0.0% 0.0%  100.0%	
<b>QOL   生活の質</b>  支援課題 ①特性理解の困難 「個人因子の把握不足」: 知的障害 (発達の遅れ) 自閉症 (発達の異なり) の潜在的ニード理解 ②つながりの困難 「活動と参加の限定」: 支援領域・地域・事業所で途切れる、閉じる ③絶対的な暮らしの場の不足 家族の疲弊・GHも入所も足りない    差別排除 強度行動障害 - 恒常的なQOLの低下状況 合理的配慮をしない差別 間接的差別 直接的差別 時代	■このままでよい 38  ■改善点あり 1  ■不要 0	2.6% 0.0%  97.4%	

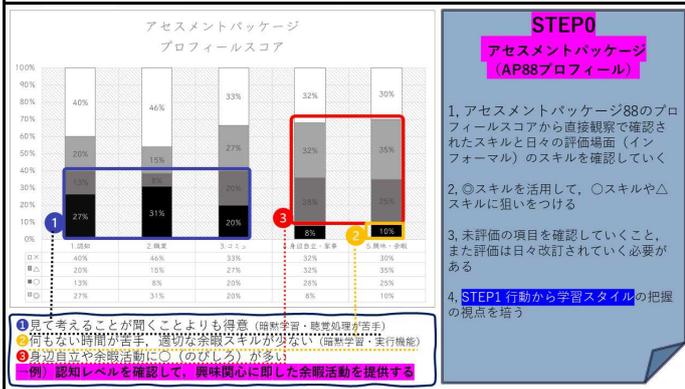




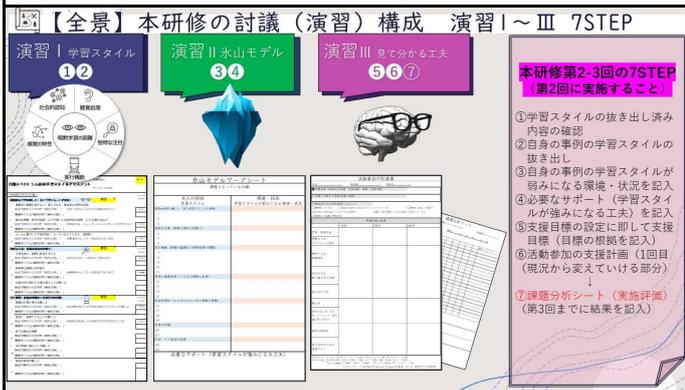
■このままでよい	38	
■改善点あり	1	
■不要	0	

**【アセスメントパッケージ】（自閉症eサービスAP88）** 見て分かる工夫の精度を高める

■このままでよい	39	
■改善点あり	0	
■不要	0	



■このままでよい	38	
■改善点あり	1	
■不要	0	



■このままでよい	39	
■改善点あり	0	
■不要	0	

**（復習）障害特性**

強度行動障害支援者養成研修テキストより

自閉症とは、

- ①他者との社会的関係の形成の困難さ
- ②言葉の発達の遅れ
- ③興味や関心が狭く特定のものにこだわること

を特徴とする発達の障害である。その特徴は、3歳くらいまでに現れることが多いが、成人期に症状が顕在化することもある。中枢神経系に何らかの要因による機能不全があると推定されている。

**自閉症の特性**

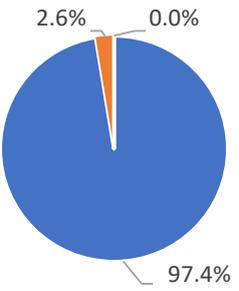
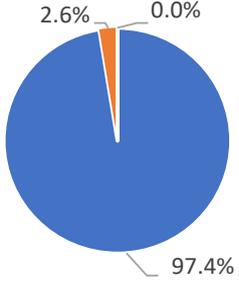
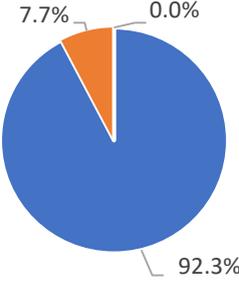
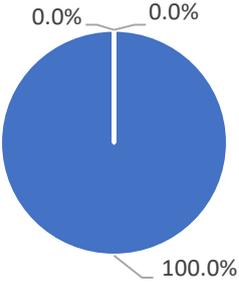
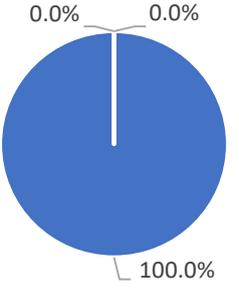
- 想像力
- 社会性
- コミュニケーション
- 感覚的特性

情報処理の仕方が異なる（学習スタイルの違い）

■このままでよい	39	
■改善点あり	0	
■不要	0	

<p>実装①アセスメント 特性理解から 学習スタイルへ</p> <h1>アセスメント</h1> <p>求める支援 具体的な理解な支援   興味関心   慣れ親しみを活かした支援   見通しがあり 快適な環境や状況</p> <p>3つ組 自閉症の特性   想像力   感覚の特性</p> <p>社会的性   コミュニケーション</p> <p>聴覚処理   暗黙学習の困難   社会的認知 (人のかかわり方)   独特な注意</p> <p>実行機能</p> <p>潜在的ニード (学習スタイル) 世界の見え方感じ方</p>	<p>このままでよい</p> <p>改善点あり</p> <p>不要</p>	<p>38</p> <p>1</p> <p>0</p>	
<p>実装①アセスメント 特性理解から 学習スタイルへ</p> <h2>●自閉症の学習スタイル   潜在的ニード</h2> <p>社会的認知 (人のかかわり方)   聴覚処理</p> <p>暗黙学習の困難   感覚の問題</p> <p>独特な注意   実行機能</p>	<p>このままでよい</p> <p>改善点あり</p> <p>不要</p>	<p>38</p> <p>1</p> <p>0</p>	
<h2>●暗黙学習が難しい理由   見えすぎてしまう脳</h2> <p>Temple Grandin (2010) TED The world needs all kinds of minds</p>	<p>このままでよい</p> <p>改善点あり</p> <p>不要</p>	<p>38</p> <p>0</p> <p>1</p>	
<h2>「見て分かる支援」の意味</h2> <p>目で見て分かる支援とはその人に合った眼鏡をかけて 「世界の意味」を見やすくすること</p> <p>「学習スタイル」と「見て分かる工夫」は本来、一対の関係にある</p> <p>聴覚処理   社会的認知   暗黙学習の困難   独特な注意   実行機能</p>	<p>このままでよい</p> <p>改善点あり</p> <p>不要</p>	<p>38</p> <p>1</p> <p>0</p>	
<h2>「学習スタイル」</h2> <p>暗黙学習の困難</p> <p>目に見えないものは分かりにくい。 (時間、暗黙のルール、文脈など)</p> <p>抽象的なものが分かりにくい。 言葉は分からなくても視覚的に処理ができる。</p> <p>●見えれば分かる</p>	<p>このままでよい</p> <p>改善点あり</p> <p>不要</p>	<p>39</p> <p>0</p> <p>0</p>	



<h2>「不安からくる感覚」</h2> <p>感覚過敏は不安と密接に関連している。 不安の高さが感覚過敏を引き起こす。(Green &amp; Ben-Sasson, 2010)</p> <p>また、不安な気持ちを和らげるために「こだわり」をすることもある。 (不安なので、分かることをしたい、裏切らない刺激を求める)</p> <p>不安がなくなる(見通しがある)ことによって 感覚過敏の症状が軽減したりこだわりが減ることもある。</p> <p>● 苦手は配慮して、好む刺激は保証する</p> 	<p>■ このままでよい</p> <p>■ 改善点あり</p> <p>■ 不要</p>	<p>38</p> <p>1</p> <p>0</p>	
<h2>プレ演習</h2> <p>行動から学習スタイルの把握へ</p> <p>動画学習</p> <p>STEP1 学習スタイルチェックシート</p> <p>ビデオ学習</p> <p>①学習スタイルの抜き出し済み内容の確認(5分) 個人ワーク(ワークシートを参照)</p> <p>②自身のモデルの学習スタイルの抜き出し(15分) 後半の討議にて実施(トレーナー主導)</p>	<p>■ このままでよい</p> <p>■ 改善点あり</p> <p>■ 不要</p>	<p>38</p> <p>1</p> <p>0</p>	
<h2>演習 I</h2> <p>学習スタイル(潜在的モード)のアセスメントシート</p>  <p>STEP1 学習スタイルチェックシート</p> <p>ビデオ学習</p> <p>①学習スタイルの抜き出し済み内容の確認(個人ワーク)</p> <p>②自身の事例の学習スタイルの抜き出し(討議時間)</p>	<p>■ このままでよい</p> <p>■ 改善点あり</p> <p>■ 不要</p>	<p>36</p> <p>3</p> <p>0</p>	
<p>実践 Plan 永山モデル</p> <p>行動(障害) = f(特性 × 環境)</p> <p>課題となっている行動</p> <p>本人の特性 ★ 学習スタイル</p> <p>環境・状況</p>	<p>■ このままでよい</p> <p>■ 改善点あり</p> <p>■ 不要</p>	<p>39</p> <p>0</p> <p>0</p>	
<p>実践 Plan 永山モデル</p> <p>行動(障害) = f(特性 × 環境)</p> <p>課題となっている行動</p> <p>本人の特性 ★ 学習スタイル</p> <p>環境・状況</p>	<p>■ このままでよい</p> <p>■ 改善点あり</p> <p>■ 不要</p>	<p>39</p> <p>0</p> <p>0</p>	

<p>実践Plan 氷山モデル</p> <p><b>行動（障害） = f(特性 × 環境)</b></p> <p>課題となっている行動</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>本人の特性 ★学習スタイル</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>環境・状況</p> </div> </div> <p>必要なサポート</p> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px; text-align: center;"> <p>学習スタイルを強みに変える環境・状況を作る ⇒見て分かる工夫</p> <p>標準的な支援</p> </div>	<p>■このままでよい</p> <p>■改善点あり</p> <p>■不要</p>	<p>39</p> <p>0</p> <p>0</p>	<p>0.0% 0.0%</p> <p>100.0%</p>																																																																																																						
<p><b>(行動) 障害 = f(特性 × 環境)</b></p> <p>課題となっている行動</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>本人の特性 ★学習スタイル</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>環境・状況</p> </div> </div> <p>必要なサポート</p> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px; text-align: center;"> <p>学習スタイルを強みに変える環境・状況を作る ⇒見て分かる工夫</p> <p>標準的な支援</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>学習スタイルを強みにする要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●見れば分かる（場所・時間・やり方）</li> <li>●情報調節で高い集中</li> <li>●繰り返ししが得意</li> <li>●ルールや気持ちが見れば分かる</li> <li>●苦手は配慮して、好む刺激は保証する</li> </ul> </div>	<p>■このままでよい</p> <p>■改善点あり</p> <p>■不要</p>	<p>39</p> <p>0</p> <p>0</p>	<p>0.0% 0.0%</p> <p>100.0%</p>																																																																																																						
<p>演習② 氷山モデル</p> <p>学習スタイル（潜在的ニーズ）のアセスメントシート</p> <p>氷山モデルワークシート</p> <p>課題となっている行動</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>本人の特性 学習スタイル</th> <th>環境・状況 学習スタイルが強みになる環境・状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td></tr> <tr><td>16</td><td></td></tr> <tr><td>17</td><td></td></tr> <tr><td>18</td><td></td></tr> <tr><td>19</td><td></td></tr> <tr><td>20</td><td></td></tr> <tr><td>21</td><td></td></tr> <tr><td>22</td><td></td></tr> <tr><td>23</td><td></td></tr> <tr><td>24</td><td></td></tr> <tr><td>25</td><td></td></tr> <tr><td>26</td><td></td></tr> <tr><td>27</td><td></td></tr> <tr><td>28</td><td></td></tr> <tr><td>29</td><td></td></tr> <tr><td>30</td><td></td></tr> <tr><td>31</td><td></td></tr> <tr><td>32</td><td></td></tr> <tr><td>33</td><td></td></tr> <tr><td>34</td><td></td></tr> <tr><td>35</td><td></td></tr> <tr><td>36</td><td></td></tr> <tr><td>37</td><td></td></tr> <tr><td>38</td><td></td></tr> <tr><td>39</td><td></td></tr> <tr><td>40</td><td></td></tr> <tr><td>41</td><td></td></tr> <tr><td>42</td><td></td></tr> <tr><td>43</td><td></td></tr> <tr><td>44</td><td></td></tr> <tr><td>45</td><td></td></tr> <tr><td>46</td><td></td></tr> <tr><td>47</td><td></td></tr> <tr><td>48</td><td></td></tr> <tr><td>49</td><td></td></tr> <tr><td>50</td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>必要なサポート（学習スタイルが強みになる工夫）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>STEP1-2 氷山モデルシート</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①学習スタイルの抜き出し済み内容の確認（5分）</li> <li>②自身の事例の学習スタイルの抜き出し（15分）</li> <li>③自身の事例の学習スタイルが弱みになる環境・状況を入力</li> <li>④必要なサポート（学習スタイルが強みになる工夫）を入力 <ul style="list-style-type: none"> <li>・見れば分かる</li> <li>・情報調節で高い集中</li> <li>・ルールや気持ちが見れば分かる</li> <li>・苦手は配慮して、好む刺激は保証する</li> </ul> </li> </ol> </div>	本人の特性 学習スタイル	環境・状況 学習スタイルが強みになる環境・状況	1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12		13		14		15		16		17		18		19		20		21		22		23		24		25		26		27		28		29		30		31		32		33		34		35		36		37		38		39		40		41		42		43		44		45		46		47		48		49		50		<p>■このままでよい</p> <p>■改善点あり</p> <p>■不要</p>	<p>38</p> <p>1</p> <p>0</p>	<p>2.6% 0.0%</p> <p>97.4%</p>
本人の特性 学習スタイル	環境・状況 学習スタイルが強みになる環境・状況																																																																																																								
1																																																																																																									
2																																																																																																									
3																																																																																																									
4																																																																																																									
5																																																																																																									
6																																																																																																									
7																																																																																																									
8																																																																																																									
9																																																																																																									
10																																																																																																									
11																																																																																																									
12																																																																																																									
13																																																																																																									
14																																																																																																									
15																																																																																																									
16																																																																																																									
17																																																																																																									
18																																																																																																									
19																																																																																																									
20																																																																																																									
21																																																																																																									
22																																																																																																									
23																																																																																																									
24																																																																																																									
25																																																																																																									
26																																																																																																									
27																																																																																																									
28																																																																																																									
29																																																																																																									
30																																																																																																									
31																																																																																																									
32																																																																																																									
33																																																																																																									
34																																																																																																									
35																																																																																																									
36																																																																																																									
37																																																																																																									
38																																																																																																									
39																																																																																																									
40																																																																																																									
41																																																																																																									
42																																																																																																									
43																																																																																																									
44																																																																																																									
45																																																																																																									
46																																																																																																									
47																																																																																																									
48																																																																																																									
49																																																																																																									
50																																																																																																									
<p>学習スタイルと見て分かる工夫の関係</p> <p>●自閉症の学習スタイル   潜在的ニーズ</p> <div style="display: flex; flex-wrap: wrap; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>社会的認知</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>聴覚処理</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>感覚の問題</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>暗黙学習の困難</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>独特な注意</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>実行機能</p> </div> </div>	<p>■このままでよい</p> <p>■改善点あり</p> <p>■不要</p>	<p>38</p> <p>1</p> <p>0</p>	<p>2.6% 0.0%</p> <p>97.4%</p>																																																																																																						
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>社会的認知</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>聴覚処理</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>感覚の特性</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>暗黙学習の困難</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>独特な注目</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>実行機能</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;"> <p>社会的認知</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>聴覚処理</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>感覚の特性</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>暗黙学習の困難</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>独特な注目</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>実行機能</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;"> <p>社会的認知</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>聴覚処理</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>感覚の特性</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>暗黙学習の困難</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>独特な注目</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>実行機能</p> </div> </div>	<p>■このままでよい</p> <p>■改善点あり</p> <p>■不要</p>	<p>37</p> <p>2</p> <p>0</p>	<p>5.1% 0.0%</p> <p>94.9%</p>																																																																																																						

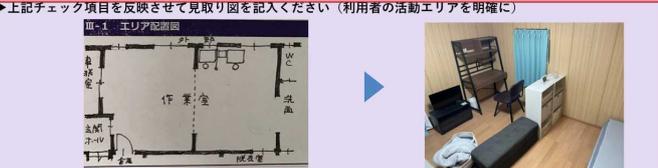
◎ 支援計画・支援目標 (できることから変える: 実現・継続可能性)			
	■このままでよい	39	
	■改善点あり	0	
	■不要	0	

理解のアセスメントと支援			
	■このままでよい	39	
	■改善点あり	0	
	■不要	0	

学習スタイルと見て分かる工夫の構成要素			
	■このままでよい	38	
	■改善点あり	1	
	■不要	0	

「見て分かる支援」			
	■このままでよい	39	
	■改善点あり	0	
	■不要	0	

「見て分かる支援」			
	■このままでよい	39	
	■改善点あり	0	
	■不要	0	

 <b>「見て分かる工夫」を取り入れる前の注意</b> 見て分かる支援が意味を持つために 氷山モデルから、見て分かる支援を使って事例利用者に“どうなってもらいたいのか”を明確に説明できますか？ <ul style="list-style-type: none"> <li>× 「作業をもっとやってもらいたい」</li> <li>× 「周囲の刺激を無くしてこだわり行為を無くしたい」</li> <li>× 「他の人に影響がないように離したい」</li> <li>× 「職員が考えるスケジュール通りに動いて欲しい」</li> <li>× 「勝手に動いたり外に出て行かないように」</li> <li>× 「全ての強度行動障害の人に良いと聞いているから」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■このままでよい</li> <li>■改善点あり</li> <li>■不要</li> </ul>	39 0 0									
 <b>◎場所の工夫   場所の「意味」を伝える</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>境界           <ul style="list-style-type: none"> <li>・場所の区切り</li> <li>・場所と活動内容は一対一対応</li> </ul> </li> <li>刺激の統制           <ul style="list-style-type: none"> <li>・本人の刺激となるものを避ける</li> <li>・休憩場所にはリラックスグッズ</li> </ul> </li> <li>場所の工夫           <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動内容が理解できる</li> <li>シンボル・掲示</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■このままでよい</li> <li>■改善点あり</li> <li>■不要</li> </ul>	39 0 0									
<b>◎場所の工夫チェックリスト</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th>ワークシート</th> <th>チェック</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①境界は何か？</td> <td> <input type="checkbox"/>机や家具など  <input type="checkbox"/>テープ、カーペットやマットなど  <input type="checkbox"/>パーテーション（1～3面?）  <input type="checkbox"/>本人にとって、場所の混同がないか  <input type="checkbox"/>支援者の把握を阻害していないか  <input type="checkbox"/>家具や仕子の配置や設置は安全か         </td> </tr> <tr> <td>②刺激のコントロールは？</td> <td> <input type="checkbox"/>見えると注意が奪われるものとの距離と配慮  <input type="checkbox"/>移動の際の距離と視覚的な配慮  <input type="checkbox"/>動線の配慮  <input type="checkbox"/>注意への配慮があるか  <input type="checkbox"/>移動の際の刺激配慮があるか  <input type="checkbox"/>他利用者との交錯・時間の配慮         </td> </tr> <tr> <td>③見て分かる工夫は何か？</td> <td> <input type="checkbox"/>休憩場所の設定  <input type="checkbox"/>活動の場所の設定  <input type="checkbox"/>場所の掲示の方法  <input type="checkbox"/>個別の活動場所・方法の配慮の有無         </td> </tr> </tbody> </table> <p>▶上記チェック項目を反映させて見取り図を記入ください（利用者の活動エリアを明確に）</p> 	ワークシート	チェック	①境界は何か？	<input type="checkbox"/> 机や家具など <input type="checkbox"/> テープ、カーペットやマットなど <input type="checkbox"/> パーテーション（1～3面?） <input type="checkbox"/> 本人にとって、場所の混同がないか <input type="checkbox"/> 支援者の把握を阻害していないか <input type="checkbox"/> 家具や仕子の配置や設置は安全か	②刺激のコントロールは？	<input type="checkbox"/> 見えると注意が奪われるものとの距離と配慮 <input type="checkbox"/> 移動の際の距離と視覚的な配慮 <input type="checkbox"/> 動線の配慮 <input type="checkbox"/> 注意への配慮があるか <input type="checkbox"/> 移動の際の刺激配慮があるか <input type="checkbox"/> 他利用者との交錯・時間の配慮	③見て分かる工夫は何か？	<input type="checkbox"/> 休憩場所の設定 <input type="checkbox"/> 活動の場所の設定 <input type="checkbox"/> 場所の掲示の方法 <input type="checkbox"/> 個別の活動場所・方法の配慮の有無	<ul style="list-style-type: none"> <li>■このままでよい</li> <li>■改善点あり</li> <li>■不要</li> </ul>	39 0 0	
ワークシート	チェック										
①境界は何か？	<input type="checkbox"/> 机や家具など <input type="checkbox"/> テープ、カーペットやマットなど <input type="checkbox"/> パーテーション（1～3面?） <input type="checkbox"/> 本人にとって、場所の混同がないか <input type="checkbox"/> 支援者の把握を阻害していないか <input type="checkbox"/> 家具や仕子の配置や設置は安全か										
②刺激のコントロールは？	<input type="checkbox"/> 見えると注意が奪われるものとの距離と配慮 <input type="checkbox"/> 移動の際の距離と視覚的な配慮 <input type="checkbox"/> 動線の配慮 <input type="checkbox"/> 注意への配慮があるか <input type="checkbox"/> 移動の際の刺激配慮があるか <input type="checkbox"/> 他利用者との交錯・時間の配慮										
③見て分かる工夫は何か？	<input type="checkbox"/> 休憩場所の設定 <input type="checkbox"/> 活動の場所の設定 <input type="checkbox"/> 場所の掲示の方法 <input type="checkbox"/> 個別の活動場所・方法の配慮の有無										
<b>例) 場所の工夫   場所の意味を伝える</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>■このままでよい</li> <li>■改善点あり</li> <li>■不要</li> </ul>	38 1 0									
 <b>◎見え方の工夫   見え方に合わせてとりくみかたを教える</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●見て分かる指示</li> <li>●人に代わる指示（一目で分かる指示）</li> <li>●気づくための強調</li> <li>●区別がためのコントラスト</li> <li>●注目の範囲内に素材を整理</li> <li>●一定の作業の流れ（ルーティン）を作るための整理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■このままでよい</li> <li>■改善点あり</li> <li>■不要</li> </ul>	39 0 0									

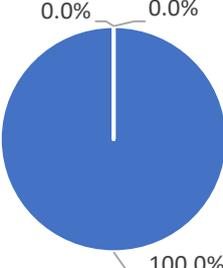
### ◎見え方の工夫チェックリスト

ワークシート	チェック
<b>1 視覚的指示</b> <input type="checkbox"/> 本人が見て分かる指示 <input type="checkbox"/> 人に代わる指示（一目で分かる指示）	<input type="checkbox"/> 本人の理解レベルに則しているか <input type="checkbox"/> 本人の理解度と興味関心に則しているか
<b>2 明瞭化</b> <input type="checkbox"/> 本人が気づくための強調 <input type="checkbox"/> 区別がつくためのコントラスト	<input type="checkbox"/> 本人の注意を引きつけているか <input type="checkbox"/> コントラストは区別を助けているか
<b>3 組織化</b> <input type="checkbox"/> 注目の範囲内に素材を整理 <input type="checkbox"/> 一定の作業の流れ（ルーティン）を形作るための整理	<input type="checkbox"/> 本人の組織化レベルに則しているか <input type="checkbox"/> ルーティンに一貫性を用いているか

▶上記チェック項目を反映させて自立のための活動（自立課題・受注作業・外作業など）を記入ください



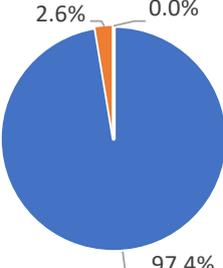


■このままでよい	39	
■改善点あり	0	
■不要	0	

#### 例) 見え方の工夫

見え方と興味関心に合わせる



■このままでよい	38	
■改善点あり	1	
■不要	0	

#### 例) 見え方の工夫

全ての見て分かる工夫へ



■このままでよい	38	
■改善点あり	1	
■不要	0	

#### 学習のステップを意識する

ハードからソフトへ

**初級 マatching**



**レベル1**  
終わりと完成を視覚化  
多様な学習素材の  
形・大きさ・色などを  
一対一で合わせる学習の  
方法  
(照合・分類学習)

**対応 (概念) マatching**

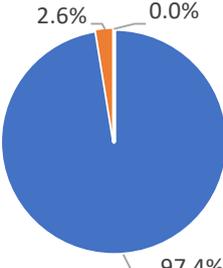


**レベル10?**  
多様な学習素材の  
異なる形態（文字・写真・イ  
ラスト・概念など）同士を対  
応させる学習の方法  
(概念学習)

**参照マatching**



多様な学習素材を  
多様な指示（文字・写真・イラ  
スト・概念を用いた手順書など）を  
参照して活動する学習の方法  
(般化学習)

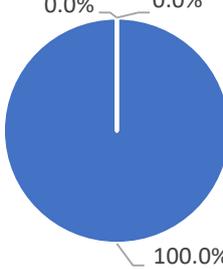
■このままでよい	38	
■改善点あり	1	
■不要	0	

#### ◎方法の工夫

仕事のやり方を教える仕組み



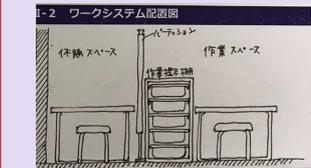
- ① 何をするか
- ② どれだけやるか
- ③ どうなったら終わりか
- ④ 終わったら何ががあるか

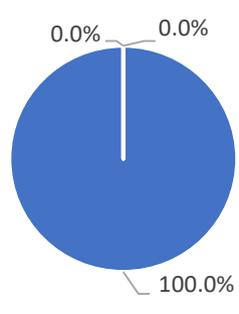
■このままでよい	39	
■改善点あり	0	
■不要	0	

### ◎方法の工夫チェックリスト

ワークシート	チェック
①何をするかを伝える ○本人が見て分かる指示 (ワークカード・実物) ○取り組み方・流れ (標・机・FB: 終了箱)	<input type="checkbox"/> 本人の理解レベルに則しているか <input type="checkbox"/> 本人の理解度と興味関心に則しているか
②活動の長さ・量は何か適切か ○一回のワークの長さ (5分・30分・60分) ○活動の量 (少量・中程度・多量)	<input type="checkbox"/> 本人の集中の持続力に適しているか <input type="checkbox"/> 作業耐性を支える仕組みはあるか
③活動の終わりを伝える ○本人が見て分かる指示 (ワークカード・実物) ○一定の作業の流れ (ルーティン) を形作るための標・終了箱	<input type="checkbox"/> 本人の組織化レベルに則しているか <input type="checkbox"/> ルーティンに一貫性を用いているか
④終わったら何があるかを伝える ○見て分かる指示 (ワークカードで楽しみを提示・実物で提示) ○変わったスケジュールへ移動するトランジションカード	<input type="checkbox"/> 本人の動機を支える報酬か <input type="checkbox"/> 内発的動機と外発的動機のパランスはどうか

▶上記チェック項目を反映させて本人の目線からみたワークシステムを記入ください

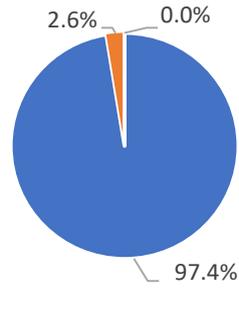



■このままでよい	39	
■改善点あり	0	
■不要	0	

#### 例) 方法の工夫

何を・どのくらい・終わり方・次は？

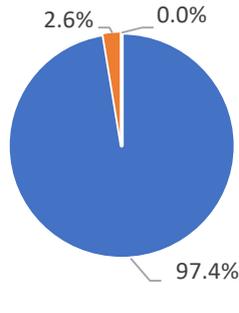


■このままでよい	38	
■改善点あり	1	
■不要	0	

#### 例) 方法の工夫

何を・どのくらい・終わり方・次は？



■このままでよい	38	
■改善点あり	1	
■不要	0	

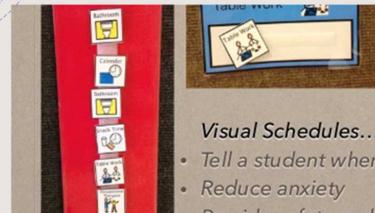
#### ◎時間の工夫

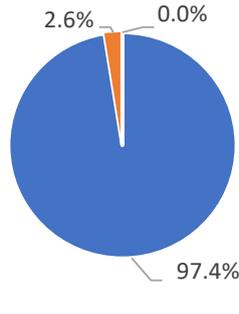
どこで何を・見通しと経過・合図

1どこで何を  
2不安を軽減する  
3時間の経過が見てわかる  
4手がかり(合図)をもとに自立できる

Visual Schedules...

- Tell a student where to be and when to be there
- Reduce anxiety
- Provide safety and predictability



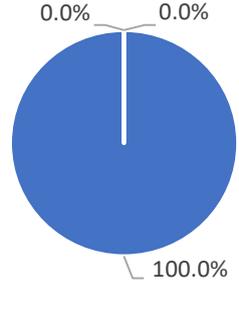
■このままでよい	38	
■改善点あり	1	
■不要	0	

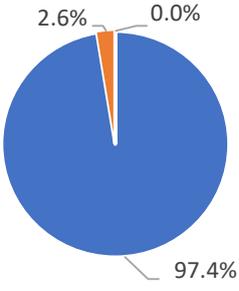
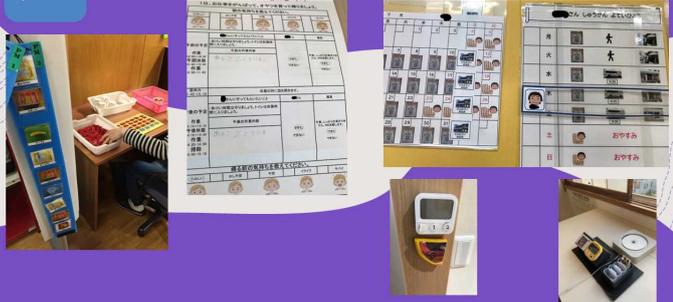
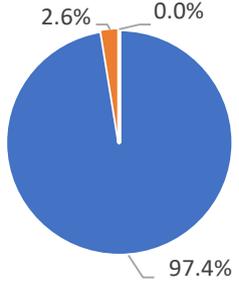
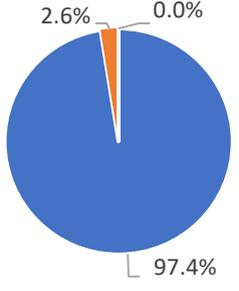
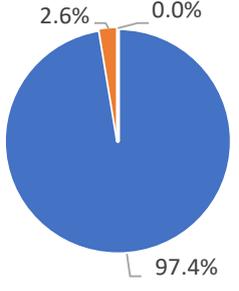
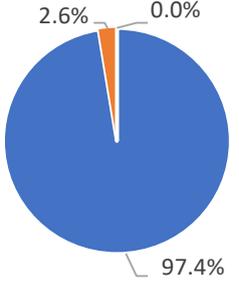
### ◎時間の工夫チェックリスト

ワークシート	チェック
①形態 ○本人が見て分かる指示 (実物・半実物・写真カード・イラストカード・文字)	<input type="checkbox"/> 本人の理解レベルに則しているか <input type="checkbox"/> 本人の理解度と興味関心に則しているか
②長さ・位置 ○本人の理解度に合わせて長さ ○本人の注意に合わせた提示位置	<input type="checkbox"/> 本人の注意を引いているか <input type="checkbox"/> コントラストは区別を助けているか
③活動開始の合図 ○人に代わるタイマー・時計などの合図 ○一定の作業の流れ (ルーティン) とトランジション (中継システム)	<input type="checkbox"/> 本人の組織化レベルに則しているか <input type="checkbox"/> ルーティンに一貫性を用いているか

▶上記チェック項目を反映させて理解と自立のためのスケジュールシステムを記入ください



■このままでよい	39	
■改善点あり	0	
■不要	0	

<p><b>例) 時間の工夫</b> どこで何を・見通しと経過・合図</p> 	<p>■このままでよい</p> <p>■改善点あり</p> <p>■不要</p>	<p>38</p> <p>1</p> <p>0</p>	
<p><b>例) 時間の工夫</b> どこで何を・見通しと経過・合図</p> 	<p>■このままでよい</p> <p>■改善点あり</p> <p>■不要</p>	<p>38</p> <p>1</p> <p>0</p>	
<p><b>●参考：表現のためのコミュニケーション支援</b></p> 	<p>■このままでよい</p> <p>■改善点あり</p> <p>■不要</p>	<p>38</p> <p>1</p> <p>0</p>	
<p><b>●感覚支援の例</b></p> 	<p>■このままでよい</p> <p>■改善点あり</p> <p>■不要</p>	<p>38</p> <p>1</p> <p>0</p>	
<p><b>●参考：動機・余暇のための支援</b></p> 	<p>■このままでよい</p> <p>■改善点あり</p> <p>■不要</p>	<p>38</p> <p>1</p> <p>0</p>	



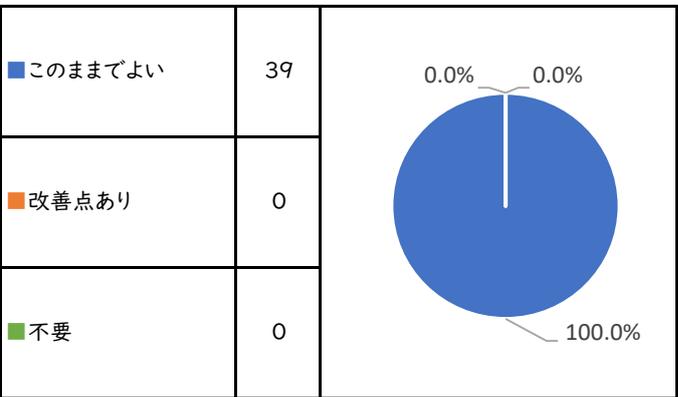


### STEPO【アセスメントパッケージの確認!】(事前確認)

**STEPO アセスメントパッケージ (AP88)**

アセスメントパッケージ88の入力(領域ごとのスキルチェックを実施)

未実施・未評価は空欄

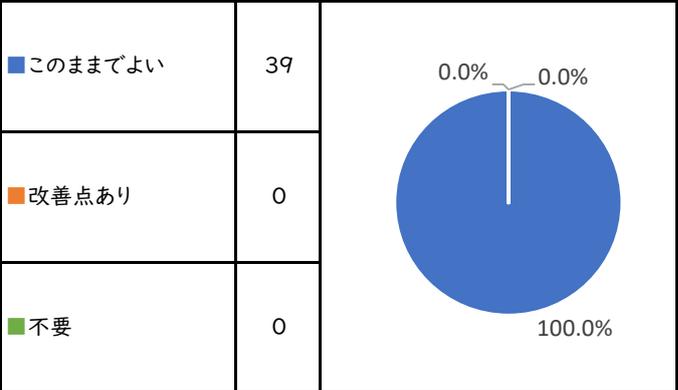


### 【全景】本研修の討議(演習)構成 演習I~III 7STEP

演習I 学習スタイル (1,2) | 演習II 氷山モデル (3,4) | 演習III 見て分かる工夫 (5,6,7)

**本研修第2-3回の7STEP (第2回に実施すること)**

- ①学習スタイルの抜き出し済み内容の確認
- ②自身の事例の学習スタイルの抜き出し
- ③自身の事例の学習スタイルが弱みになる環境・状況を記入
- ④必要なサポート(学習スタイルが強みになる工夫)を記入
- ⑤支援目標の設定に即して支援目標(目標の根拠)を記入
- ⑥活動参加の支援計画(1回目(現況から変えていける部分))
- ⑦課題分析シート(実施評価)(第3回までに結果を記入)

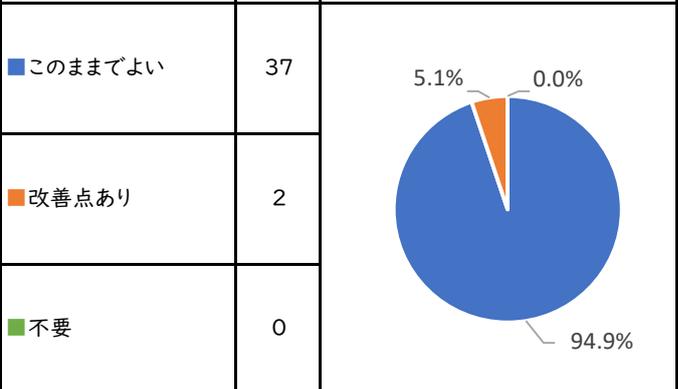


### 演習I 学習スタイル(潜在的コード)のアセスメントシート

**STEP1 学習スタイルチェックシート**

ビデオ学習

- ①学習スタイルの抜き出し済み内容の確認(5分)
- ②自身の事例の学習スタイルの抜き出し(15分)

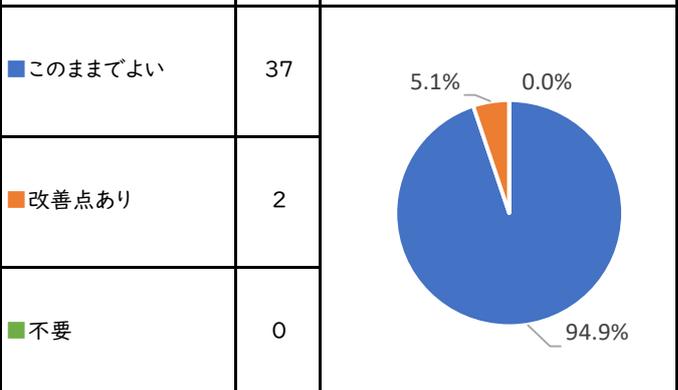


### 演習II 氷山モデル

学習スタイル(潜在的コード)のアセスメントシート

**STEP1-2 氷山モデルシート**

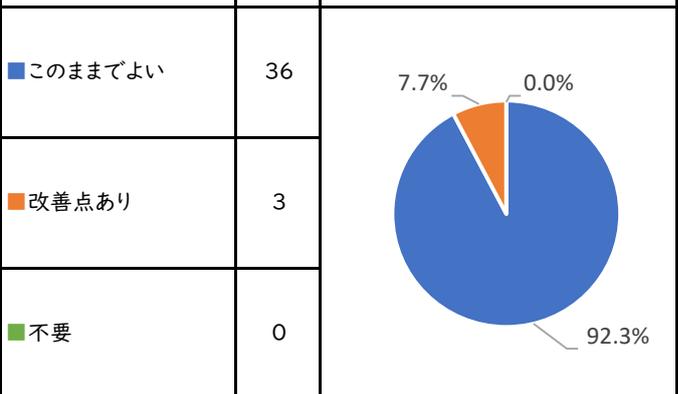
- ①学習スタイルの抜き出し済み内容の確認(5分)
- ②自身の事例の学習スタイルの抜き出し(15分) - 自動転記
- ③自身の事例の学習スタイルが弱みになる環境・状況を記入
- ④必要なサポート(学習スタイルが強みになる工夫)を記入



### 演習III 活動参加の支援計画書

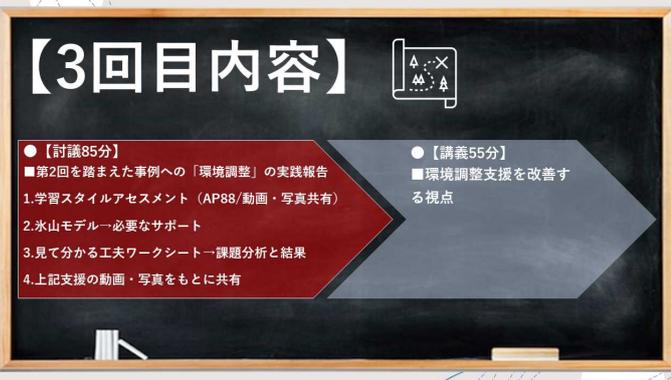
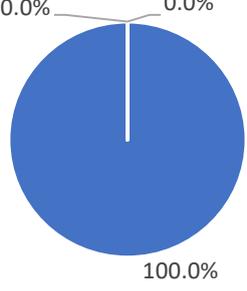
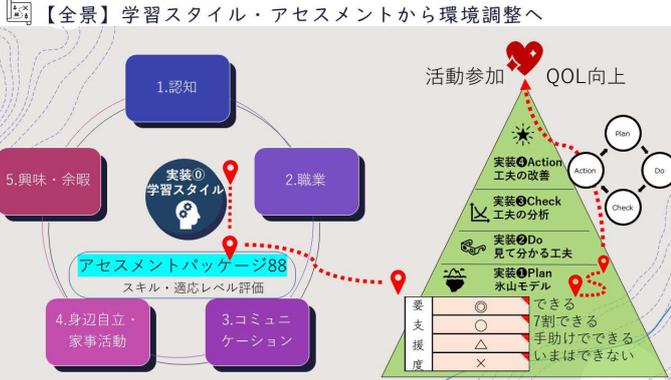
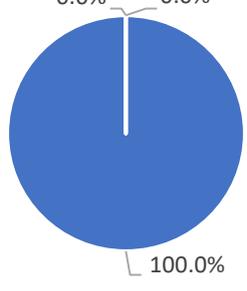
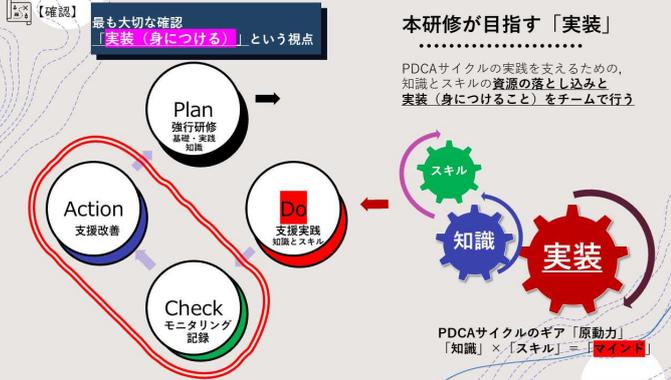
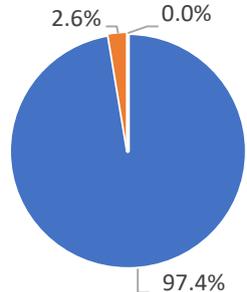
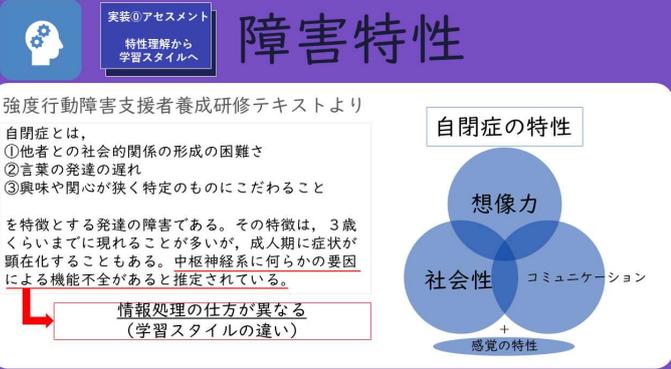
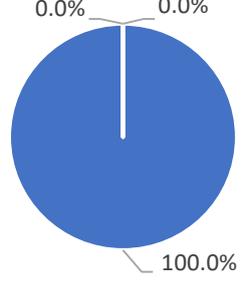
**本研修第2-3回の7STEP (第2回に実施すること)**

- ①学習スタイルの抜き出し済み内容の確認
- ②自身の事例の学習スタイルの抜き出し
- ③自身の事例の学習スタイルが弱みになる環境・状況を記入
- ④必要なサポート(学習スタイルが強みになる工夫)を記入
- ⑤支援目標の設定に即して支援目標(目標の根拠)を記入
- ⑥活動参加の支援計画(1回目(現況から変えていける部分))
- ⑦課題分析シート(実施評価)(第3回までに記入)



<div data-bbox="124 129 199 183" style="float: left; margin-right: 10px;"> </div> <h2 style="margin: 0;">伝え方（人かそれ以外か）</h2> <div style="margin-top: 20px;"> <p style="font-size: small;">人以外が行う指示 ICT機器 手帳等 色々な便利グッズ 見やすい大きさや色 置き場所 周囲のものとの関連</p> <p style="font-size: x-small; text-align: center;">これらを踏まえて、「自立」に向けた最適な「伝え方」を組み合わせる</p> </div>
---

## 中核的人材養成研修 第3回目(12/25) 講義スライドに関するアンケート結果

スライド	回答数(n=39)	割合						
	<table border="1"> <tr><td>このままでよい</td><td>38</td></tr> <tr><td>改善点あり</td><td>0</td></tr> <tr><td>不要</td><td>0</td></tr> </table>	このままでよい	38	改善点あり	0	不要	0	
このままでよい	38							
改善点あり	0							
不要	0							
	<table border="1"> <tr><td>このままでよい</td><td>38</td></tr> <tr><td>改善点あり</td><td>0</td></tr> <tr><td>不要</td><td>0</td></tr> </table>	このままでよい	38	改善点あり	0	不要	0	
このままでよい	38							
改善点あり	0							
不要	0							
	<table border="1"> <tr><td>このままでよい</td><td>37</td></tr> <tr><td>改善点あり</td><td>1</td></tr> <tr><td>不要</td><td>0</td></tr> </table>	このままでよい	37	改善点あり	1	不要	0	
このままでよい	37							
改善点あり	1							
不要	0							
	<table border="1"> <tr><td>このままでよい</td><td>38</td></tr> <tr><td>改善点あり</td><td>0</td></tr> <tr><td>不要</td><td>0</td></tr> </table>	このままでよい	38	改善点あり	0	不要	0	
このままでよい	38							
改善点あり	0							
不要	0							

# アセスメント

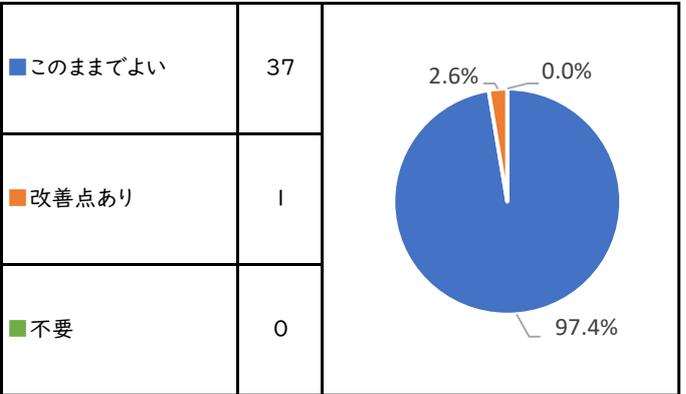
実装のアセスメント  
特性理解から  
学習スタイルへ

求めている支援  
具体的な理解な支援  
興味関心  
慣れ親しみを活かした支援  
見通しがあり  
快適な環境や状況

3つ組  
潜在的需要  
(学習スタイル)

想像力  
社会性  
コミュニケーション  
感覚の特性

自閉症の特性  
聴覚処理  
実行機能  
暗黙学習の困難  
社会的認知  
独特な注意



## 【アセスメントパッケージ (自閉症eサービスAP88)】

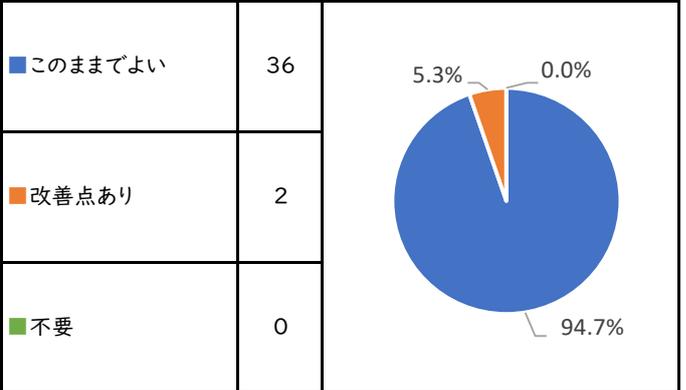
見て分かる工夫の精度を高める

STEP0  
アセスメントパッケージ (AP88)

アセスメントパッケージ88の入力 (領域ごとのスキルチェックを実施)

○ できる (合格)  
△ できる (要配慮)  
× 手助けが必要 (要支援)  
- いまはできない (不適合)

未実施・未評価は空欄

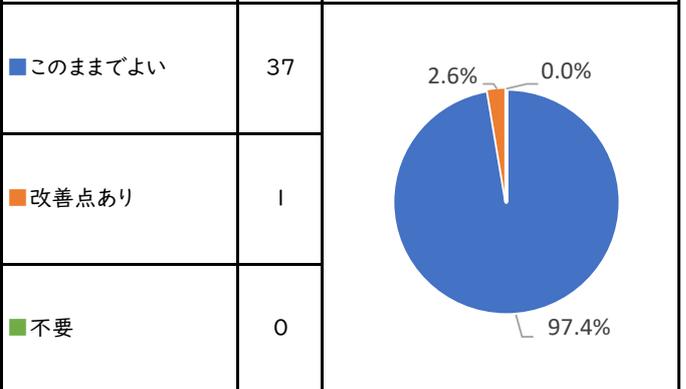


## アセスメントパッケージ プロフィールスコア

STEP0  
アセスメントパッケージ (AP88プロフィール)

- アセスメントパッケージ88のプロフィールスコアから直接観察で確認されたスキルと日々の評価場面 (インフォーマル) のスキルを確認していく
- ◎スキルを活用して、○スキルや△スキルに狙いを付ける
- 未評価の項目を確認していくこと、また評価は日々改訂されていく必要がある
- STEP1行動から学習スタイルの把握の視点を培う

① 見て考えることが聞くことよりも得意 (聴覚学習・聴覚処理が苦手)  
② 得意な学習スタイルが異なる (個別な学習スタイルが異なる)  
③ 発達自立や余暇活動に◎(のびる)が多い  
例) 認知レベルを確認して、興味関心に即した余暇活動を提供する

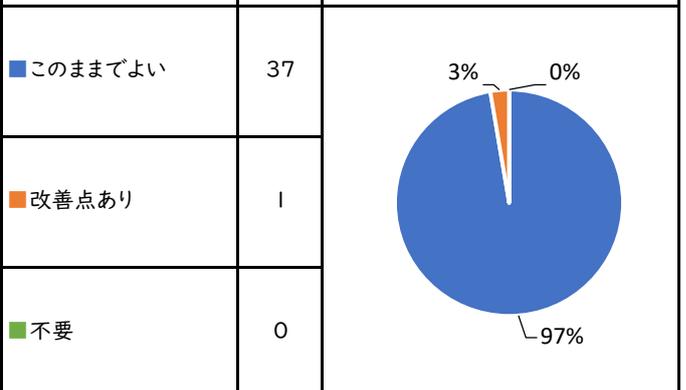


## 【全景】本研修の討議 (演習) 構成 演習I~III 7STEP

演習I 学習スタイル  
演習II 氷山モデル  
演習III 見て分かる工夫

本研修第2-3回の7STEP (第2回に実施すること)

- アセスメントパッケージへの入力
- 学習スタイルの抜き出し済み内容の確認
- 自身の事例の学習スタイルの抜き出し
- 自身の事例の学習スタイルが弱みになる環境・状況を記入
- 必要なサポート (学習スタイルが進みになる工夫) を記入
- 支援目標の設定に即して支援目標 (目標の根拠を記入)
- 活動参加の支援計画 (1回目 (現状から変えている部分) ↓ 課題分析シート (実施評価))

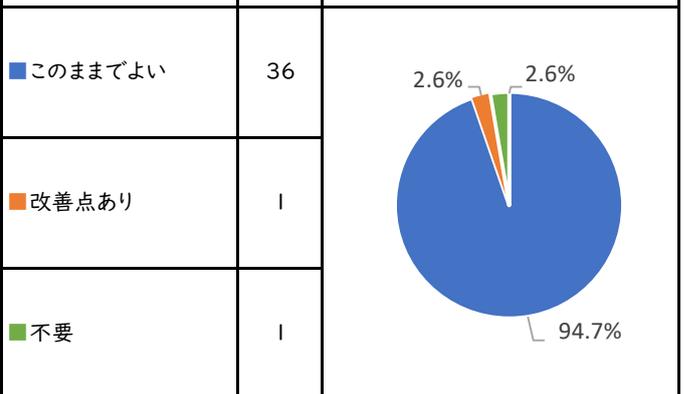


## 演習I 学習スタイル (潜在的) のアセスメントシート

STEP1 学習スタイル  
チェックシート

ビデオ学習

- 学習スタイルの抜き出し済み内容の確認 (5分)
- 自身のモデルの学習スタイルの抜き出し (15分)



**(行動) 障害 = f(特性 × 環境)**

課題となっている行動

本人の特性  
★学習スタイル

環境・状況

必要なサポート

学習スタイルを強みに変える環境・状況を作る  
⇒見て分かる工夫  
標準的な支援

**学習スタイルを強みにする要素**

- 見れば分かる (場所・時間・やり方)
- 情報調節で高い集中
- 繰り返しが得意
- ルールや気持ちが見えれば分かる
- 苦手は配慮して、好む刺激は保証する

■このままでよい	38	
■改善点あり	0	
■不要	0	

**演習② 氷山モデル**

学習スタイル (潜在的ニーズ) のアセスメントシート

氷山モデルワークシート

STEP1-2 氷山モデルシート

- ①学習スタイルの抜き出し済み内容の確認 (5分)
- ②自身の事例の学習スタイルの抜き出し (15分)
- ③自身の事例の学習スタイルが弱みになる環境・状況を記入
- ④必要なサポート (学習スタイルが強みになる工夫) を記入
  - ・見れば分かる
  - ・情報調節で高い集中
  - ・ルールや気持ちが見えれば分かる
  - ・苦手は配慮して、好む刺激は保証する

■このままでよい	38	
■改善点あり	0	
■不要	0	

社会的認知

聴覚処理

暗黙学習の困難

感覚の特性

独特な注目

実行機能

テーブル高さ

■このままでよい	36	
■改善点あり	2	
■不要	0	

⑦ 支援計画・支援目標 (できることから変える・実現・継続可能性)

学習スタイル

支援計画

- ①状態目標・行動目標に
  - ・本人の願いを行動レベルに
  - ・興味関心を用いる
- ②発達レベルに即した目標に
  - ・オーバースキル
  - ・できるスキルを用いて
  - ・できそうなスキルにアプローチする
- ③可能な限り一人でできる目標
  - ・自律性・自立性
  - ・満足感が得られること
- ④役に立つ目標に
  - ・機能性があること
  - ・有益であること
- ⑤保護者や職員への願いを (ライフステージや優先順位)

支援方略 (見て分かる工夫)

適切なリーライ

見え方の工夫

方法の工夫

時間の工夫

場所の工夫

学習スタイルを尊重する

■このままでよい	38	
■改善点あり	0	
■不要	0	

**学習スタイルと見て分かる工夫の構成要素**

社会的認知

聴覚処理

暗黙学習の困難

感覚の特性

独特な注目

実行機能

いつ：時間の工夫

どこで：場所の工夫

何を：方法の工夫

どのくらい：方法の工夫

次は：方法の工夫

どうやって：見え方の工夫

自閉症の学習スタイル (潜在的ニーズ) = 見て分かる工夫 (合理的配慮)

■このままでよい	37	
■改善点あり	1	
■不要	0	

<h3>「見て分かる工夫」</h3> <p>環境調整要素との関連</p>	<p>■このままでよい</p> <p>■改善点あり</p> <p>■不要</p>	<p>37</p> <p>1</p> <p>0</p>											
<h3>「見て分かる工夫」</h3> <p>見て分かる工夫の構成要素</p> <table border="1"> <tr> <td>場所の工夫</td> <td>場所と活動の一致、レイアウト、境界、表示、刺激調整、動線、教材の配置</td> </tr> <tr> <td>時間の工夫</td> <td>理解、長さ、扱い方、時間概念の示し方、トランジション、変更や中止の示し方、週・月のスケジュール</td> </tr> <tr> <td>方法の工夫</td> <td>扱い方、終了箱、タイマーなど</td> </tr> <tr> <td>見え方の工夫</td> <td>組織化（モノの関係性や配置など）、視覚的指示、視覚的明瞭化（強調、他の刺激との関連）</td> </tr> <tr> <td>その他の個別の配慮</td> <td>ルーティン、興味関心、コミュニケーション、感覚</td> </tr> </table>	場所の工夫	場所と活動の一致、レイアウト、境界、表示、刺激調整、動線、教材の配置	時間の工夫	理解、長さ、扱い方、時間概念の示し方、トランジション、変更や中止の示し方、週・月のスケジュール	方法の工夫	扱い方、終了箱、タイマーなど	見え方の工夫	組織化（モノの関係性や配置など）、視覚的指示、視覚的明瞭化（強調、他の刺激との関連）	その他の個別の配慮	ルーティン、興味関心、コミュニケーション、感覚	<p>■このままでよい</p> <p>■改善点あり</p> <p>■不要</p>	<p>38</p> <p>0</p> <p>0</p>	
場所の工夫	場所と活動の一致、レイアウト、境界、表示、刺激調整、動線、教材の配置												
時間の工夫	理解、長さ、扱い方、時間概念の示し方、トランジション、変更や中止の示し方、週・月のスケジュール												
方法の工夫	扱い方、終了箱、タイマーなど												
見え方の工夫	組織化（モノの関係性や配置など）、視覚的指示、視覚的明瞭化（強調、他の刺激との関連）												
その他の個別の配慮	ルーティン、興味関心、コミュニケーション、感覚												
<h3>演習Ⅲ活動参加の支援計画書</h3> <p>5</p> <p>6</p>	<p>■このままでよい</p> <p>■改善点あり</p> <p>■不要</p>	<p>37</p> <p>1</p> <p>0</p>											
<h3>演習Ⅲ見て分かる工夫ワークシート</h3> <p>7</p>	<p>■このままでよい</p> <p>■改善点あり</p> <p>■不要</p>	<p>37</p> <p>1</p> <p>0</p>											
<h3>Check モニタリング記録</h3> <h4>【支援の方向性を検討する】事例利用者からもらった答えを確認する</h4> <p>活動の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>適切にできた</li> <li>適切にできなかった</li> </ul> <p>他の活動を教える   日常生活で機会を保障   活動の幅を広げる   ゴール設定の見直し   工夫の改善（手順の変更・視覚的支援の工夫）   教え方や指示の出し方を変える</p> <p>失敗があるとなれば、利用者からもチームからも答えをもらわなかったこと、もらおうとしなかったこと</p>	<p>■このままでよい</p> <p>■改善点あり</p> <p>■不要</p>	<p>38</p> <p>0</p> <p>0</p>											

### 【課題分析を利用して教える】

行動の単位	1回	2回	3回
①食器を流しに持って行く	△G	△V	△V
②スポンジに洗剤をつける	△P	△G	△G
③食器をスポンジで洗う	△M	△V	△V
④スポンジをゆすいで片付ける	△G	△V	○+
⑤食器を水洗いしてカゴに入れる	△G	△G	△V
⑥食器を布巾でふく	△G	△V	△V
⑦食器を食器棚に片付ける	△G	△V	○+

■このままでよい	38	
■改善点あり	0	
■不要	0	

### 【課題分析を利用して教える】 「見て分かる支援のアイデア」

行動の単位	見て分かる支援のアイデア
①食器を流しに持って行く	スケジュールで提示
②スポンジに洗剤をつける	洗剤の量はキャップ1杯
③食器をスポンジで洗う	ルーチン (内側5回→外5回)
④スポンジをゆすいで片付ける	スポンジおきを設置
⑤食器を水洗いしてカゴに入れる	全部水桶に入れてから、一つずつ水洗いする
⑥食器を布巾でふく	ルーチン (内側5回→外5回)
⑦食器を食器棚に片付ける	食器おきを設置

■このままでよい	38	
■改善点あり	0	
■不要	0	

### ◎場所の工夫の改善ガイド

ワークシート	改善へのガイド
①境界は何か？ ○鳥や家具など ○テーブル、カーペットやマットなど ○パーテーション (1～3面?)	□本人にとって、場所の区間がないか □支援者の把握を阻害していないか □家具や什器の配置や設置は安全か
②刺激のコントロールは？ ○見えると注意が奪われるものとの距離と配慮 ○移動の際の距離と視覚的な配慮 ○騒音の配慮	□注意への配慮があるか □移動の際の刺激配慮があるか □障がい者との交差・時間の配慮
③見て分かる工夫は何か？ ○休憩場所の設定 ○活動場所の設定	□場所の標示の方法 □個別の活動場所・方法の配慮の有無

▶上記チェック項目を反映させて場所の工夫の見取り図を記入ください (利用者の活動エリアを明確に)

■このままでよい	37	
■改善点あり	1	
■不要	0	

### ◎見え方の工夫の改善ガイド

ワークシート	改善へのガイド
①具体的に視覚的指示 ○本人が見て分かる指示 (ワークカード・実物) ○人に代わる指示 (目で分かる指示)	□本人の理解レベルに則しているか □本人の理解度と興味関心に則しているか
②はっきりと明瞭化 ○本人が気づくための強調 ○区別がつくためのコントラスト	□本人の注意を引きつけているか □コントラストは区別を助けているか
③まとめる組織化 ○注目の範囲内に素材を整理 ○一定の作業の流れ (ルーチン) を形作るための整理整頓	□本人の組織化レベルに則しているか □ルーチンに一貫性を用いているか

▶上記チェック項目を反映させて自立のための活動 (自立課題・受注作業・外作業など) を記入ください

■このままでよい	37	
■改善点あり	1	
■不要	0	

### ◎やり方の工夫の改善ガイド

ワークシート	改善へのガイド
①何をするかを伝える ○本人が見て分かる指示 (ワークカード・実物) ○取り組み方・流れ (欄・机・FB: 終了箱)	□本人の理解レベルに則しているか □本人の理解度と興味関心に則しているか
②活動の長さ・量は何か適切か ○一回のワークの長さ (5分・30分・60分) ○活動の量 (少量・中程度・多量)	□本人の集中の持続力に適しているか □作業耐性を支える仕組みはあるか
③活動の終わりを伝える ○本人が見て分かる指示 (ワークカード・実物) ○一定の作業の流れ (ルーチン) を形作るための欄・終了箱	□本人の組織化レベルに則しているか □ルーチンに一貫性を用いているか
④終わったら何が出来るかを伝える ○見て分かる指示 (ワークカードで楽しみを提示・実物で提示) ○終わった後スケジュールへ移動するトランジションカード	□本人の動機を支える報酬か □内部的動機と外発的動機のバランスはどうか

▶上記チェック項目を反映させて本人の目標からみたやり方の工夫を記入ください

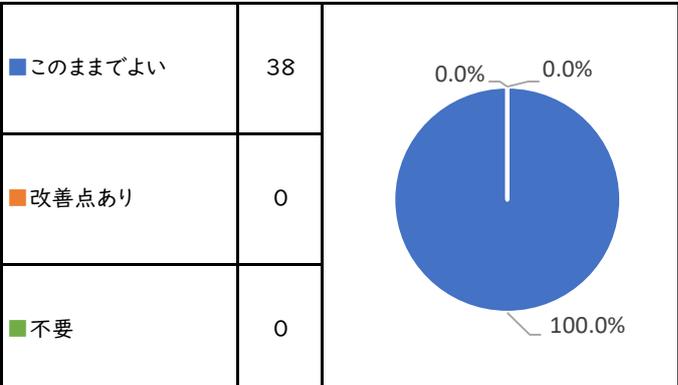
■このままでよい	37	
■改善点あり	1	
■不要	0	

<h2>伝え方（人かそれ以外か）</h2> <p>これを踏まえて、「自立」に向けた最適な「伝え方」を組み合わせる</p>	<p>■このままでよい</p> <p>■改善点あり</p> <p>■不要</p>	<p>38</p> <p>0</p> <p>0</p>	<p>0.0%</p> <p>0.0%</p> <p>100.0%</p>																
<h3>【支援の方向性を検討する】</h3> <p>事例利用者からもらった答えを確認する</p> <p>失敗があるとするば、利用者からもチームからも答えをもらわなかったこと、もらおうとしなかったこと</p>	<p>■このままでよい</p> <p>■改善点あり</p> <p>■不要</p>	<p>38</p> <p>0</p> <p>0</p>	<p>0.0%</p> <p>0.0%</p> <p>100.0%</p>																
<h3>「見て分かる工夫」</h3> <p>環境調整要素との関連</p>	<p>■このままでよい</p> <p>■改善点あり</p> <p>■不要</p>	<p>37</p> <p>0</p> <p>1</p>	<p>0.0%</p> <p>2.6%</p> <p>97.4%</p>																
<h3>アセスメントから見て分かる工夫の改善（ワーク）</h3> <table border="1"> <thead> <tr> <th>ステップ</th> <th>初回</th> <th>2回</th> <th>3回</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 自立課題に取り組み</td> <td>P△</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2 無くなったからおしまい</td> <td>P△</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3 終了箱に入れる</td> <td>P△</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>評価 → 学習スタイル</p> <p>暗黙学習の困難 P手添えによる指示が必要（芽生え） 独特の注意 実行機能の困難</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①視覚情報をまとめて処理できない ②注目が狭く強い（注目すべき情報に注目できない） ③活動や時間の「はじまり」と「終わり」が理解できない</p> </div>	ステップ	初回	2回	3回	1 自立課題に取り組み	P△			2 無くなったからおしまい	P△			3 終了箱に入れる	P△			<p>■このままでよい</p> <p>■改善点あり</p> <p>■不要</p>	<p>38</p> <p>0</p> <p>0</p>	<p>0.0%</p> <p>0.0%</p> <p>100.0%</p>
ステップ	初回	2回	3回																
1 自立課題に取り組み	P△																		
2 無くなったからおしまい	P△																		
3 終了箱に入れる	P△																		
<h3>再評価と見て分かる工夫の改善（ワーク）</h3> <table border="1"> <thead> <tr> <th>ステップ</th> <th>初回</th> <th>2回</th> <th>3回</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 自立課題に取り組み</td> <td>P△</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>2 無くなったからおしまい</td> <td>P△</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>3 終了箱に入れる</td> <td>P△</td> <td>M△</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table> <p>学習スタイル → 改善内容</p> <p>暗黙学習の困難 独特な注意 実行機能 見え方の工夫 (まとめる組織化)</p>	ステップ	初回	2回	3回	1 自立課題に取り組み	P△	○	○	2 無くなったからおしまい	P△	○	○	3 終了箱に入れる	P△	M△	○	<p>■このままでよい</p> <p>■改善点あり</p> <p>■不要</p>	<p>37</p> <p>1</p> <p>0</p>	<p>2.6%</p> <p>0.0%</p> <p>97.4%</p>
ステップ	初回	2回	3回																
1 自立課題に取り組み	P△	○	○																
2 無くなったからおしまい	P△	○	○																
3 終了箱に入れる	P△	M△	○																

# ◎時間の工夫の改善ガイド

ワークシート		改善へのガイド
①形態	<input type="radio"/> 本人が見て分かる指示 (実物・半実物・写真カード・イラストカード・文字)	<input type="checkbox"/> 本人の理解レベルに則しているか <input type="checkbox"/> 本人の理解度と興味関心に則しているか
②長さ・位置	<input type="radio"/> 本人の理解度に合わせて長さ <input type="radio"/> 本人の注意に合わせて提示位置	<input type="checkbox"/> 本人の注意を引きつけているか <input type="checkbox"/> コントラストは区別を助けているか
③活動開始の合図	<input type="radio"/> 人に代わるタイマー・時計などの合図 <input type="radio"/> 一定の作業の流れ (ルーティン) とトランジション (中継システム)	<input type="checkbox"/> 本人の組織化レベルに則しているか <input type="checkbox"/> ルーティンに一貫性を用いているか

▶上記チェック項目を反映させて自立のためのスケジュールシステムを記入ください



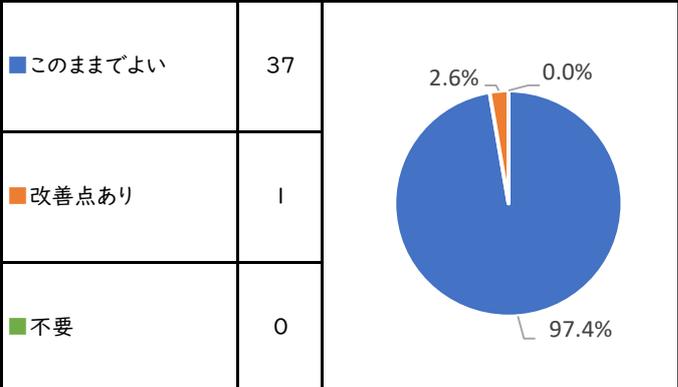
### アセスメントから見て分かる工夫 (時間の工夫)

ステップ	初回	2回	3回
1 ワークカードを受け取る	○		
2 ワークカードをポケットに入れる	P&G△		
3 着席してワークに取り組む	○		

再評価 指さしによる指示が必要

学習スタイル: 暗黙学習の困難, 独特な注意, 実行機能の困難

①視覚情報をまとめて処理できない  
②注目が狭く強い (注目すべき情報に注目できない)  
③活動や時間の「はじまり」と「終わり」が理解できない

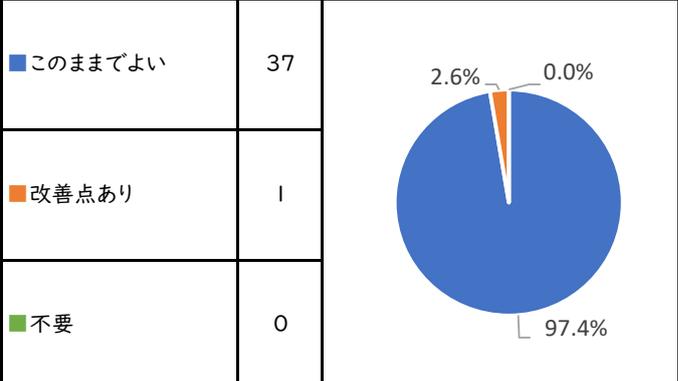


### 再評価と見て分かる工夫の改善 (ワーク)

ステップ	初回	2回	3回
1 自立課題に取り組む	P△	○	○
2 無くなったらおしまい	○	○	○
3 終了箱に入れる	P△	M△	○

学習スタイル: 暗黙学習の困難, 独特な注意, 実行機能

改善内容: 見え方の工夫 (まとめる組織化)



### 【支援の方向性を検討する】

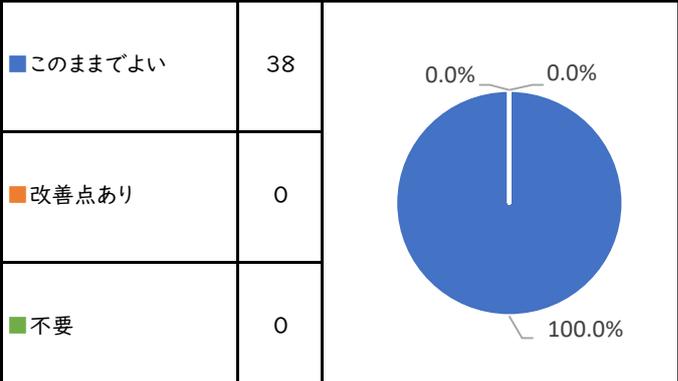
事例利用者からもらった答えを確認する

活動の実施

適切にできた: 他活動を教える, 日常生活で機会を保障, 活動の幅を広げる

適切にできなかった: ゴール設定の見直し, 工夫の改善 (手順の変更・視覚的支援の工夫), 教え方や指示の出し方を変える

失敗があるとすれば、利用者からもチームからも答えをもらわなかったこと、もらおうとしなかったこと

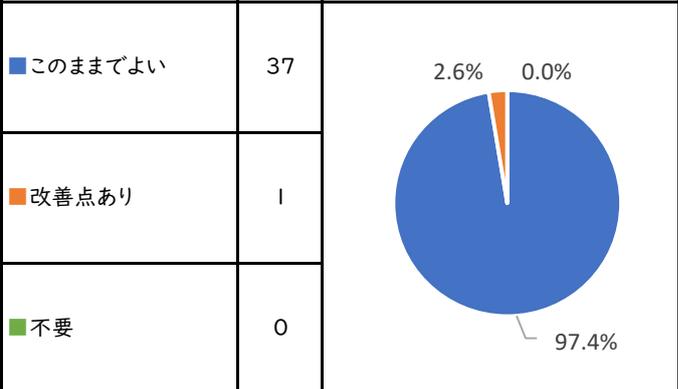


### 【チーム支援の実際】

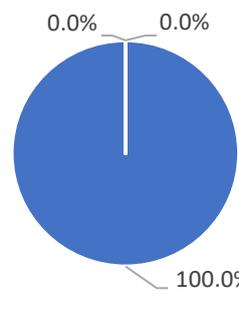
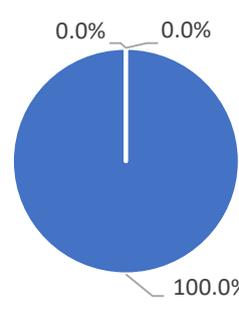
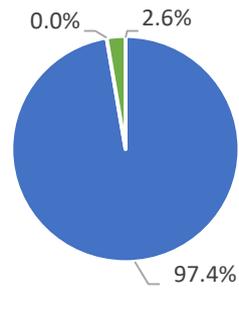
チームの進むべき方向：地図とログを作る

チームへの支援の見える化記録へ

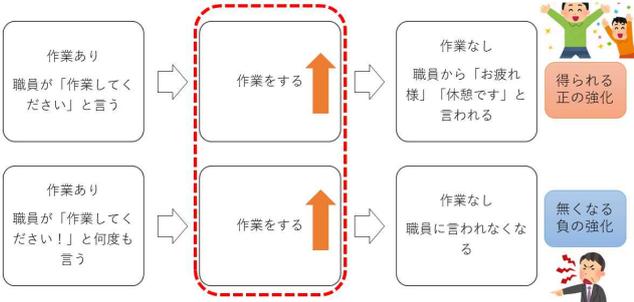
手ぶらで支援しない

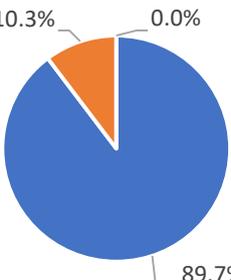
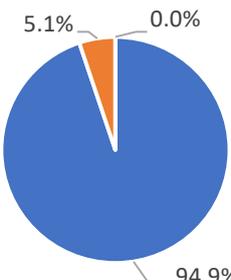
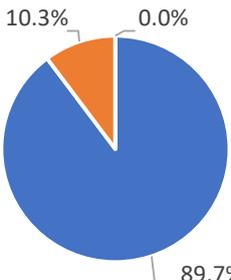
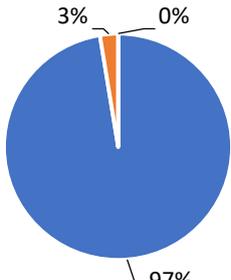
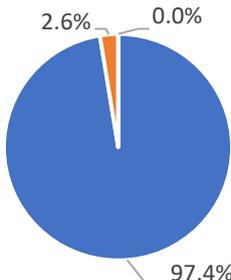


【データの活用】 事例利用者からもらった答えを「整理」する				
		<input checked="" type="checkbox"/> このままでよい <input type="checkbox"/> 改善点あり <input type="checkbox"/> 不要	37  1  0	
		<input checked="" type="checkbox"/> このままでよい <input type="checkbox"/> 改善点あり <input type="checkbox"/> 不要	38  0  0	
<b>行動マネジメント</b>				
<b>①学習スタイルの把握</b> <input checked="" type="checkbox"/> 氷山モデルを用いる <input checked="" type="checkbox"/> 本人の発達レベルに即した支援	<b>チェック項目</b> <input type="checkbox"/> 特性と氷山モデル、支援方略の一致 <input type="checkbox"/> 本人の発達・理解レベル・興味関心の評価との一致	<input checked="" type="checkbox"/> このままでよい <input type="checkbox"/> 改善点あり <input type="checkbox"/> 不要	38  0  0	
<b>②行動を起こす前の環境整備</b> <input type="checkbox"/> 苦手な刺激や状況を避けている <input type="checkbox"/> 本人が今・何をするかを視覚的に理解している <input type="checkbox"/> 表現コミュニケーションスキルへの指導	<input type="checkbox"/> 苦手な刺激・状況の事前把握 <input type="checkbox"/> 見て分かる工夫と自立度は一致しているか <input type="checkbox"/> 習得(学ぶ)・自立(できる)・般化(応用)の支援プロセスを踏んでいるか	<input type="checkbox"/> このままでよい <input checked="" type="checkbox"/> 改善点あり <input type="checkbox"/> 不要	0	
<b>③行動支援の計画と記録</b> <input type="checkbox"/> 行動問題が起こった際の対応計画がある <input type="checkbox"/> 行動問題の収束のための方略がある <input type="checkbox"/> データ収集の目的が共有されモニタリングされている	<input type="checkbox"/> 計画が文書化され情報共有されている <input type="checkbox"/> 奮起曲線支援(動揺期・爆発期)の方略が準備されている <input type="checkbox"/> データ収集内容が定期的に分析され、それを元にした支援介入の改善がなされている	<input type="checkbox"/> このままでよい <input type="checkbox"/> 改善点あり <input checked="" type="checkbox"/> 不要	0	
<b>アセスメントと支援目標</b>				
<b>①支援目標の妥当性</b> <input type="checkbox"/> 本人の発達レベル・強み・ニーズに即している <input type="checkbox"/> 支援目標は、強みを活かしてめばえスキルにアプローチしている	<b>チェック項目</b> <input type="checkbox"/> 利用者の発達相当年齢を領域ごとに大まかに把握 <input type="checkbox"/> めばえスキルのフォーマル/インフォーマル評価	<input checked="" type="checkbox"/> このままでよい <input type="checkbox"/> 改善点あり <input type="checkbox"/> 不要	38  0  0	
<b>②活動内容の妥当性</b> <input type="checkbox"/> 本人の発達レベル・強み・ニーズに即している <input type="checkbox"/> 本人の興味関心と慣れ親しみ、明解な活動内容になっている	<input type="checkbox"/> 興味関心や集中の持続レベルに即しているか <input type="checkbox"/> 見て分かる工夫がされた活動か	<input type="checkbox"/> このままでよい <input checked="" type="checkbox"/> 改善点あり <input type="checkbox"/> 不要	0	
<b>③自立と般化・柔軟性</b> <input type="checkbox"/> 自立を促す指示の出し方になっている <input type="checkbox"/> 計画的にルーティンの変化が支援に組み込まれている	<input type="checkbox"/> 本人の理解度に合わせた指示レベルか <input type="checkbox"/> 場面と活動内容、支援者の組み合わせが計画的か	<input type="checkbox"/> このままでよい <input type="checkbox"/> 改善点あり <input checked="" type="checkbox"/> 不要	0	
<b>コミュニケーション・余暇</b>				
<b>①理解コミュニケーション</b> <input type="checkbox"/> 本人が理解できる言葉のレベル・長さ・内容である <input type="checkbox"/> 支援者の言葉がけは意図的でコントロールされている	<input type="checkbox"/> 本人の理解レベルに則し、混乱がないか <input type="checkbox"/> 口頭の指示は視覚支援に置き換えられているか	<input checked="" type="checkbox"/> このままでよい <input type="checkbox"/> 改善点あり <input type="checkbox"/> 不要	38  0  0	
<b>②表現コミュニケーション</b> <input type="checkbox"/> 本人の表現コミュニケーション目標は、学習スタイルから導かれたか <input type="checkbox"/> コミュニケーションは自発性と方向性が加味されている <input type="checkbox"/> 習得・自立・般化の支援計画がデザインされているか	<input type="checkbox"/> インフォーマル/フォーマルアセスメントの実施 <input type="checkbox"/> 意味あるコミュニケーションか <input type="checkbox"/> 支援内容の発展をはじめから計画しているか	<input type="checkbox"/> このままでよい <input checked="" type="checkbox"/> 改善点あり <input type="checkbox"/> 不要	0	
<b>③余暇</b> <input type="checkbox"/> 余暇と社会性のスキル支援は、学習スタイルと興味関心から成り立つ <input type="checkbox"/> 社会性(人との関わり方)のレベルに即しており自立している	<input type="checkbox"/> インフォーマル/フォーマルアセスメントの実施 <input type="checkbox"/> 接近、並行、順番、ルール理解の評価	<input type="checkbox"/> このままでよい <input type="checkbox"/> 改善点あり <input checked="" type="checkbox"/> 不要	0	

協働 (家族・支援チーム)		チェック項目																																															
<p>① 家族・後見人との連携</p> <p>○ 家族からの情報を支援に組み込んでいる</p> <p>○ 家族・後見人と定期的な情報共有の機会が確保されている</p> 	<p>○ 本人の発達レベルに即した支援</p> <p>○ 学習形態や方法を選んでいる</p> <p>○ 本人が自ら気づくまで継続的に理解している</p> <p>○ 発達コミュニケーションスキルへの指導</p> <p>○ 行動課題が起きた際の対応計画がある</p> <p>○ 行動調整の得意なものがわかる</p> <p>○ データ収集の目的が共有されモニタリングされている</p>	<p>□ 本人の客観的なアセスメント情報に基づく情報共有</p> <p>□ 本人のニーズに即した支援内容を情報共有</p>	■ このままでよい	38																																													
			<p>② 支援チームとの協働</p> <p>○ 支援チームからの情報を支援に組み込んでいる</p> <p>○ 支援チームと定期的な情報共有の機会が確保されている</p> 	<p>□ 本人の客観的なアセスメント情報に基づく情報共有</p> <p>□ 本人のニーズに即した支援内容を情報共有</p>		■ 改善点あり	0																																										
			■ 不要	0																																													
<p>◎ 環境調整支援の忠実性ガイドと相互評価</p> <p>行動マネジメント</p> <p>● 完全実施・△部分的・-最小限</p>		<table border="1"> <thead> <tr> <th>チェック項目</th> <th>実施</th> <th>部分</th> <th>最小</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 学習スタイルの把握</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>② 行動を促す前の環境整備</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>③ 行動支援の計画と記録</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>④ 支援目標の妥当性</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑤ 活動内容の妥当性</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑥ 自立と一般化・柔軟性</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑦ 理解コミュニケーション</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑧ 表現コミュニケーション</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑨ 余暇</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑩ 協働 (家族・支援チーム)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	チェック項目	実施	部分	最小	① 学習スタイルの把握				② 行動を促す前の環境整備				③ 行動支援の計画と記録				④ 支援目標の妥当性				⑤ 活動内容の妥当性				⑥ 自立と一般化・柔軟性				⑦ 理解コミュニケーション				⑧ 表現コミュニケーション				⑨ 余暇				⑩ 協働 (家族・支援チーム)				<p>■ このままでよい</p> <p>■ 改善点あり</p> <p>■ 不要</p>	<p>38</p> <p>0</p> <p>0</p>	
チェック項目	実施	部分	最小																																														
① 学習スタイルの把握																																																	
② 行動を促す前の環境整備																																																	
③ 行動支援の計画と記録																																																	
④ 支援目標の妥当性																																																	
⑤ 活動内容の妥当性																																																	
⑥ 自立と一般化・柔軟性																																																	
⑦ 理解コミュニケーション																																																	
⑧ 表現コミュニケーション																																																	
⑨ 余暇																																																	
⑩ 協働 (家族・支援チーム)																																																	
<p>● 巨人の肩に乗る コア・ヴァリュ</p> 			<p>■ このままでよい</p> <p>■ 改善点あり</p> <p>■ 不要</p>	<p>37</p> <p>0</p> <p>1</p>																																													

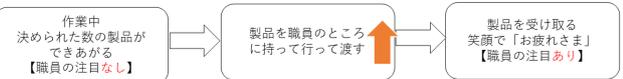
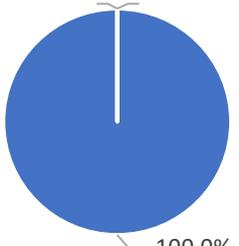
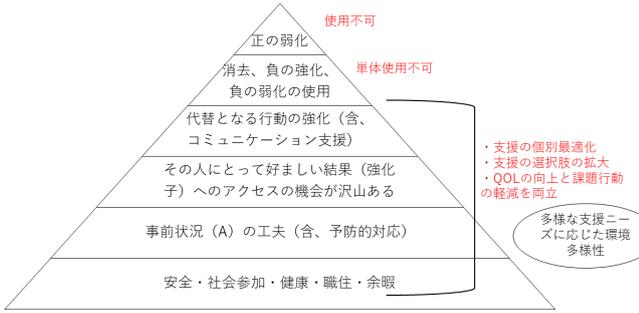
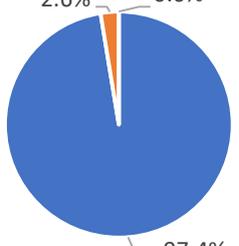
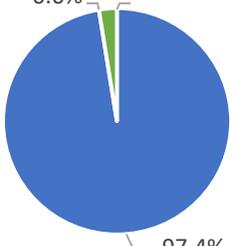
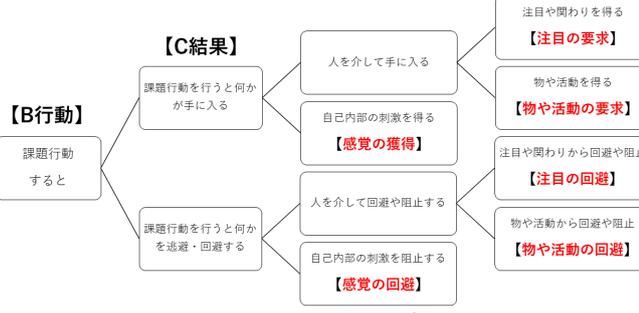
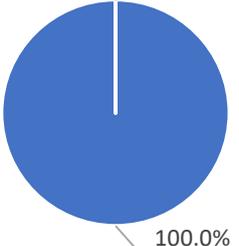
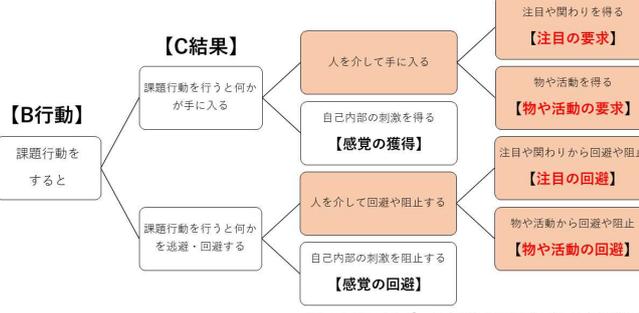
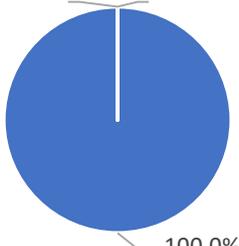
## 中核的人材養成研修 第4回目(1/11) 講義スライドに関するアンケート結果

スライド	回答数(n=39)		割合
<p>このコマのポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ねらい1 (知識レベル) なぜ課題行動が起きているのかについて、行動の機能 (意味や意図) から理解します。</li> <li>ねらい2 (技能レベル) 行動の機能 (意味や意図) を評価するための方法として、機能的アセスメントを学びます。</li> <li>ねらい3 (技能レベル) 機能的アセスメントに基づいて、課題行動に替わるコミュニケーションなどの望ましい行動が、生じやすい環境調整を立案するために、ストラテジーシートの活用を学びます。</li> </ul>	<p>■このままでよい</p> <p>■改善点あり</p> <p>■不要</p>	<p>39</p> <p>0</p> <p>0</p>	<p>0.0% 0.0% 100.0%</p>
<p>チャレンジング行動</p>  <p>スポーツでは、審判の判断に不服があるときに、異議申し立てし、再審を要求することを「challenge」と言います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「なぜ、その行動が生じているのか」 <ul style="list-style-type: none"> <li>やる気がない、好きなようにしたい、自閉症だから・・・、理由を性格、気持ち、障害という個人の中に求める</li> <li>行動と環境との関係に求めるという考え方</li> </ul> </li> <li>Challengeの語源は、人の考えに対して「異議を唱える」「疑問を呈する」「説明を求める」という意味である。</li> <li>行動に焦点をあて、行動によって私たち周囲に対して示されたご本人の望みや社会的な課題を知ることが重要である。ご本人と周囲の人が「行動によって示された課題」に協力して取り組むことを意味している。</li> </ul> <p><small>武蔵 崇(2018).なぜ日本人には「チャレンジング行動」という用語の理解が難しいのかー認知症のBPSDに対する介入におけるパラダイム・シフトの核心ー 同志社大学心理臨床科学,第8巻,第1号,31-38.</small></p>	<p>■このままでよい</p> <p>■改善点あり</p> <p>■不要</p>	<p>38</p> <p>1</p> <p>0</p>	<p>2.6% 0.0% 97.4%</p>
<p>強化の原理</p> 	<p>■このままでよい</p> <p>■改善点あり</p> <p>■不要</p>	<p>38</p> <p>1</p> <p>0</p>	<p>2.6% 0.0% 97.4%</p>
<p>正の強化</p> <p>ある【A状況やきっかけ】で ある【B行動】をして 好ましい【C結果】が得られると 将来、その行動は起きやすくなる</p> 	<p>■このままでよい</p> <p>■改善点あり</p> <p>■不要</p>	<p>39</p> <p>0</p> <p>0</p>	<p>0.0% 0.0% 100.0%</p>

<h3>行動の原理</h3> <table border="1" data-bbox="178 219 730 470"> <thead> <tr> <th></th> <th>結果として得られる、増えた正の方向</th> <th>結果として得られない、減った負の方向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>良いこと 好きなこと (好子/強化子)</td> <td>正の強化 行動増加 ↑</td> <td>負の弱化 行動減少 ↓</td> </tr> <tr> <td>悪いこと 嫌なこと</td> <td>正の弱化 行動減少 ↓</td> <td>負の強化 行動増加 ↑</td> </tr> </tbody> </table>		結果として得られる、増えた正の方向	結果として得られない、減った負の方向	良いこと 好きなこと (好子/強化子)	正の強化 行動増加 ↑	負の弱化 行動減少 ↓	悪いこと 嫌なこと	正の弱化 行動減少 ↓	負の強化 行動増加 ↑	<p>■このままでよい 35</p> <p>■改善点あり 4</p> <p>■不要 0</p>	
	結果として得られる、増えた正の方向	結果として得られない、減った負の方向									
良いこと 好きなこと (好子/強化子)	正の強化 行動増加 ↑	負の弱化 行動減少 ↓									
悪いこと 嫌なこと	正の弱化 行動減少 ↓	負の強化 行動増加 ↑									
<h3>日常的な例</h3> <p>① 勤務日に全て出勤したら、皆勤手当を500円渡すようにした。バイトが休まなくなった。</p> <p>A 勤務日 お金なし → B 全て出勤 → C 皆勤手当で500円 お金あり</p> <p>【行動の原理： 正の強化】</p> <p>② のどが痛くなったので、龍角散のどあめをなめたら、のどの痛みがとれた。のどあめは龍角散に決めている。</p> <p>A のどの痛み 痛みあり → B 龍角散をなめる → C のどの痛みがとれる 痛みなし</p> <p>【行動の原理： 負の強化】</p> <p><small>※ミスを選避するために何度も確認する。満員電車が滿なので早すぎるでも始発の電車に乗る。回避のための行動も負の強化です。</small></p>	<p>■このままでよい 37</p> <p>■改善点あり 2</p> <p>■不要 0</p>										
<h3>日常的な例</h3> <p>③ 寝坊して遅刻したら、皆の前で叱られた。その後、遅刻をしたことはない。</p> <p>A 寝坊した 叱責なし → B 遅刻した → C 皆の前で叱責 叱責あり</p> <p>【行動の原理： 正の弱化】</p> <p>④ 駐車場が満車だったので、ちょっとの間だけと思って路駐したら、駐禁切られて罰金を払った。</p> <p>A 駐車場が満車 罰金なし → B 路駐 → C 罰金あり</p> <p>【行動の原理： 負の弱化】</p>	<p>■このままでよい 35</p> <p>■改善点あり 4</p> <p>■不要 0</p>										
<h3>行動の原理 (例：作業の場面)</h3> <table border="1" data-bbox="140 1393 769 1653"> <thead> <tr> <th></th> <th>結果として得られる、増えた正の方向</th> <th>結果として得られない、減った負の方向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>良いこと 好きなこと (好子/強化子)</td> <td>作業が終わったら、休憩でお茶を飲む 作業への取り組み ↑</td> <td>作業を始めたら、好きな職員がいなくなってしまった 作業への取り組み ↓</td> </tr> <tr> <td>悪いこと 嫌なこと</td> <td>作業が終わったら、やり方が雑だと注意された 作業への取り組み ↓</td> <td>床に座り込んで動かなかった ので、作業をせずに済んだ 座り込んでしまう ↑</td> </tr> </tbody> </table>		結果として得られる、増えた正の方向	結果として得られない、減った負の方向	良いこと 好きなこと (好子/強化子)	作業が終わったら、休憩でお茶を飲む 作業への取り組み ↑	作業を始めたら、好きな職員がいなくなってしまった 作業への取り組み ↓	悪いこと 嫌なこと	作業が終わったら、やり方が雑だと注意された 作業への取り組み ↓	床に座り込んで動かなかった ので、作業をせずに済んだ 座り込んでしまう ↑	<p>■このままでよい 38</p> <p>■改善点あり 1</p> <p>■不要 0</p>	
	結果として得られる、増えた正の方向	結果として得られない、減った負の方向									
良いこと 好きなこと (好子/強化子)	作業が終わったら、休憩でお茶を飲む 作業への取り組み ↑	作業を始めたら、好きな職員がいなくなってしまった 作業への取り組み ↓									
悪いこと 嫌なこと	作業が終わったら、やり方が雑だと注意された 作業への取り組み ↓	床に座り込んで動かなかった ので、作業をせずに済んだ 座り込んでしまう ↑									
<h3>好子 (強化子) の例</h3> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 飲食物、睡眠、寒暖、性的刺激</li> <li>・ 他者からの注目 (ほめ言葉だけでなく注意も)</li> <li>・ 貨幣、お金</li> <li>・ ポイントなどの代用貨幣 (トークン・エコノミー法)</li> <li>・ 自分でやる (自分のタイミングでできること、趣味)</li> <li>・ 自分で選んだことができる (選択)</li> <li>・ こだわっていること、毎日よくやっていること、生活習慣としてやっていること</li> </ul>  <p>行動したらすぐに「60秒の法則」 好きなことが見つからない時は特性を見直す</p>	<p>■このままでよい 38</p> <p>■改善点あり 1</p> <p>■不要 0</p>										

<h3>特性が好子（強化子）のヒントになる</h3> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>事前</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・休憩場所を棚で区切る</li> <li>・休憩場所にマイ・ソファを設置</li> <li>・作業場所の作業の材料が全てなくなる</li> </ul> <p>場所の工夫 →一つの場所で一つの活動 方法の工夫 →材料がなくなったら終わり</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>行動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・休憩場所のマイ・ソファに移動する</li> <li>・座って次の作業を待つ</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>事後</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予想された結果、いつもと同じ結果になる</li> </ul> <p>学習スタイル →繰り返し安心して</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>その人にとっての好子（強化子）にアクセスできる生活 安心して快適で動機づけの高い生活</p> </div>	<p>■このままでよい</p> <p>39</p>	<p>0.0% 0.0%</p> <p>100.0%</p>									
<h3>情報提供：ここまでの内容をより深く学びたい方へ</h3> <div style="text-align: center;"> </div> <p style="text-align: center;">日本ポジティブ行動支援ネットワーク研修動画（無料）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・強化に基づく支援のあり方</li> <li>・行動を理解する「ABC」の枠組み</li> <li>・記録の役割</li> </ul>	<p>■このままでよい</p> <p>39</p>	<p>0.0% 0.0%</p> <p>100.0%</p>									
<h3>行動の原理（例：課題行動の場面）</h3> <p>集団が苦手なのはわかっているが、場所もせまく、受注作業ができるので、作業室で皆と受注作業に取り組んでいる。しかし、急に隣の人を叩くことがある。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>結果として 得られる、増えた、正の方向</th> <th>結果として 得られない、減った、負の方向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>良いこと 好きなこと</td> <td>叩くと職員が近づいて「叩かないで」と注意する (注目してほしい人なら) <b>隣の人を叩く ↑</b></td> <td>叩いたら、好きなドライブは行けませんという約束にする(ドライブを楽しみにしている人なら) <b>隣の人を叩く ↓</b> (例、タイムアウト、お手つき休み)</td> </tr> <tr> <td>悪いこと 嫌なこと</td> <td>叩くと職員が両手をおさえて、強く注意する (叱責に恐怖や不安を感じる人なら) <b>隣の人を叩く ↓</b></td> <td>職員が来て「少し落ち着きましょう」と言って作業室から出ることができる(作業が嫌な人なら) <b>隣の人を叩く ↑</b> (嫌なことがあるのが前提の場合になる。例、離してほしければ静かにしなさい)</td> </tr> </tbody> </table>		結果として 得られる、増えた、正の方向	結果として 得られない、減った、負の方向	良いこと 好きなこと	叩くと職員が近づいて「叩かないで」と注意する (注目してほしい人なら) <b>隣の人を叩く ↑</b>	叩いたら、好きなドライブは行けませんという約束にする(ドライブを楽しみにしている人なら) <b>隣の人を叩く ↓</b> (例、タイムアウト、お手つき休み)	悪いこと 嫌なこと	叩くと職員が両手をおさえて、強く注意する (叱責に恐怖や不安を感じる人なら) <b>隣の人を叩く ↓</b>	職員が来て「少し落ち着きましょう」と言って作業室から出ることができる(作業が嫌な人なら) <b>隣の人を叩く ↑</b> (嫌なことがあるのが前提の場合になる。例、離してほしければ静かにしなさい)	<p>■このままでよい</p> <p>38</p>	<p>2.6% 0.0%</p> <p>97.4%</p>
	結果として 得られる、増えた、正の方向	結果として 得られない、減った、負の方向									
良いこと 好きなこと	叩くと職員が近づいて「叩かないで」と注意する (注目してほしい人なら) <b>隣の人を叩く ↑</b>	叩いたら、好きなドライブは行けませんという約束にする(ドライブを楽しみにしている人なら) <b>隣の人を叩く ↓</b> (例、タイムアウト、お手つき休み)									
悪いこと 嫌なこと	叩くと職員が両手をおさえて、強く注意する (叱責に恐怖や不安を感じる人なら) <b>隣の人を叩く ↓</b>	職員が来て「少し落ち着きましょう」と言って作業室から出ることができる(作業が嫌な人なら) <b>隣の人を叩く ↑</b> (嫌なことがあるのが前提の場合になる。例、離してほしければ静かにしなさい)									
<p><b>支援として、嫌悪刺激は使用しない。課題行動を減らす目的で快刺激を制限することはしない。使用せざるを得ない場合は、法令を遵守し、組織的かつ計画的に行う。</b></p> <p>集団が苦手なのはわかっているが、場所もせまく、受注作業ができるので、作業室で皆と受注作業に取り組んでいる。しかし、急に隣の人を叩くことがある。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>結果として 得られる、増えた、正の方向</th> <th>結果として 得られない、減った、負の方向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>良いこと 好きなこと</td> <td>学習スタイルに合わせた作業を設定し、休憩はヘッドフォンで好きな音楽を聴き、スモールステップで量を増やす。 <b>作業に取り組む ↑</b></td> <td>作業はできるので、叩いたら「好きなドライブは行けません」という約束にする <b>隣の人を叩く ↓</b> <b>他の行動が出る可能性が高い</b></td> </tr> <tr> <td>悪いこと 嫌なこと</td> <td>作業はできるので、叩くと職員が両手をおさえて、強く注意する <b>隣の人を叩く ↓</b> <b>他の行動が出る可能性が高い</b></td> <td>職員が来て「少し落ち着きましょう」と言って作業室から出ることができる <b>隣の人を叩く ↑</b></td> </tr> </tbody> </table>		結果として 得られる、増えた、正の方向	結果として 得られない、減った、負の方向	良いこと 好きなこと	学習スタイルに合わせた作業を設定し、休憩はヘッドフォンで好きな音楽を聴き、スモールステップで量を増やす。 <b>作業に取り組む ↑</b>	作業はできるので、叩いたら「好きなドライブは行けません」という約束にする <b>隣の人を叩く ↓</b> <b>他の行動が出る可能性が高い</b>	悪いこと 嫌なこと	作業はできるので、叩くと職員が両手をおさえて、強く注意する <b>隣の人を叩く ↓</b> <b>他の行動が出る可能性が高い</b>	職員が来て「少し落ち着きましょう」と言って作業室から出ることができる <b>隣の人を叩く ↑</b>	<p>■このままでよい</p> <p>38</p>	<p>2.6% 0.0%</p> <p>97.4%</p>
	結果として 得られる、増えた、正の方向	結果として 得られない、減った、負の方向									
良いこと 好きなこと	学習スタイルに合わせた作業を設定し、休憩はヘッドフォンで好きな音楽を聴き、スモールステップで量を増やす。 <b>作業に取り組む ↑</b>	作業はできるので、叩いたら「好きなドライブは行けません」という約束にする <b>隣の人を叩く ↓</b> <b>他の行動が出る可能性が高い</b>									
悪いこと 嫌なこと	作業はできるので、叩くと職員が両手をおさえて、強く注意する <b>隣の人を叩く ↓</b> <b>他の行動が出る可能性が高い</b>	職員が来て「少し落ち着きましょう」と言って作業室から出ることができる <b>隣の人を叩く ↑</b>									
<h3>現場では：行動を減らすだけの支援の限界（弱化）</h3> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行動が減るときには、恐怖や不安を感じるもの、痛みや寒暖などの不快感がCの結果にある場合や、好きなことや大切なものが減ること、取られる場合がある</li> <li>・何をשהいはいけないかは学ぶが、何をすれば良いのかを学習できない</li> <li>・回避学習が成立してしまう <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題行動をやめるのではなく、嫌なことを避けようと新しい課題行動が起きる</li> <li>・例えば、怖い職員は起きないのに、他の職員のとときに課題行動が起きやすくなる</li> </ul> </li> <li>・反抗や攻撃など情緒的な反応を引き起こしやすい</li> <li>・効果が持続しない</li> <li>・支援者はより強い嫌悪刺激を出すようになる</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>弱化は原則使用しない。 危機対応として居室施設などの嫌悪的な手続を使用する場合は、必ず望ましい行動が生じやすく、強化される支援と組み合わせて行う。<b>弱化単体の使用不可</b></p> </div>	<p>■このままでよい</p> <p>39</p>	<p>0.0% 0.0%</p> <p>100.0%</p>									

<p><b>現場では：知らず知らずに行動を強化している(負の強化)</b></p> <p>作業中に人を叩くことが多くなった</p> <p>そもそも (A) に嫌悪的な状況がある。叩いた行動を問題にして、どう対応するかではなく、(A)の状況を改善する必要がある。<b>事前 (A)の対応の変更</b></p>	<p>■このままでよい</p> <p>39</p>	<p>0.0%</p> <p>0.0%</p> <p>100.0%</p>
<p><b>現場では：きっかけ (A) を減らすだけの支援の限界</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>問題となっている行動が生じやすい場面を避けたり、機会をなくす支援は効果的な場合もある</li> <li>場面をなくしただけでは、違う場面にズレるだけでいちごっこになる</li> <li>場面をなくす＝行動制限につながりやすい <ul style="list-style-type: none"> <li>散歩でも他害、作業でも他害、共用スペースでも他害・・・結局、一日居室で過ごすことが多くなってしまった。</li> <li>多飲水の対応で、水道の栓を単に止めると別の方法で感覚を得ようとする。水道の元栓を止めたら、トイレの水や風呂の水を飲むようになった。</li> <li>こだわっていることができないように環境を変えて、無理にできないようにだけすると、何が何でもやろうと衝動的な行動につながってしまう。</li> </ul> </li> </ul> <p>きっかけを減らす支援は効果的だが、注意が必要 生じやすい場面をなくす支援は、その行動をしても良い別の場面をつくるか、問題の場面で望ましい行動が生じやすい場面をつくり、正の強化で維持される支援と組み合わせる <b>過剰な刺激のはく奪の支援不可</b></p>	<p>■このままでよい</p> <p>38</p>	<p>2.6%</p> <p>0.0%</p> <p>97.4%</p>
<p><b>消去：行動は風</b></p> <p>行動の前と後に変化がないと、行動は減少していく</p> <p>強化</p> <p>消去</p>	<p>■このままでよい</p> <p>39</p>	<p>0.0%</p> <p>0.0%</p> <p>100.0%</p>
<p><b>現場では：消去バースト</b></p>	<p>■このままでよい</p> <p>39</p>	<p>0.0%</p> <p>0.0%</p> <p>100.0%</p>
<p><b>現場では：消去バースト</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>消去開始後しばらくは課題行動が激しくなる(頻度/強度/持続時間)ことを消去バーストという</li> <li>攻撃や反抗、もしくは意欲の低下や無気力など、情緒反応が引き起こされやすい</li> <li>行動の激しさに負けて、バーストした状態を強化すると、ますます激しい行動問題へと発展してしまう</li> <li>対応の不統一が招く悪循環(やるならやり通す)</li> <li>物理的な消去(机をひっくり返すので重い机にした、ドアを閉めて見えないようにした等)は、早く効果がある。しかし、注目や関わりや要求などが関わる場合は、消去だけでは時間がかかる。</li> <li>消去しきれない場合は、対応に差をつける(塩対応と賞賛)</li> </ul> <p>消去は、必ず何をすれば良いかわかる(望ましい行動が強化される)支援と組み合わせる(分化強化) <b>消去単体での使用不可</b></p>	<p>■このままでよい</p> <p>39</p>	<p>0.0%</p> <p>0.0%</p> <p>100.0%</p>

<p><b>消去と強化を組み合わせた支援</b></p> <p>それまで強化されていた行動が強化されなくなると、その行動が減少する</p> <p>消去</p>  <p>強化</p> 	<p>■このままでよい</p> <p>39</p>	<p>0.0%</p> <p>0.0%</p>  <p>100.0%</p>
<p><b>支援の選択が広がることで、利用者の選択の広がりへ</b></p>  <p>・支援の個別最適化 ・支援の選択肢の拡大 ・QOLの向上と課題行動の軽減を両立 多様な支援ニーズに応じた環境多様性</p>	<p>■このままでよい</p> <p>38</p>	<p>2.6%</p> <p>0.0%</p>  <p>97.4%</p>
<p><b>ABC記録</b></p> <p>ある【A状況やきっかけ】で ある【B行動】をすると その後【Aの状況】は【C結果】へと変化する</p> 	<p>■このままでよい</p> <p>38</p>	<p>0.0%</p> <p>2.6%</p>  <p>97.4%</p>
<p><b>課題行動の機能的アセスメント</b></p>  <p>ロバート・E.オニールら著「問題行動解決支援ハンドブック」(金剛出版)を参考に作成</p>	<p>■このままでよい</p> <p>39</p>	<p>0.0%</p> <p>0.0%</p>  <p>100.0%</p>
<p><b>課題行動の機能的アセスメント</b></p> <p>コミュニケーションとしての機能</p>  <p>ロバート・E.オニールら著「問題行動解決支援ハンドブック」(金剛出版)を参考に作成</p>	<p>■このままでよい</p> <p>39</p>	<p>0.0%</p> <p>0.0%</p>  <p>100.0%</p>

## 行動の機能 なぜ、人はそのように行動するのか？

### コミュニケーションとして機能している

<b>物・活動の要求</b> A: 物や活動が手に入らない状況で起きる C: 行動することで、物、活動が得られる	<b>注目・関わりの要求</b> A: 注目や関わりがない状況で起きる C: 行動することで注目や関わり(そばに来る、賞賛、叱責など)が得られる	<b>回避・阻止</b> A: 嫌な状況で起きる C: 行動することで嫌な状況がなくなる	<b>感覚刺激</b> A: 特定の感覚がない状況で起きる C: 行動することで特定の感覚が得られる MASでは回避・阻止に入っている A: 特定の感覚(特に、痛み)がある状況で起きる C: 行動することで特定の感覚から逃れられたり、軽減したりする
--	--	--	---

動機づけアセスメント尺度 (Motivation Assessment Scale, MAS) (Durand,1988)

■このままでよい

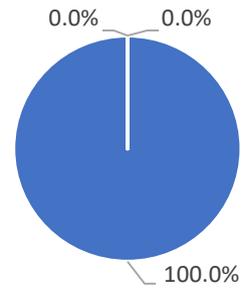
39

■改善点あり

0

■不要

0



### 機能的アセスメントに基づく支援立案までの手順

使用するもの

- (1) スキャッタープロット (2) ABC記録
- (3) MAS (動機づけアセスメント尺度)
- (4) 機能的アセスメントのまとめ(機能的アセスメントインタビュー)
- (5) ストラテジーシート

手順	チェック
1 (1) ABC記録 (2) スキャッタープロットをつける	✓
2 (3) MAS (動機づけアセスメント尺度) をつける (4) 機能的アセスメントのまとめに転記する	✓
3 (2) ABC記録に機能または刺激の増減を記入する	
4 (1) スキャッタープロットから (4) 機能的アセスメントのまとめ①を記入する	
5 (2) ABC記録にもついで (4) 機能的アセスメントのまとめ①~⑧と推測された機能を記入する	
6 (4) 機能的アセスメントのまとめを全て記入する ※特に②が重要	
7 (5) ストラテジーシートに、(4) 機能的アセスメントのまとめ①~⑧を転記する	
8 (5) ストラテジーシートに、望ましい行動を記入する	
9 (5) ストラテジーシートに、事前の工夫と事後の工夫を記入する	
10 記録を決める (スキャッタープロット、課題分析など)	

■このままでよい

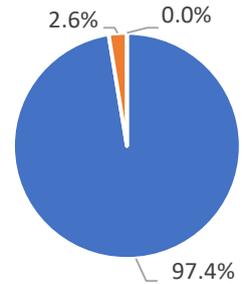
38

■改善点あり

1

■不要

0



### 演習：簡易アセスメント (MAS) で機能を推測する

- 物・活動の要求
- 注目・人との関わりの要求
- 嫌なことからの回避・逃避・阻止 (感覚刺激、痛みなどの不快刺激からの逃避・軽減を含む)
- 自己刺激なこと (感覚刺激の獲得)

- 機能的アセスメントのまとめにMASの合計(順位)を記入する

状況と起きにくい状況の比較	物や活動の要求	注目や関わりの要求	回避や阻止	感覚刺激の獲得
MASの結果				

■このままでよい

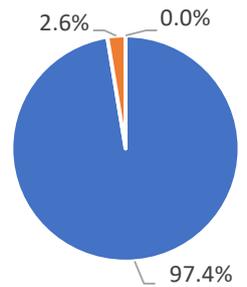
38

■改善点あり

1

■不要

0



### 機能的アセスメントに基づく支援立案までの手順

使用するもの

- (1) スキャッタープロット (2) ABC記録
- (3) MAS (動機づけアセスメント尺度)
- (4) 機能的アセスメントのまとめ(機能的アセスメントインタビュー)
- (5) ストラテジーシート

手順	チェック
1 (1) ABC記録 (2) スキャッタープロットをつける	✓
2 (3) MAS (動機づけアセスメント尺度) をつける (4) 機能的アセスメントのまとめに転記する	
3 (2) ABC記録に機能または刺激の増減を記入する	
4 (1) スキャッタープロットから (4) 機能的アセスメントのまとめ①を記入する	
5 (2) ABC記録にもついで (4) 機能的アセスメントのまとめ①~⑧と推測された機能を記入する	
6 (4) 機能的アセスメントのまとめを全て記入する ※特に②が重要	
7 (5) ストラテジーシートに、(4) 機能的アセスメントのまとめ①~⑧を転記する	
8 (5) ストラテジーシートに、望ましい行動を記入する	
9 (5) ストラテジーシートに、事前の工夫と事後の工夫を記入する	
10 記録を決める (スキャッタープロット、課題分析など)	

■このままでよい

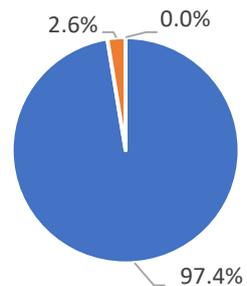
38

■改善点あり

1

■不要

0



### 演習：記録の分析で機能を推測する より解像度をあげる

- ABC記録に機能を書き込む
  - 物や活動の要求
  - 注目や関わりの要求
  - 回避・逃避
  - 感覚の獲得
  - 感覚からの回避・逃避
- 機能がわかりにくいときは、行動の後に増えた刺激、減った刺激を書き込む

6/11 9:30	バス停で待つ	声かけあり	声かけなし・手の感覚	逃避/感覚
6/14 9:35	バス停で待つ	声かけあり	声かけなし・手の感覚	逃避/感覚
6/15 9:30	バス停で待つ	声かけなし	声かけなし・手の感覚	回避/感覚
6/15 14:25	バス停で待つ	顔叩きなし	顔叩きあり・手の感覚	感覚
6/16 9:30	バス停で待つ	声かけあり	声かけなし・手の感覚	逃避/感覚

■このままでよい

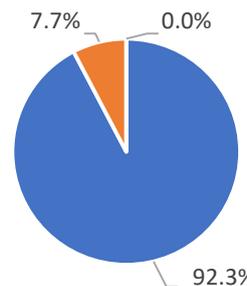
36

■改善点あり

3

■不要

0





<h3>演習：ストラテジーシートを作成する（上段が完成）</h3> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p><b>A：事前</b> いつ、どこで、誰と、何をしているとき？ 念じたいことがあれば赤字で記入 ①②③④ ⑤は赤字で記入</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p><b>B：行動</b> 具体的に記入 ④</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p><b>C：事後</b> 口要求 口注目 口阻止回避 口自動強化 口その他 ⑤⑥⑦→機能を推測</p> </div> </div> <hr/> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p><b>事前の工夫</b> 口起こらなくて済むために 口望ましい行動が起こるために ⑧嫌悪的状况の除去 ⑨⑩の情報を活かす</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p><b>望ましい行動</b> 口具体的に記入 口コミュニケーションスキル 口意識スキル 口その他 ④</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p><b>強化の手立て</b> 口ほめ言葉 口ほらばい 口好きな活動 口好きなシステム 口その他 ⑤⑥推測した本人の望む結果 ⑨</p> </div> </div> <hr/> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 100%;"> <p>それでも困った行動が生じた場合 → <b>起こってしまったときの対応</b> 口成功に導く手立て 口クールダウンの手立て</p> </div>	<p>■このままでよい 37</p> <p>■改善点あり 2</p> <p>■不要 0</p>																							
<h3>機能的アセスメントに基づく支援立案までの手順</h3> <p>使用するもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) スキャッタープロット (2) ABC記録</li> <li>(3) MAS (動機づけアセスメント尺度)</li> <li>(4) 機能的アセスメントのまとめ (機能的アセスメントインタビュー)</li> <li>(5) ストラテジーシート</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>手順</th> <th>✓</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1 (1) ABC記録 (2) スキャッタープロットをつける</td><td></td></tr> <tr><td>2 (3) MAS (動機づけアセスメント尺度)をつける (4) 機能的アセスメントのまとめに転記する</td><td></td></tr> <tr><td>3 (2) ABC記録に機能または刺激の増減を記入する</td><td></td></tr> <tr><td>4 (1) スキャッタープロットから (4) 機能的アセスメントのまとめ⑩を記入する</td><td></td></tr> <tr><td>5 (2) ABC記録にもとづいて (4) 機能的アセスメントのまとめ①～⑩と推測された機能を記入する</td><td></td></tr> <tr><td>6 (4) 機能的アセスメントのまとめを全て記入する ※特に⑧が重要</td><td></td></tr> <tr><td>7 (5) ストラテジーシートに、(4) 機能的アセスメントのまとめ①～⑩を転記する</td><td></td></tr> <tr><td><b>8 (5) ストラテジーシートに、望ましい行動を記入する</b></td><td></td></tr> <tr><td>9 (5) ストラテジーシートに、事前の工夫と事後の工夫を記入する</td><td></td></tr> <tr><td>10 記録を決める (スキャッタープロット、課題分析など)</td><td></td></tr> </tbody> </table>	手順	✓	1 (1) ABC記録 (2) スキャッタープロットをつける		2 (3) MAS (動機づけアセスメント尺度)をつける (4) 機能的アセスメントのまとめに転記する		3 (2) ABC記録に機能または刺激の増減を記入する		4 (1) スキャッタープロットから (4) 機能的アセスメントのまとめ⑩を記入する		5 (2) ABC記録にもとづいて (4) 機能的アセスメントのまとめ①～⑩と推測された機能を記入する		6 (4) 機能的アセスメントのまとめを全て記入する ※特に⑧が重要		7 (5) ストラテジーシートに、(4) 機能的アセスメントのまとめ①～⑩を転記する		<b>8 (5) ストラテジーシートに、望ましい行動を記入する</b>		9 (5) ストラテジーシートに、事前の工夫と事後の工夫を記入する		10 記録を決める (スキャッタープロット、課題分析など)		<p>■このままでよい 38</p> <p>■改善点あり 1</p> <p>■不要 0</p>	
手順	✓																							
1 (1) ABC記録 (2) スキャッタープロットをつける																								
2 (3) MAS (動機づけアセスメント尺度)をつける (4) 機能的アセスメントのまとめに転記する																								
3 (2) ABC記録に機能または刺激の増減を記入する																								
4 (1) スキャッタープロットから (4) 機能的アセスメントのまとめ⑩を記入する																								
5 (2) ABC記録にもとづいて (4) 機能的アセスメントのまとめ①～⑩と推測された機能を記入する																								
6 (4) 機能的アセスメントのまとめを全て記入する ※特に⑧が重要																								
7 (5) ストラテジーシートに、(4) 機能的アセスメントのまとめ①～⑩を転記する																								
<b>8 (5) ストラテジーシートに、望ましい行動を記入する</b>																								
9 (5) ストラテジーシートに、事前の工夫と事後の工夫を記入する																								
10 記録を決める (スキャッタープロット、課題分析など)																								
<h3>バイパスモデル QOLルートとコミュニケーションルート</h3> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>課題行動が生じていない事前の状況 → 容易にできて生活が充実したり、QOLが向上する行動 → 自分が好きなこと望んでいること</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>課題行動が生じやすい事前の状況 → 課題行動 → 課題行動によって得られた事後の状況 (ご本人にとっては課題行動で示されたニーズ)</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">適切なコミュニケーションや置き換え可能な行動 → <b>コミュニケーションの成立</b></p>	<p>■このままでよい 39</p> <p>■改善点あり 0</p> <p>■不要 0</p>																							
<h3>バイパスモデル QOLルートとコミュニケーションルート</h3> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>①課題行動が生じている場面でその場に適した行動 (QOLルート) その場に適した行動が出やすくなる事前の工夫 → 容易にできて生活が充実したり、QOLが向上する行動 → 動機づけ支援 □達成感がある □周囲に認められる □好きなことができる □自分で選んだこと □トークンエコノミーシステム □休憩</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>②課題行動が生じていない場面でその場に適した行動 (QOLルート) コミュニケーション行動が出やすくなる事前の工夫 → 適切なコミュニケーションや置き換え可能な行動 → □行動の機能に応じた対応</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 100%;"> <p>③課題行動と機能的に等価な行動 (コミュニケーションルート) ⑩嫌悪的状况の除去 → それでも課題行動が生じた場合 → □安全確保 □機能に応じない対応 □適切行動に導く手立て □クールダウンの手立て</p> <p>④予防</p> </div>	<p>■このままでよい 39</p> <p>■改善点あり 0</p> <p>■不要 0</p>																							
<h3>演習：望ましい行動を決定する</h3> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p><b>A：事前</b> いつ、どこで、誰と、何をしているとき？ 念じたいことがあれば赤字で記入</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p><b>B：行動</b> 具体的に記入</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p><b>C：事後</b> 口要求 口注目 口阻止回避 口自動強化 口その他</p> </div> </div> <hr/> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p><b>事前の工夫</b> 口起こらなくて済むために 口望ましい行動が起こるために</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p><b>望ましい行動</b> 口具体的に記入 口コミュニケーションスキル 口意識スキル 口その他</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p><b>強化の手立て</b> 口ほめ言葉 口ほらばい 口好きな活動 口好きなシステム 口その他</p> </div> </div> <hr/> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 100%;"> <p>それでも困った行動が生じた場合 → <b>起こってしまったときの対応</b> 口成功に導く手立て 口クールダウンの手立て</p> </div>	<p>■このままでよい 38</p> <p>■改善点あり 1</p> <p>■不要 0</p>																							

<p>ストラテジーシートver4</p> <p><b>望ましい行動を選ぶの4つの方向性</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>課題行動が生じている場で、適切な行動が出やすくなる環境調整 (例) 食事の場で皿を手で投げるならば、投げることを止めることよりも、食事がきちんととれること。作業の場で回避の機能で自傷行為が生じるなら、できる作業種にかえること。</li> <li>課題行動が生じていない場で、生活が充実するような環境調整 (例) 余暇活動やご本人の好きな活動、容易にできる行動</li> <li>課題行動と同じ機能をもつ別の行動への代替をする環境調整 (例) コミュニケーションや置き換えが可能な行動</li> <li>課題行動が生じにくいような予防的環境調整</li> </ol>	<p>■このままでよい</p> <p>■改善点あり</p> <p>■不要</p>	<p>39</p> <p>0</p> <p>0</p>																						
<p><b>機能的アセスメントに基づく支援立案までの手順</b></p> <p>使用するもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) スキャッタープロット (2) ABC記録</li> <li>(3) MAS (動機づけアセスメント尺度)</li> <li>(4) 機能的アセスメントのまとめ (機能的アセスメントインタビュー)</li> <li>(5) ストラテジーシート</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>手順</th> <th>✓</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1 (1) ABC記録 (2) スキャッタープロットをつける</td><td></td></tr> <tr><td>2 (3) MAS (動機づけアセスメント尺度)をつける (4) 機能的アセスメントのまとめに転記する</td><td></td></tr> <tr><td>3 (2) ABC記録に機能または刺激の増減を記入する</td><td></td></tr> <tr><td>4 (1) スキャッタープロットから (4) 機能的アセスメントのまとめ①を記入する</td><td></td></tr> <tr><td>5 (2) ABC記録にもついで (4) 機能的アセスメントのまとめ①～⑧と推測された機能を記入する</td><td></td></tr> <tr><td>6 (4) 機能的アセスメントのまとめを全て記入する ※特に⑧が重要</td><td></td></tr> <tr><td>7 (5) ストラテジーシートに、(4) 機能的アセスメントのまとめ①～⑧を転記する</td><td></td></tr> <tr><td>8 (5) ストラテジーシートに、望ましい行動を記入する</td><td></td></tr> <tr><td>9 (5) ストラテジーシートに、事前の工夫と事後の工夫を記入する</td><td></td></tr> <tr><td>10 記録を決める (スキャッタープロット、課題分析など)</td><td></td></tr> </tbody> </table>	手順	✓	1 (1) ABC記録 (2) スキャッタープロットをつける		2 (3) MAS (動機づけアセスメント尺度)をつける (4) 機能的アセスメントのまとめに転記する		3 (2) ABC記録に機能または刺激の増減を記入する		4 (1) スキャッタープロットから (4) 機能的アセスメントのまとめ①を記入する		5 (2) ABC記録にもついで (4) 機能的アセスメントのまとめ①～⑧と推測された機能を記入する		6 (4) 機能的アセスメントのまとめを全て記入する ※特に⑧が重要		7 (5) ストラテジーシートに、(4) 機能的アセスメントのまとめ①～⑧を転記する		8 (5) ストラテジーシートに、望ましい行動を記入する		9 (5) ストラテジーシートに、事前の工夫と事後の工夫を記入する		10 記録を決める (スキャッタープロット、課題分析など)		<p>■このままでよい</p> <p>■改善点あり</p> <p>■不要</p>	<p>38</p> <p>1</p> <p>0</p>
手順	✓																							
1 (1) ABC記録 (2) スキャッタープロットをつける																								
2 (3) MAS (動機づけアセスメント尺度)をつける (4) 機能的アセスメントのまとめに転記する																								
3 (2) ABC記録に機能または刺激の増減を記入する																								
4 (1) スキャッタープロットから (4) 機能的アセスメントのまとめ①を記入する																								
5 (2) ABC記録にもついで (4) 機能的アセスメントのまとめ①～⑧と推測された機能を記入する																								
6 (4) 機能的アセスメントのまとめを全て記入する ※特に⑧が重要																								
7 (5) ストラテジーシートに、(4) 機能的アセスメントのまとめ①～⑧を転記する																								
8 (5) ストラテジーシートに、望ましい行動を記入する																								
9 (5) ストラテジーシートに、事前の工夫と事後の工夫を記入する																								
10 記録を決める (スキャッタープロット、課題分析など)																								
<p><b>演習：事前の工夫と強化の手立てを記入する</b></p>	<p>■このままでよい</p> <p>■改善点あり</p> <p>■不要</p>	<p>38</p> <p>1</p> <p>0</p>																						
<p><b>機能的アセスメントに基づく支援立案までの手順</b></p> <p>使用するもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) スキャッタープロット (2) ABC記録</li> <li>(3) MAS (動機づけアセスメント尺度)</li> <li>(4) 機能的アセスメントのまとめ (機能的アセスメントインタビュー)</li> <li>(5) ストラテジーシート</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>手順</th> <th>✓</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1 (1) ABC記録 (2) スキャッタープロットをつける</td><td></td></tr> <tr><td>2 (3) MAS (動機づけアセスメント尺度)をつける (4) 機能的アセスメントのまとめに転記する</td><td></td></tr> <tr><td>3 (2) ABC記録に機能または刺激の増減を記入する</td><td></td></tr> <tr><td>4 (1) スキャッタープロットから①を記入する</td><td></td></tr> <tr><td>5 (2) ABC記録にもついで (4) 機能的アセスメントのまとめ①～⑧と推測された機能を記入する</td><td></td></tr> <tr><td>6 (4) 機能的アセスメントのまとめを全て記入する 特に⑧が重要</td><td></td></tr> <tr><td>7 ストラテジーシートに①～⑧を転記する</td><td></td></tr> <tr><td>8 望ましい行動を記入する</td><td></td></tr> <tr><td>9 事前の工夫と事後の工夫を記入する</td><td></td></tr> <tr><td>10 手順書と記録の作成 (スキャッタープロット、課題分析など) 第2回のシートを活用</td><td></td></tr> </tbody> </table>	手順	✓	1 (1) ABC記録 (2) スキャッタープロットをつける		2 (3) MAS (動機づけアセスメント尺度)をつける (4) 機能的アセスメントのまとめに転記する		3 (2) ABC記録に機能または刺激の増減を記入する		4 (1) スキャッタープロットから①を記入する		5 (2) ABC記録にもついで (4) 機能的アセスメントのまとめ①～⑧と推測された機能を記入する		6 (4) 機能的アセスメントのまとめを全て記入する 特に⑧が重要		7 ストラテジーシートに①～⑧を転記する		8 望ましい行動を記入する		9 事前の工夫と事後の工夫を記入する		10 手順書と記録の作成 (スキャッタープロット、課題分析など) 第2回のシートを活用		<p>■このままでよい</p> <p>■改善点あり</p> <p>■不要</p>	<p>38</p> <p>1</p> <p>0</p>
手順	✓																							
1 (1) ABC記録 (2) スキャッタープロットをつける																								
2 (3) MAS (動機づけアセスメント尺度)をつける (4) 機能的アセスメントのまとめに転記する																								
3 (2) ABC記録に機能または刺激の増減を記入する																								
4 (1) スキャッタープロットから①を記入する																								
5 (2) ABC記録にもついで (4) 機能的アセスメントのまとめ①～⑧と推測された機能を記入する																								
6 (4) 機能的アセスメントのまとめを全て記入する 特に⑧が重要																								
7 ストラテジーシートに①～⑧を転記する																								
8 望ましい行動を記入する																								
9 事前の工夫と事後の工夫を記入する																								
10 手順書と記録の作成 (スキャッタープロット、課題分析など) 第2回のシートを活用																								
<p><b>PDCAサイクル</b></p>	<p>■このままでよい</p> <p>■改善点あり</p> <p>■不要</p>	<p>39</p> <p>0</p> <p>0</p>																						

	<p>■このままでよい</p> <p>■改善点あり</p> <p>■不要</p>	<p>38</p> <p>1</p> <p>0</p>	
<p><b>課題：</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・戦略シートを活用して会議を実施</li> <li>・会議で、目標となる望ましい行動、事前と事後の工夫について話し合いをして、支援者で合意する</li> <li>・戦略シートを基に、第2回の活動参加の支援計画書(5)(6)を作成する</li> <li>・記録を作成する(第2回の課題分析(7)/課題行動の記録ならばスキャッタープロット)</li> <li>・支援の実施(許可がとれば動画)</li> <li>・可能ならば記録をグラフ化する。</li> </ul>	<p>■このままでよい</p> <p>■改善点あり</p> <p>■不要</p>	<p>38</p> <p>1</p> <p>0</p>	

## 中核的人材養成研修 第5回目(2/6) 講義スライドに関するアンケート結果

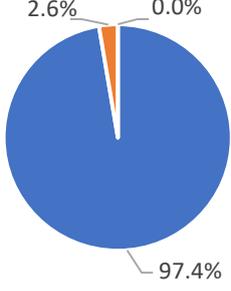
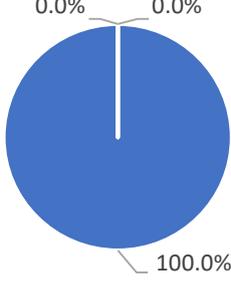
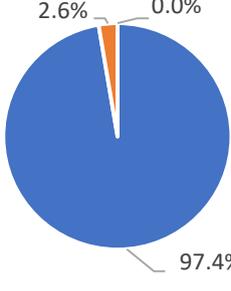
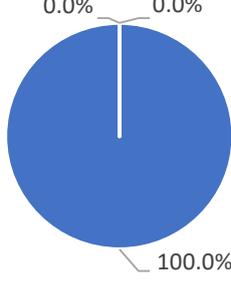
### ■ 講義「行動の機能に基づいた支援計画の見直し」に関するアンケート結果

スライド	受講者回答数(n=38)		割合
<p>PDCA</p> <p style="text-align: right; font-size: small;">中核的人材養成研修第3回資料</p>	<p>■このままでよい</p> <p>38</p>	<p>0.0%</p> <p>0.0%</p>	<p>100.0%</p>
	<p>■改善点あり</p> <p>0</p>		
	<p>■不要</p> <p>0</p>		
<p>データを活用して次の支援を検討する</p>	<p>■このままでよい</p> <p>38</p>	<p>0.0%</p> <p>0.0%</p>	<p>100.0%</p>
	<p>■改善点あり</p> <p>0</p>		
	<p>■不要</p> <p>0</p>		
<p>ストラテジーシート</p>	<p>■このままでよい</p> <p>38</p>	<p>0.0%</p> <p>0.0%</p>	<p>100.0%</p>
	<p>■改善点あり</p> <p>0</p>		
	<p>■不要</p> <p>0</p>		
<p>ゴール設定の見直し：複数の機能がある場合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>機能が複数想定される場合は、別のコミュニケーション機能の可能性について検討する <ul style="list-style-type: none"> <li>ご本人が求めていること、避けたいこと</li> <li>ご本人が心地よく感じていること、不快に感じていること</li> </ul> </li> <li>機能に応じた表出のコミュニケーションや代替行動への支援計画を立てる</li> </ul>	<p>■このままでよい</p> <p>37</p>	<p>2.6%</p> <p>0.0%</p>	<p>97.4%</p>
	<p>■改善点あり</p> <p>1</p>		
	<p>■不要</p> <p>0</p>		

<p><b>ストラテジーシート</b></p>	<p>■このままでよい</p> <p>38</p>	<p>0.0% 0.0%</p> <p>100.0%</p>
<p><b>ゴール設定の見直し：望ましい行動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スモールステップになっているか <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間を短くする</li> <li>・量を少なくする</li> <li>・ご本人が容易にできる行動にする</li> </ul> </li> <li>・ご本人の好みの活動、やり方、感覚を活かしているか</li> <li>・自分で選んでもらっているか</li> </ul>	<p>■このままでよい</p> <p>38</p>	<p>0.0% 0.0%</p> <p>100.0%</p>
<p><b>ストラテジーシート</b></p>	<p>■このままでよい</p> <p>38</p>	<p>0.0% 0.0%</p> <p>100.0%</p>
<p><b>工夫の見直し：予防のための配慮</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習スタイルに応じた工夫になっているか <ul style="list-style-type: none"> <li>・苦手な物や気になる物が視野に入らなくする、隠す</li> <li>・情報量を減らす</li> <li>・気温の調整</li> <li>・作業スタイルの変更（座り仕事→立ち仕事）</li> <li>・動線を変える</li> <li>・消去として物理的にできなくする（机を固定する、強化ガラスにする、等）</li> </ul> </li> </ul> <p>等々</p>	<p>■このままでよい</p> <p>38</p>	<p>0% 0%</p> <p>100%</p>
<p><b>工夫の見直し：事前の工夫</b></p> <p>中核的人材養成研修第3回資料</p>	<p>■このままでよい</p> <p>36</p>	<p>2.6% 2.6%</p> <p>94.7%</p>

ストラテジーシート			
	<input type="checkbox"/> このままでよい	38	
	<input type="checkbox"/> 改善点あり	0	
	<input type="checkbox"/> 不要	0	
工夫の見直し：強化の手立てや動機づけを高める工夫			
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 正の強化で行動が増加、維持されるようになっているか</li> <li>• ご本人が望んだ結果になっているか               <ul style="list-style-type: none"> <li>• 好きなことやよくすること</li> <li>• 自分で選んだことができる</li> <li>• トークンエコノミーシステム</li> </ul> </li> </ul>	<input type="checkbox"/> このままでよい	38	
	<input type="checkbox"/> 改善点あり	0	
	<input type="checkbox"/> 不要	0	

■ 講義「ICFで生活支援／ICFで全体を捉える」に関するアンケート結果

<p>ICFによるQOL支援の5つのポイント</p> <p>#活動と参加 ① 「強み」の活動を他の生活場面で広く活用 ② 「維持・調整」の支援を他の生活場面でも活用</p> <p>#環境因子 ③ 促進環境の提供 … 快適な環境の提供 ④ 阻害環境の除去 … 不快な環境の除去</p> <p>#活動と参加&amp;環境因子 ⑤ 複数項目を統合した支援 … 暮らしやすい生活の提供</p> <p>目指すのは「ご本人の困難さ(生活上のしんどさ)の軽減」</p>	<p>■このままでよい</p> <p>■改善点あり</p> <p>■不要</p>	<p>37</p> <p>1</p> <p>0</p>	
<p>「休憩」に余暇支援をつなぐ</p> <p>確認 「絵を描くこと」はご本人がリフレッシュできる活動かも</p> <p>応用 「絵を描くこと」はご本人が楽しめる活動と思われる。</p> <p>「おやすみ」はそこの活動が明示されていないので、どうしてよいかかわからないが、「お絵かきの時間」とすれば、楽しめてリフレッシュもできそう。</p>	<p>■このままでよい</p> <p>■改善点あり</p> <p>■不要</p>	<p>38</p> <p>0</p> <p>0</p>	
<p>こだわり対象の除去に強みを使う</p> <p>着想</p> <p>活用</p> <p>タグ取り作業ができて周囲のタグがなくなり制止されないのでご本人のQOLは上がる。支援者もタグ取り作業とご本人のタグ取り行為を止める必要がなくなりQOLが上がる。</p>	<p>■このままでよい</p> <p>■改善点あり</p> <p>■不要</p>	<p>37</p> <p>1</p> <p>0</p>	
<p>有効な支援の例 → これらを広く活用</p> <p>①10 ①17 ②17</p> <p>「支援の維持・調整」の項目の支援を他の生活場面でも活用することがQOLの向上につながります。支援の維持・調整の項目が少ない場合には、学習スタイルの分析から導出された支援方法を「適応が悪くQOLが下がっている生活場面」に応用してみてください。上記の3例は、学習スタイルの視点で生活支援が展開されています。</p>	<p>■このままでよい</p> <p>■改善点あり</p> <p>■不要</p>	<p>38</p> <p>0</p> <p>0</p>	

## 使いやすいもの、楽しみにつながるもの 生活の中で触れる機会を増やす

e1150	日常生活で使う一般的な製品と用具 (改造や特別な設計なし)	なし	あり	①不快・使いにくい日用品と生活しづらさ： ②快適・使いやすい日用品と生活しやすさ：毛布(エスケープ時、入浴時で使用) ③その他：
e110a	食べ物や飲み物	詳細不明・非該当	あり	①嗜好品・生活向上の食品とその状態：新商品(ジュースなど)があると確認している。外出しても、何か変わった商品がないか確認すると願うようにする。 ③その他：
e1250	情報の受信や発信、コミュニケーションのための製品や用具(改造や特別な設計なし)	なし	あり	①具体的な機能と態下の状態： ②具体的な機能と向上の状態：興味がある物の情報が気になるため、テレビやネットを活用している。情報が手に入ると思しうに話しが聞かれる。 ③その他：コロナ禍では毎日の感染者人数を気にして調べていた。入浴の頻度で本人の調子が変わることにはなかった。
e11521	遊びやすさを支援するために工夫、改造された製品と用具	なし	あり	①不快・使いづらい遊び支援用品と役立つなま： ②快適・使いやすい遊び支援用品と役立つなま：企業ロゴ・チラシ・広告、破損対策でラミネイト加工されたもの。 ③その他：

■このままでよい

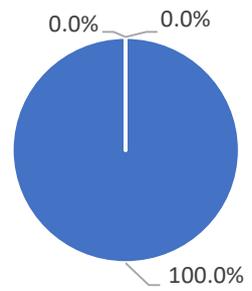
38

■改善点あり

0

■不要

0



## 快適な感覚刺激の提供機会を増やす

e250	音	あり	あり	①不快な音と不快時の状況：雑音や音でその場には居ない表情、耳を塞ぐ、不安定な声を出す。時には他音行動に及ぶことがある。 ②快適な音と快適時の状況：静かな場所では穏やかな表情で体を横に揺らすなどリラックスした様子も見られる。 ③その他：
e240	光	詳細不明・非該当	あり	①不快な光と不快時の状況： ②快適な光と快適時の状況：自然の光のよい部屋を好んで過ごしている。 ③その他：
e240	光	なし	あり	①不快な光と不快時の状況： ②快適な光と快適時の状況：カーテンで日光をある程度遮断した薄暗い状況でリラックスして過ごしていることがある。 ③その他：
e2250	気温	あり	あり	①不快な気温と不快時の状況：暑暑(蒸熱)、極寒(寒そうな様子) ②快適な気温と快適時の状況：20-25度ほど ③その他：
e225	振動	なし	あり	①不快な振動と不快時の状況： ②快適な振動と快適時の状況：現時点では自分の車と事業所の送迎車に限られるが、体を揺らして寝ていることも多く乗るの好きであるように感じられる。 ③その他：

■このままでよい

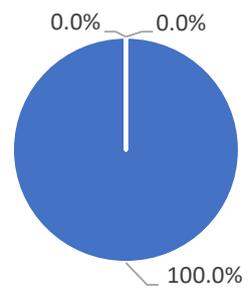
38

■改善点あり

0

■不要

0



## 阻害的環境因子の除去を検討

e1150	日常生活で使う一般的な製品と用具 (改造や特別な設計なし)	あり	詳細不明・非該当	①不快・使いにくい日用品と生活しづらさ：ボタンやフラスナーは不慣れな為、介助は必要。 ②快適・使いやすい日用品と生活しやすさ： ③その他：
-------	----------------------------------	----	----------	---

着想 → ボタンやフラスナーを磁石ボタンやマジックテープボタンに代える

e1250	情報の受信や発信、コミュニケーションのための製品や用具(改造や特別な設計なし)	あり	あり	①具体的な機能と態下の状態：PC、ゲーム、一度始めると終わりがなく生活・娯楽の中心になる。 ②具体的な機能と向上の状態：PC、ゲーム、好きな物などでモチベーションとなる。 ③その他：
-------	---	----	----	---

着想 → 就寝前の活動をPC・ゲーム以外のご本人が落ち着けるものとする。

d172：計算機で加算・減算ができる。d210a：ワークシステムが使える。 ← 探索

就寝前は答えが記された計算カード5枚を計算機で答え合わせする。 ← 着想

■このままでよい

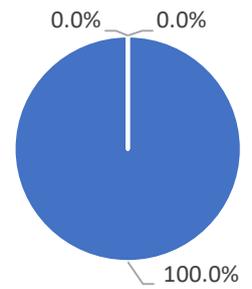
38

■改善点あり

0

■不要

0



## QOL向上に向けた支援の着想

項目番号	項目タイトル	生活を阻害	生活を促進	補足情報
e1250	情報の受信や発信、コミュニケーションのための製品や用具(改造や特別な設計なし)	あり	あり	①低下：話し言葉だけの情報の受信は本人を混乱させる事がある。 ②向上：カレンダーや予定表などは目でわかる情報は自ら変更することができる。 ③その他：本人が実施できるようにする方法がわからない。目で見てわかる情報ツールを作成する時間の確保が難しい。

項目内容の捉え方は少し違っているが、補足情報の記載が具体的なので、ご本人のコミュニケーション状況がわかる。  
①話し言葉の理解は苦手  
②書き言葉の理解はできていそう  
③本人からコミュニケーション発信ができることQOLは向上しそう。

文字が読めるのなら、文字でコミュニケーション発信が可能かも？簡単に作れる程度の文字カードをコミュニケーションに使えるか？ ← 着想

確認 → e1250に示された「ご本人の様子」を他の項目で確認してみる。

■このままでよい

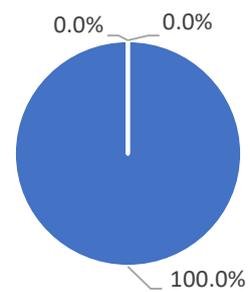
38

■改善点あり

0

■不要

0



## 文字コミュニケーションの可能性

d166	読むことの美生活での活用	困難なし	スキップ	スキップ	読め 読 読 ①自分から、カタカナ、簡単な漢字が読めるので、新聞のテレビやテレビの文字、パンフレットなどを喜んで情報を手に入れている。 ②自ら情報を手に入れ、自分で見直しを持つことで活かされている。
------	--------------	------	------	------	---

項目番号	項目タイトル	支援なしで、いま支援は	支援計画は	実行	補足情報(支援計画の状況、支援の内容、支援の効果、その他)
e140	読むことの種類と習得	困難あり	支援あり	大きい	①自分から、カタカナ、簡単な漢字が読める。フリガナをふり仮名で実用なく読める。読む速度はゆっくり。 ②漢字にフリガナをふる。 ③おもむきながらカタカナが読めるのでフリガナをふる事で読める(読める文字は少ない)。理解度とよくなった。 ④予定表など伝えたいことがある時には、文字に同じを毎回書いている。

文字を読む力があるだけでなく、文字から情報を得ている。  
漢字にフリガナを振ることでご本人のQOLが向上している。  
文字の理解力が上がっており、学習による変化が期待できる。  
文字に関わる学習力の有無や文字による応用活動を確認してみる

■このままでよい

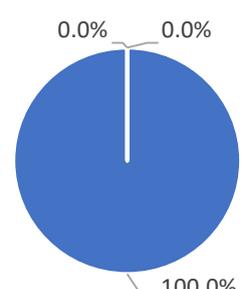
38

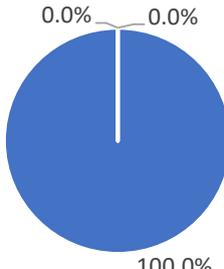
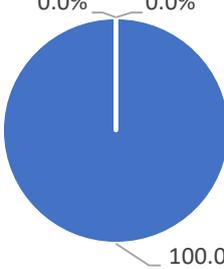
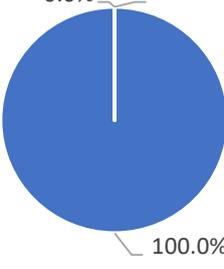
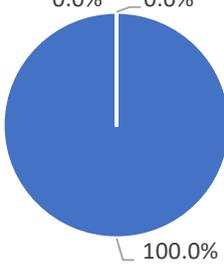
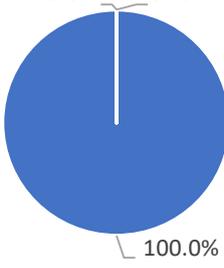
■改善点あり

0

■不要

0



<h3>文字による学習力や応用活動</h3> <table border="1" data-bbox="204 161 699 340"> <tr> <td>d155</td> <td>日常生活に必要な行為やスキルの習得</td> <td>困難あり</td> <td>支援あり</td> <td>大きい</td> <td>支援程度 ① ② ③</td> </tr> <tr> <td>d163</td> <td>思考すること</td> <td>困難あり</td> <td>支援あり</td> <td>大きい</td> <td>支援程度 ① ② ③</td> </tr> </table> <p>複雑な行為やスキルも文字やモデリングの反復提示で理解・習得可能。</p> <p>居室などの静かな場所であれば、予定表の文字を確認し、先の見通しを持つことができる。</p> <p>e250 音：障害因子 ：音楽会や花火の音などは不快を感じないようだが、食堂で他利用者が騒がしいのは暴言や他害が出やすくなることから不快に感じているように思われる。</p>	d155	日常生活に必要な行為やスキルの習得	困難あり	支援あり	大きい	支援程度 ① ② ③	d163	思考すること	困難あり	支援あり	大きい	支援程度 ① ② ③	<p>■このままでよい</p> <p>■改善点あり</p> <p>■不要</p>	<p>38</p> <p>0</p> <p>0</p>							
d155	日常生活に必要な行為やスキルの習得	困難あり	支援あり	大きい	支援程度 ① ② ③																
d163	思考すること	困難あり	支援あり	大きい	支援程度 ① ② ③																
<h3>文字などによる意思伝達の機会とは？</h3> <table border="1" data-bbox="204 551 699 685"> <tr> <td>d345</td> <td>文字などの書き言葉によるメッセージの伝達</td> <td>困難あり</td> <td>支援なし</td> <td>スキップ</td> <td>支援程度 ① ② ③</td> </tr> <tr> <td>d351-2</td> <td>記号やマーク、絵や写真によるメッセージの伝達</td> <td>困難あり</td> <td>支援なし</td> <td>スキップ</td> <td>支援程度 ① ② ③</td> </tr> <tr> <td>d330</td> <td>話し言葉によるメッセージの伝達</td> <td>困難あり</td> <td>支援なし</td> <td>スキップ</td> <td>支援程度 ① ② ③</td> </tr> </table> <p>現時点で、文字・記号・絵や写真などでの意思伝達の機会はないが、支援者側も意思伝達の手段を増やすことが重要であると考えている。</p> <p>話し言葉での意思伝達は、かなりハードルが高いと考えられる。よって意思伝達に関わる支援の第1選択は「文字の利用」だが、その機会がない。</p>	d345	文字などの書き言葉によるメッセージの伝達	困難あり	支援なし	スキップ	支援程度 ① ② ③	d351-2	記号やマーク、絵や写真によるメッセージの伝達	困難あり	支援なし	スキップ	支援程度 ① ② ③	d330	話し言葉によるメッセージの伝達	困難あり	支援なし	スキップ	支援程度 ① ② ③	<p>■このままでよい</p> <p>■改善点あり</p> <p>■不要</p>	<p>38</p> <p>0</p> <p>0</p>	
d345	文字などの書き言葉によるメッセージの伝達	困難あり	支援なし	スキップ	支援程度 ① ② ③																
d351-2	記号やマーク、絵や写真によるメッセージの伝達	困難あり	支援なし	スキップ	支援程度 ① ② ③																
d330	話し言葉によるメッセージの伝達	困難あり	支援なし	スキップ	支援程度 ① ② ③																
<h3>文字による意思伝達の活用場面案①</h3> <table border="1" data-bbox="204 958 699 1034"> <thead> <tr> <th>項目番号</th> <th>項目タイトル</th> <th>生活を阻害</th> <th>生活を促進</th> <th>補足情報</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>e110a</td> <td>食べ時や飲み物</td> <td>なし</td> <td>あり</td> <td>①悪影響：悪影響を及ぼす物は無い。 ②好影響：週に1回買物に生きたままの肉、ポテトチップスを購入し食べることが楽しくなっている。 ③その他：好きな物を買に行ける機会が少ない。</td> </tr> </tbody> </table> <p>「好きなものを買に行って食べられる機会が週に1回で、その機会を自分でコントロールできない」という状況を改善するための支援を考えられないか？ 「いつでも好きなだけ食べよう」とは健康管理上よくないの、買物で買って来たおやつでその日に食べた残りを小分けの袋に入れて、1日に一回まで文字カードで要求したら食べられるような設定は可能か？ご本人の現在の健康状態も考慮しつつ、好きなものがある程度自分のタイミングで食べられるような支援環境を作れないか？</p>	項目番号	項目タイトル	生活を阻害	生活を促進	補足情報	e110a	食べ時や飲み物	なし	あり	①悪影響：悪影響を及ぼす物は無い。 ②好影響：週に1回買物に生きたままの肉、ポテトチップスを購入し食べることが楽しくなっている。 ③その他：好きな物を買に行ける機会が少ない。	<p>■このままでよい</p> <p>■改善点あり</p> <p>■不要</p>	<p>38</p> <p>0</p> <p>0</p>									
項目番号	項目タイトル	生活を阻害	生活を促進	補足情報																	
e110a	食べ時や飲み物	なし	あり	①悪影響：悪影響を及ぼす物は無い。 ②好影響：週に1回買物に生きたままの肉、ポテトチップスを購入し食べることが楽しくなっている。 ③その他：好きな物を買に行ける機会が少ない。																	
<h3>文字による意思伝達の活用場面案②</h3> <table border="1" data-bbox="204 1352 699 1438"> <tr> <td>d161</td> <td>課題や作業が終わるまで注意を怠らさないこと</td> <td>困難あり</td> <td>支援あり</td> <td>小さい</td> <td>支援程度 ① ② ③</td> </tr> </table> <p>e250の記事から考えると「人の多いところや騒がしい環境」はご本人の苦手な状況と考えられる。そのため、作業状況の人が増えてきたり騒がしくなってきたときに「イヤーマフの要求」や「その場所を離れての休憩の要求」などに文字による意思伝達を使えると、ご本人のQOL向上につながるかもしれない。</p>	d161	課題や作業が終わるまで注意を怠らさないこと	困難あり	支援あり	小さい	支援程度 ① ② ③	<p>■このままでよい</p> <p>■改善点あり</p> <p>■不要</p>	<p>38</p> <p>0</p> <p>0</p>													
d161	課題や作業が終わるまで注意を怠らさないこと	困難あり	支援あり	小さい	支援程度 ① ② ③																
<h3>文字による意思伝達の活用場面案③</h3> <table border="1" data-bbox="204 1733 699 1868"> <tr> <td>d177</td> <td>意思決定すること</td> <td>困難あり</td> <td>支援あり</td> <td>小さい</td> <td>支援程度 ① ② ③</td> </tr> </table> <p>この項目の補足情報からは意思決定を要する選択場面の具体的な状況が読み取れないが、「支援者への選択結果の伝達完了」がご本人にとっても支援者にとっても確認しづらい状況であると仮定してみる。この状況では本人の意思が確認できないため助言がなされ、そのことで意思決定が揺らされることになる。そのような状況であれば、「選択した対象の文字カードを支援者に渡すこと」「選択結果の支援者への伝達完了」をご本人も支援者も確認しやすくなり、助言による「ご本人の選択の揺れ」を回避できるかもしれない。</p>	d177	意思決定すること	困難あり	支援あり	小さい	支援程度 ① ② ③	<p>■このままでよい</p> <p>■改善点あり</p> <p>■不要</p>	<p>38</p> <p>0</p> <p>0</p>													
d177	意思決定すること	困難あり	支援あり	小さい	支援程度 ① ② ③																



事例対象者 基本情報シート

受講番号

記入日

年

月

日

性別							年代						
診断名							その他疾患						
手帳の等級	療育手帳				精神保健福祉手帳				身体障害者手帳				
	有無		等級		有無		等級		有無		等級		
障害支援区分				知能指数 (IQ)				行動関連項目点数					
課題となっている行動（できるだけ具体的にお書きください）													
今までの対応と結果													
好きなことや得意なこと						嫌いなことや苦手なこと							

自閉スペクトラム症の学習スタイルアセスメント		受講番号：	使い方
		チェックした年月日	
○自閉症の学び方の違い			二ードの 大きさ
<b>暗黙的な学習の難しさ(見て学習することが得意)</b> 		<b>解説</b>	
□ 直観的に情報を拾えない(見て分かる・具体的な指示が必要)			
動画で観察される内容(場面/行動)： 全般/見えないものから情報を拾えない			大きい
1	事業所モデルの観察内容(場面/行動)：		
□ 般化の困難(特定の場面・人で学習した内容が他の場面・人で応用されない)			
動画で観察される内容(場面/行動)： 自動販売機・カレンダー/イレギュラーに対応できない			大きい
2	事業所モデルの観察内容(場面/行動)：		
□ ルールに基づいた学習の強さ(ルーチンをすぐにする・規則性)			
動画で観察される内容(場面/行動)： 食事場面カレンダー/規則性に強く反応			大きい
3	事業所モデルの観察内容(場面/行動)：		
<b>独特な注意(情報の選択の困難さ)</b> 		<b>解説</b>	二ードの 大きさ
□ 注目の狭さ、細部に焦点を当てる			
動画で観察される内容(場面/行動)： 外出/信号機へ一点集中して駆け出す			大きい
4	事業所モデルの観察内容(場面/行動)：		
□ 無関係な情報に気が散る			
動画で観察される内容(場面/行動)： 食事場面カレンダー/規則性に強く反応			中程度
5	事業所モデルの観察内容(場面/行動)：		
□ 注意の切り替えと注意を移すことの難しさ			
動画で観察される内容(場面/行動)：			
6	事業所モデルの観察内容(場面/行動)：		
<b>実行機能(情報の組織化と時間管理の困難)</b> 		<b>解説</b>	二ードの 大きさ
□ 課題の計画と実行の難しさ			
動画で観察される内容(場面/行動)： 自由時間/過ごししの計画を適切に立てることが難しい			大きい
7	事業所モデルの観察内容(場面/行動)：		
□ 整理し、順序だてることが難しい			
動画で観察される内容(場面/行動)： 自動販売機/買い方が理解できず指示待ちになる			大きい
8	事業所モデルの観察内容(場面/行動)：		
□ 終了の概念の困難			
動画で観察される内容(場面/行動)：			
9	事業所モデルの観察内容(場面/行動)：		
□ 次の活動に移ることの難しさ			
動画で観察される内容(場面/行動)：			
10	事業所モデルの観察内容(場面/行動)：		
□ 時間の管理が難しい			
動画で観察される内容(場面/行動)：			
11	事業所モデルの観察内容(場面/行動)：		

## ○自閉症の対人コミュニケーションの違い

聴覚処理(ことばの理解と表現)		解説	二ードの 大きさ
○ 話し言葉の理解の困難			
12	動画で観察される内容(場面/行動) : 食事場面・お部屋促し場面/話し言葉の理解が難しい 事業所モデルの観察内容(場面/行動) :		大きい
○ 表現コミュニケーションの難しさ			
13	動画で観察される内容(場面/行動) : 帰宅場面/どのようにして伝えたらいいかわからない 事業所モデルの観察内容(場面/行動) :		中程度
○ 意味/抽象的な言語の理解、具体的で字義通りの解釈			
14	動画で観察される内容(場面/行動) : 食事場面/エコラリアで反応 事業所モデルの観察内容(場面/行動) :		中程度
○ 遅延する処理速度(遅延性エコラリア・理解と行動のタイムラグ)			
15	動画で観察される内容(場面/行動) : 食事場面/エコラリアで反応 事業所モデルの観察内容(場面/行動) :		中程度
社会的認知(人とかかわり方の理解の困難)		解説	二ードの 大きさ
○ 対人相互作用の開始/維持の難しさ			
16	動画で観察される内容(場面/行動) : 外出・食事場面/周囲で起きていることへの関心が薄い 事業所モデルの観察内容(場面/行動) :		大きい
○ 他者の視点を取ることの困難			
17	動画で観察される内容(場面/行動) : 全般/相手の立場を推測する行動が見られない 事業所モデルの観察内容(場面/行動) :		中程度
○ 社会的ルールを理解が不十分			
18	動画で観察される内容(場面/行動) : 外出/赤信号でも渡ろうとしてしまう 事業所モデルの観察内容(場面/行動) :		大きい
○ 他者の感情を理解し、対応するのが難しい			
19	動画で観察される内容(場面/行動) : 全般/人から期待されていることを理解することが困難 事業所モデルの観察内容(場面/行動) :		大きい

## ○自閉症における行動と感情の調節の違い

感覚の問題		解説	二ードの 大きさ
○ 感覚情報に対する反応性の過剰さ、または過少さ			
20	動画で観察される内容(場面/行動) : 事業所モデルの観察内容(場面/行動) :		
○ オープンスペース(見えてしまう環境)への対処の困難			
21	動画で観察される内容(場面/行動) : 外出/信号機が見えてしまうと黄信号でも渡ろうとする 事業所モデルの観察内容(場面/行動) :		大きい
不安、うつ症状の兆候		解説	二ードの 大きさ
○ 繰り返し質問をする			
22	動画で観察される内容(場面/行動) : 事業所モデルの観察内容(場面/行動) :		
○ 環境内の変更または予期しない出来事の影響を受ける			
23	動画で観察される内容(場面/行動) : 事業所モデルの観察内容(場面/行動) :		

氷山モデルワークシート	
課題となっている行動	
本人の特性 学習スタイル	環境・状況 学習スタイルが弱みになる環境・状況
暗黙的学習が難しい(見て学習することが得意)	
1	
2	
3	
独特な注意(情報の選択の困難さ)	
4	
5	
6	
実行機能(情報の組織化と時間管理の困難)	
7	
8	
9	
10	
11	
言語と聴覚処理(ことばの理解と表現)	
12	
13	
14	
15	
社会的認知(人とのかかわり方の理解の困難)	
16	
17	
18	
19	
感覚の問題	
20	
21	
不安、うつ症状の兆候	
22	
23	
必要なサポート(学習スタイルが強みになる工夫)	

このワークシートはTEACCH Autism Programを参考しました(2023.10.04作成)

モデル利用者アセスメントパッケージ						使い方	
<b>(1)認知レベル・やり取り</b>						◎ ○ △ ×	コメント・特記事項・特異的な行動
認知	1	形、色の区別(弁別)ができる					
	2	絵、写真の区別(弁別)ができる					
	3	自分の名前の区別(弁別)ができる					
	4	文字、数字の区別(弁別)ができる					
	5	1～10の数を数える					
	6	1ケタの足し算が自立					
	7	硬貨の区別と金額がわかる					
	8	時計(アナログ/デジタル)が読める					
	9	月間/週間カレンダーがわかる					
やり取り	10	じゃんけんのルールがわかる					
	11	信号を理解し守る					
	12	注意書き(文字/絵)を見て、守ることができる					
	13	身近な物(時計や帽子など)答えることができる					
	14	自分から挨拶ができる。聞かれたら自己紹介ができる					
	15	簡単な日常会話が成立する(3分以上)					
<b>(2)職業スキル・職業行動</b>						◎ ○ △ ×	コメント・特記事項・特異的な行動
職業スキル	16	絵・数字カードの仕分け					
	17	シュレッダーの使用					
	18	紙を半分に折る					
	19	ハサミで紙を切る					
	20	ドライバーの使用					
	21	空き缶つぶし(足や機械で)					
	22	パソコンでの文字入力					
移動	23	ひとりで移動(屋内)					
	24	ひとりで移動(事業所の周囲)					
	25	交通機関の利用					
職業行動	26	監督者の指示に従う					
	27	日課や予定・変更に従う					
	28	毎日通所する、遅刻をしない					
<b>(3)コミュニケーション</b>						◎ ○ △ ×	コメント・特記事項・特異的な行動
表出	29	手を引っ張る・泣き叫ぶなど					
	30	ジェスチャー・サイン					
	31	写真・絵カード					
	32	話し言葉(単語程度)					
	33	話し言葉(二語分以上)					
	34	尿意・便意を伝える					
	35	自発的に自分の名前を言う					
	36	伝言を伝えることができる					
理解	37	電話をかけることができる					
	38	実物を理解する					
	39	ジェスチャー・サイン					
	40	写真・絵カード					
	41	簡単な文字(漢字・ひらがな・カタカナ)					
	42	話し言葉(単語程度)					
	43	話し言葉(二語分程度)					

(4) 身辺自立・家事活動			◎	○	△	×	コメント・特記事項・特異的な行動
身辺自立	44	トイレ(小)に一人で行ける					
	45	トイレ(大)に一人で行け、ふき取りができる					
衛生	46	生理の手当(女性)・髭剃り(男性)ができる					
	47	顔を洗うことができる					
	48	歯を磨くことができる					
	49	入浴・体を洗うことができる					
	50	散髪に行くことができる					
	51	着替えができる					
	52	自分で衣類が選べる					
	53	身だしなみ・整容ができる					
	食事	54	簡単な買い物ができる				
55		簡単な調理ができる					
56		食事が問題なく取れる					
57		テーブルマナーが意識できる					
58		下膳・配膳ができる					
59		食器洗いができる					
掃除	60	テーブル拭きができる					
	61	窓拭きができる					
	62	トイレ掃除・風呂掃除ができる					
	63	掃除機がけができる					
洗濯	64	ゴミ捨てができる					
	65	洗濯機(全自動含む)が使用できる					
	66	洗濯物干しができる					
	67	洗濯物畳みができる					
	68	衣類, タオルの整頓・片付けができる					
(5) 興味関心・余暇活動			◎	○	△	×	コメント・特記事項・特異的な行動
好き	69	褒められることに反応できる					
	70	身体への接触に良い反応をする					
協調	71	ゲームやルールのある遊びに参加できる					
	72	友だち・家族と、5分以上遊ぶことができる					
感覚	73	好きな感覚遊び・感覚グッズがある					
	74	テレビ・ビデオを観ることができる					
余暇	75	音楽を聴いて過ごすことができる					
	76	絵や字を描くことを好む					
	77	工作や手仕事を好む					
	78	雑誌やカタログを読むことを好む					
	79	テレビゲームやパソコンを好む					
嗜好	80	好きな食べ物、飲み物がある					
	81	嫌いな食べ物、飲み物がある					
動機	82	お金をもらう、お金を集めることが好き					
	83	買い物やイベントが好き					
活動	84	好きな運動、スポーツがある					
	85	嫌いな運動、スポーツがある					
感覚	86	不快な刺激(音、におい、肌触りなど)に耐える					
	87	苦手な環境(人混み、騒音、天気など)に耐える					
外出	88	外出する活動, 習慣がある					

## 活動参加の支援計画書

氏名: \_\_\_\_\_ 作成者: \_\_\_\_\_ 作成日: / /

●支援目標(具体的な短期:行動目標・長期:状態目標)

○支援に活用する道具/活動の場面

目標設定は次の設定基準によること

- 興味関心とスキル      発達の適切性(めばえスキルへのアプローチ)      機能性(役立つ目標か)  
自立性(可能な限り一人でできる目標か)      般化(他の場面・人での応用)を目指しているか  
保護者との協働と優先順位

## 実施計画と経過

	1回目	2回目	3回目
予告、移動手段			
時間の工夫 スケジュール提示			
場所の工夫 場面設定			
方法の工夫 取り組み方の支援			
見え方の工夫			
教え方			
指示の出し方、応え方、 タイミング、指示書の使い方など			
結果と修正点			
見て分かる工夫の 改善プラン			

方法の工夫 : リスト・指示書 マッチング 左から右、上から下 終了箱 タイマー 他  
 見え方の工夫: 具体的な指示(文字 数字 色・マーク 絵・写真 見本 ジグ 矢印)  
まとめる組織化(容器 仕切り 配置) はっきりと明瞭化(ハイライト) 他

このワークシートはTEACCH Autism Programを参考しました(2023.10.04作成)

## 課題分析シート

氏名: \_\_\_\_\_ 作成日: \_\_\_\_/\_\_\_\_/\_\_\_\_ 作成者: \_\_\_\_\_  
 目標: \_\_\_\_\_  
 場所: \_\_\_\_\_ 期間: \_\_\_\_年 \_\_\_\_月 \_\_\_\_日～ \_\_\_\_月 \_\_\_\_日

	ステップ	/	/	/	/	/	備考・コメント
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
	実施者/記録者						
評価 のま と め		見て分かる工夫					
		教え方					
		その他の工夫・配慮					

## 使用する記号

このワークシートはTEACCH Autism Programを参考しました(2023.10.04作成)

○=合格 P=手添え

△=芽生え M=モデル

×=不合格 G=ジェスチャー、指差し

V=声かけ

+=自立(すでに獲得されているスキル)





# 【スキヤタープロット】

受講番号： \_\_\_\_\_

観察する行動：

	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
5:00													
6:00													
7:00													
8:00													
9:00													
10:00													
11:00													
12:00													
13:00													
14:00													
15:00													
16:00													
17:00													
18:00													
19:00													
20:00													
21:00													
22:00													
23:00													
24:00													
1:00													
2:00													
3:00													
4:00													

## 機能的アセスメントのまとめ

問題が起きやすい状況	①いつ 時間・活動				
	直前のきっかけ				
	②どこで 場所				
	③だれに 相手				
④どんな行動					
⑤行動に対する周囲の 反応・対応					
⑥その対応・対応の後の 対象者の様子					
⑦どうしたら止むか		落ち着く方法・場所・所要時間			
⑧その他関連している こと		学習スタイル・睡眠・食事・病気・服薬・疲労・騒音・活動の内容・集団の人数・ 相性の悪い人等			
⑨特別な興味・関心		好きな活動・得意なこと・もらって励みになる物・人との関わり（ことばかけ・ 儀式的なやりとり・一緒に活動する・買い物や外出）・こだわっていること・休 憩等を具体的に：			
⑩嫌いなこと・人との かかわりで苦手なこと		過敏に反応すること、特定の物、活動、人、ことば等			
⑪課題行動が起きにく い状況		課題行動が起きにくい時間、活動、人、関わり方等			
⑫問題が起きやすい状 況と起きにくい状況の 比較		（例）「静かな方が起きにくい」「人が多いときの方が起きやすい」など			
MASの結果		物や活動の要求	注目や関わりの要求	回避や阻止	感覚刺激の獲得
ABC記録の結果		予想される機能			

# ストラテジーシートver.4

・

## A：事前

いつ、どこで、誰と、何をしているとき？  
生じないときがあれば赤字で記入

・  
・  
・

## B：行動

具体的に記入

・  
・  
・

## C：事後

要求 注目 阻止回避 自動強化  
その他

・  
・  
・

## 事前の工夫

起こらなくてすむために  
望ましい行動が起こるために

・  
・  
・  
・  
・  
・  
・

## 望ましい行動

指示に従うスキル  
コミュニケーションスキル  
余暇スキル その他

・  
・  
・  
・

## 強化の手立て

ほめことば ごほうび 好きな活動  
トークシステム その他

・  
・  
・

## 起こってしまったときの対応

成功に導く手立て クールダウンの手立て

・  
・  
・

それでも困った行動が生じた場合

# タイトル

所属  
発表者氏名

## 1.施設紹介

- 事業所名
- 利用者の人数
- 職員の人数
- 特徴 など

## 2.対象者の概要

健康状態 ・ 疾病 ・ 疾患

### 心身機能・構造

- ・ 診断名
- ・
- ・

### 活動・参加（※ICFシステム項目・補足情報参考）：QOLに影響している項目を選定

- 【強み，支援の維持調整】
- 【支援の修正，支援の考案】
- ・ ICFシステム項目【d●●】  
困難あり・なし：  
支援あり・なし：  
効果大・小：
- ・ ICFシステム項目【d●●】  
困難あり・なし：  
支援あり・なし：  
効果大・小：

### 環境因子（※ICFシステム項目・補足情報参考）：QOLに影響している項目を選定

- ・
- ・
- 促進環境：
- 阻害環境：

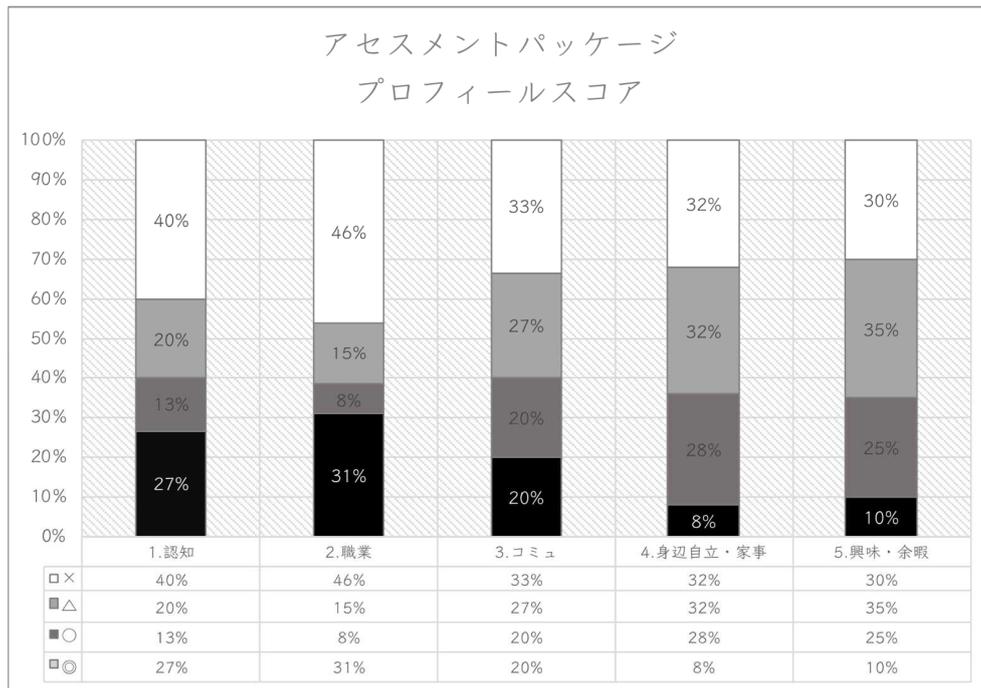
### 個人因子

- ・ 年代 ・ 性別 ・ 障害支援区分
- ・ 行動関連項目●点
- ・ 発達年齢●歳●か月

## 3.事前評価（アセスメント）

- ICFシステムによる生活全体の快適さの評価
  - 日々の活動や参加が快適なものとなっているか？
  - 現在の生活環境は快適な生活を支えているか？
- 学習スタイルを考慮した「特性と環境」の評価
  - 支援構築に際して配慮すべき特性（アセスメントパッケージ）
  - 配慮すべき特性を考慮した環境調整の状況（冰山モデルシート）
- 機能的アセスメントによる課題行動と環境要因の評価
  - ABC記録
  - スキャッタープロット

# アセスメントパッケージ



# 冰山モデルシート

冰山モデルワークシート	
課題となっている行動	
本人の特性 学習スタイル	環境・状況 学習スタイルが弱みになる環境・状況
暗黙的学習が難しい（見て学習することが得意）	
1	
2	
3	
独特な注意（情報の選択の困難さ）	
4	
5	
6	
実行機能（情報の組織化と時間管理の困難）	
7	
8	
9	
10	
11	
言語と聴覚処理（ことばの理解と表現）	
12	
13	
14	
15	
社会的認知（人とかかわり方の理解の困難）	
16	
17	
18	
19	
感覚の問題	
20	
21	
不安、うつ症状の兆候	
22	
23	
必要なサポート（学習スタイルが強みになる工夫）	

# ABC記録

【ABC記録シート】

受講番号： \_\_\_\_\_

記録日： \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日 ~ \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

ヒント	直接のきっかけ、周囲の状況（いつ、どこで、だれに対して）、行動直前の対象者の状態など	対象者の行動を具体的に書く。「パニック」「イライラした」などは具体的でないのでNG	行動に対して周囲はどのように対応したか。周囲の対応に対して、対象者の行動はどう変化したか。
-----	--	---	---

日	時間	事前の状況	対象者の行動	事後の状況

# スキヤッタープロット

【スキヤッタープロット】

受講番号： \_\_\_\_\_

観察する行動：  \_\_\_\_\_  \_\_\_\_\_

	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
5:00													
6:00													
7:00													
8:00													
9:00													
10:00													
11:00													
12:00													
13:00													
14:00													
15:00													
16:00													
17:00													
18:00													
19:00													
20:00													

## 4. 支援方針・内容

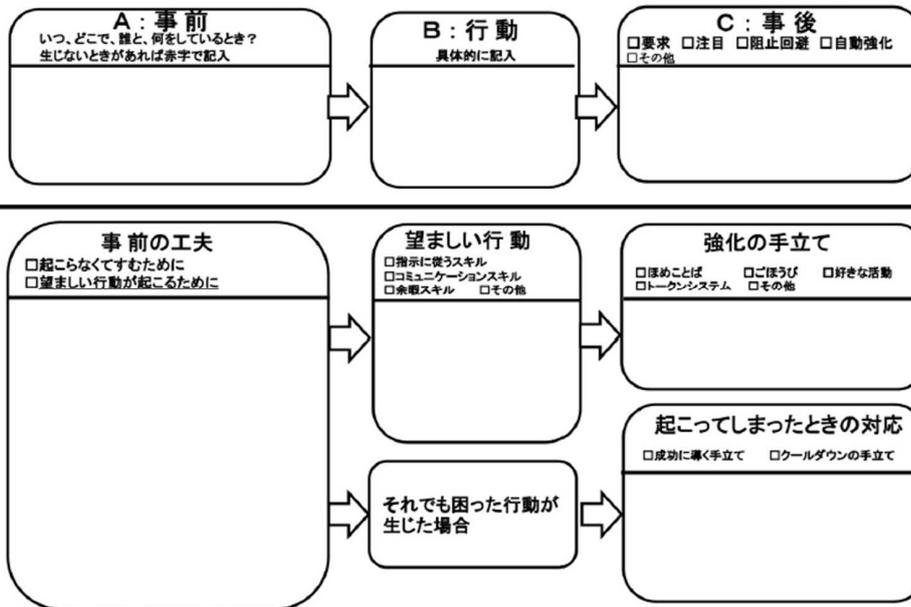
- 生活の快適さを支える環境調整支援（ICFシステム）
  - 日々の活動と参加が快適となる合理的配慮の提供
  - 好影響環境の充実、悪影響環境の除去・低減
- 学習スタイルを考慮した環境調整支援
  - 活動と参加の支援計画書
- 行動の機能を考慮した課題行動への環境調整支援
  - ストラテジーシート

## 活動参加の支援計画書

活動参加の計画書			
氏名:	作成者:	作成日:	/ /
●支援目標（具体的な短期：行動目標・長期：状態目標）			
○支援に活用する道具/活動の場面			
目標設定は次の設定基準によること			
<input type="checkbox"/> 興味関心とスキル		<input type="checkbox"/> 発達の適切性（めばえスキルへのアプローチ）	
<input type="checkbox"/> 自立性（可能な限り一人でできる目標か）		<input type="checkbox"/> 機能性（役立つ目標か）	
<input type="checkbox"/> 保護者との協働と優先順位		<input type="checkbox"/> 一般化（他の場面・人での応用）を目指しているか	
実施計画と経過			
	1回目	2回目	3回目
予告、移動手段			
時間の工夫 スケジュール提示			
場所の工夫 場面設定			
方法の工夫 取り組み方の支援			
見え方の工夫			
教え方			
指示の出し方、応え方、タイミング、指示書の使いなど			
結果と修正点			
見て分かる工夫の改善プラン			
<small>方法の工夫 <input type="checkbox"/>リスト・指示書 <input type="checkbox"/>マッピング <input type="checkbox"/>左から右、上から下 <input type="checkbox"/>線路 <input type="checkbox"/>タイマー <input type="checkbox"/>他          見え方の工夫 <input type="checkbox"/>具体的な指示 <input type="checkbox"/>文字 <input type="checkbox"/>数字 <input type="checkbox"/>色・マーク <input type="checkbox"/>線・写真 <input type="checkbox"/>見本 <input type="checkbox"/>シテ <input type="checkbox"/>矢印  <input type="checkbox"/>ほかの人の模倣化 <input type="checkbox"/>言葉 <input type="checkbox"/>仕切り <input type="checkbox"/>配置 <input type="checkbox"/>はじりりな模倣化 <input type="checkbox"/>ハイライト <input type="checkbox"/>他          このワークシートはTEACCH Autism Programを参考しました（2023.10.04作成）</small>			

# ストラテジーシート

ストラテジーシートver.4



© 2015 Masahiko INOUE

## 5. 支援結果

- 課題分析シート
- 記録（スキッタープロット 等）
- 考察（改善の視点）

# 課題分析シート

課題分析シート						
氏名: _____	作成日: ____/____/____	作成者: _____				
目標: _____	場所: _____		期間: ____年 ____月 ____日～ ____月 ____日			
	ステップ	/	/	/	/	備考・コメント
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
評価 のま とめ	実施者/記録者					
		見て分かる工夫				
		教え方				
		その他の工夫・配慮				
<small>使用する記号            ○=合格 P=手添え            △=芽生え M=モデル            ×=不合格 G=ジェスチャー、指差し            V=声かけ            +=自立 (すでに獲得されているスキル)</small>						

# スキヤッタープロット

【スキヤッタープロット】												
受講番号: _____												
観察する行動: <input type="checkbox"/> _____ <input type="checkbox"/> _____												
	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
5:00												
6:00												
7:00												
8:00												
9:00												
10:00												
11:00												
12:00												
13:00												
14:00												
15:00												
16:00												
17:00												
18:00												
19:00												
20:00												

## 6. 研修を通じた対象者の変化

健康状態 ・ 疾病 ・ 疾患

### 心身機能・構造

- ・ 診断名
- ・
- ・

活動・参加（※ICFシステム項目・補足情報参考）：QOL向上に関わる支援実施・支援内容変更を記載

- 【強み, 支援の維持調整】
- 【支援の修正, 支援の考案】
- ・ ICFシステム項目【d●●】  
困難あり・なし：  
支援あり・なし：  
効果大・小：
- ・ ICFシステム項目【d●●】  
困難あり・なし：  
支援あり・なし：  
効果大・小：

環境因子（※ICFシステム項目・補足情報参考）：QOL向上に関わる環境支援を記載

- ・
- ・
- 促進環境：
- 阻害環境：

### 個人因子

- ・ 年代性別 ・ 障害支援区分
- ・ 行動関連項目●点
- ・ 精神年齢●歳●か月

## 6. 研修を通じた支援者の変化

- ・ 受講者の変化（自身の変化や受講した感想など）
- ・ 支援チームの変化（根拠に基づく連携支援の実現など）
- ・ 事業所の変化（管理者が記入）

## 7. 今後の取り組み

- 事業所の取り組み
- 地域との連携